南山大学大学院
博士（総合政策）論文

北朝鮮におけるテレビ報道の政治的役割とその変容
～北朝鮮社会の変化と金正恩の統治スタイル～

2022 年 7 月 10 日

鴨下　ひろみ

目　　次

序　章 ……1
１．研究目的 ……1
２．先行研究 ……2
３．研究対象と方法 ……6
（１）「20 時報道」の定量分析 ……6
（２）ニュース映像の定性分析 ……7
（３）論文の構成 ……8

第１章　北朝鮮におけるメディア体系と「20 時報道」……10
第１節　放送体系と報道指針 ……10
（１）北朝鮮放送の成立 ……10
（２）北朝鮮放送の機能と役割 ……11
（３）放送の統制システム ……13
（４）報道指針 ……15
第２節　「20 時報道」の政治的役割 ……16
第３節　「20 時報道」の定量分析 ……18
（１）体制礼賛報道 ……20
（２）成果報道 ……24
（３）報道割合の変化 ……27
第４節　「20 時報道」の定量分析と報道の変化 ……30

第２章　伝統による権力補填期（2011～13 年） ……32
第１節　北朝鮮社会の変化と金正恩後継 ……32
第２節　後継の正統性を可視化するための映像活用……33
（１）金日成のカリスマ性活用期 ……33
①金日成生誕 100 周年の肉声演説（2012 年 4 月） ……35
②平壌・綾羅人民遊園地視察（2012 年 7 月） ……35
③平壌・倉田通りの住宅視察（2012 年 9 月） ……37
④平壌・紋繍水遊び場視察（2013 年 10 月） ……39
（２）試行錯誤、幹部恫喝と人民大衆第一主義の併用スタイルの芽生え……41
①映像利用の試行錯誤 ……41
②神秘現象報道の消失 ……44
③幹部恫喝と人民大衆第一主義の結合 ……46
第３節　映像メディア分析による伝統による権力補填期の政治的意味……47

第３章　後見人体制崩壊と政権独自性の醸成期（2013～16 年）……50
第１節　指導者イメージの転換と幹部・大衆との関係性変化　……50
第２節　権威の可視化と現実直視を示す映像活用　……51
（１）後見人体制の崩壊（張成沢粛清報道 2013 年 12 月）　……51
（２）現実直視報道の登場　……54
①住宅崩壊事故と幹部謝罪（2014 年 5 月）　……54
②杖をつきながらの現地指導報道（2014 年 10 月）……54
（３）幹部恫喝統治と人民大衆第一主義の定着　……56
①スッポン工場での激怒報道（2015 年 5 月）　……57
②党創建 70 周年の金正恩演説（2015 年 10 月）　……58
第３節　映像メディア分析による政権独自性醸成期の政治的意味……59

第４章　金正恩統治スタイルの確立期（2016～21 年）……63
第１節　金正恩の権威向上と人民大衆第一主義の深化　……63
第２節　業績誇示と国内結束のための映像活用　……64
（１）平時体制への移行と映像活用　……64
①36 年ぶりの党大会報道（2016 年 5 月）……64
（２）政策プロセスの公開と対外宣伝　……66
①核実験・ミサイル発射報道　……66
②米朝首脳会談報道（2018 年 6 月/2019 年 2 月/7 月）……71
（３）金正恩による象徴操作と権威補填からの脱却　……76
①金日成との一体化、「苦難の行軍」再現（2019 年 10 月/12 月）……76
（４）第 8 回党大会開催と権威の制度化の進展　……78
①定例行事としての党大会報道（2021 年 1 月）……78
②伝統による権威補填からの脱却　……80
③現実直視と幹部への役割分担　……81
第３節　映像メディア分析による金正恩統治スタイル確立期の政治的意味……82

終　章　……85
１．北朝鮮社会の変化と金正恩の統治スタイル　……86
２．金正恩の映像活用の現状と方向性　……90

参考文献　……93

グラフ及び表のリスト

第１章
グラフ１　金正恩の動静／偉大性報道件数の推移
グラフ２　金正恩礼賛報道件数の内訳別推移
グラフ３　金正恩と金日成・金正日の礼賛報道の比較
グラフ４　記念日のある週での金正恩と先代礼賛の比較
グラフ５　記念日のない週での金正恩と先代礼賛の比較
グラフ６　金正恩時代の成果報道件数の推移
グラフ７　Ⅰ期（2012～13 年）の「20 時報道」のニュース項目の割合
グラフ８　Ⅱ期（2014～16 年５月）の「20 時報道」のニュース項目の割合
グラフ９　Ⅲ期（2016 年５月～19 年）の「20 時報道」のニュース項目の割合
グラフ 10　成果報道件数の比較
表１　新年の辞スローガン（2013～19 年）

第２章
表 2. 綾羅人民遊園地関連報道（2012 年７月）
表 3. 倉田通り住宅視察報道（2012 年９月）
表 4. 紋繍水遊び場関連報道（2013 年 10 月）
表 5. 牡丹峰楽団示範公演報道（2012 年７月）
表 6. 万景台遊戯場視察報道（2012 年５月）

第３章
表 7. 張成沢粛清報道（2013 年 12 月 9～13 日）
表 8. 杖つき視察報道（2014 年 9～10 月）
表 9. スッポン工場激怒報道（2015 年 5～6 月）

第４章
表 10. 2016 年党大会報道の内訳（5 月 6～16 日）
表 11. 核実験の年代別報道内容
表 12. 主なミサイル実験に関連した報道の比較
表 13. 2018～19 年米朝首脳会談の報道比較
表 14. 第 2 回米朝首脳会談報道内容の推移（2019 年 2 月 24 日、27～3 月 8 日）
表 15. 第 3 回米朝首脳会談報道内容（2019 年 7 月 1～2 日）
表 16. 金正恩白頭山登頂報道の比較
表 17. 金正恩白頭山登頂報道とその意味合い
表 18. 第 8 回党大会報道総数（2021 年 1 月 9～18 日）

序　章

１．研究目的

2011 年 12 月に金正日が死去し金正恩政権が事実上発足して以来、金正恩は父親の金正日とは全く異なる手法で政権運営を進め、自身の権力基盤を固めた。金正日は大衆の前に出ることを好まず、常に隠遁的かつ権威主義的な指導者であったが、金正恩は政権発足直後から現地指導に夫人を同伴して住民らと触れ合う姿を積極的に公開し、金正日とは対照的な姿を示したのである。後継当初、金正恩は金日成の風貌や政治スタイルを模倣し、自身の正統性や政権基盤の強化に祖父のカリスマ性を利用して、若く親しみやすい指導者のイメージを住民に浸透させた。その一方で、2013 年末に叔父の張成沢を突然粛清し、自身の政策遂行の妨げとなる勢力を容赦なく排除する姿勢を鮮明にしつつ、徐々に金日成、金正日の威光からの脱却を進めた。また、「革命と建設のすべての問題を軍事先行の原則で解決し、軍隊を革命の柱にする」[1]ことを謳った金正日の「先軍政治」に終止符を打ち、金日成時代のように党が全ての機関を指導する体制への回帰を図った。2016 年 5 月には 36 年ぶりの開催となる第 7 回党大会の開催を成功させ、2021 年には第 8 回党大会を開催することで、かつての党規約通りに 5 年に一度の開催を定例化し、党による統治の制度化を進めた。

政権基盤の強化の傍ら、金正恩は、核開発と経済再建を並行して進める並進路線を掲げ、米本土に到達可能な大陸間弾道ミサイル（ICBM）の発射に成功したとして 2017 年に核ミサイル開発の完了を宣言した。朝鮮半島の軍事的緊張が高まる中、金正恩は 2018 年に入ると対話路線に転じ、中国や韓国との首脳会談を経て、史上初の米国大統領との直接交渉にまでこぎつけた。北朝鮮メディアは一連の動きを大々的に報じたが、その報道ぶりは金日成・金正日の時代に比べて大きく変化した。後述するように、金正恩以前は最高指導者の動静に関するテレビ報道は定時ニュースで１～2 回、写真を使って報じられ、映像の公開は数カ月後の記録映画を待つのが通例だった。しかし、金正恩の動静は早ければ当日に映像が公開され、また一定期間に集中して繰り返し放映される形式が定着したのである。また、高画質のハイビジョン放送への移行に伴いデジタル化が進み、CG 画面やドローンなど最新の技術も導入され、テレビ映像の現代化が図られた。こうした技術は最高指導者の宣伝扇動活動にも駆使され、金正恩の業績誇示による権威向上や愛国心・忠誠心の鼓舞、対外宣伝へと活用された。さらには、これまで北朝鮮が報じてこなかった政策決定のプロセスが公開され始め、体制にとって不利益と見られる情報や、最高指導者の健康状態に関する情報についても、映像付きで公開するケースが見られるようになった。

ではなぜ、金正恩時代になって北朝鮮の映像メディアによる報道ぶりが大きく変化したのか。要因として技術の向上や、金正恩の個性などが挙げられるが、本研究では「北朝鮮社会の変化に対応するために報道ぶりに変化が生じたのではないか？」との観点から、北朝鮮の報道に現れた映像の変化を読み解いていく。北朝鮮は最高指導者である首領、党、人民が社会政治

[1]『労働新聞』2002 年 9 月 17 日付

的生命体として一体化する形で、高度に管理化された政治社会システムを構築してきた。権威主義体制とはいえ政権交代が制度化されているロシアや中国とは違い、北朝鮮では選挙や世論によって政権交代を強いられることもない。にもかかわらず、北朝鮮の政権が社会の変化に対応しなければならなかったのは、社会主義陣営の崩壊と東欧社会主義の政治改革を機に、北朝鮮の最高指導者が世論を畏れるようになったためである。政治変動においては世論の離反が政権を揺さぶり、最後の局面では軍の動向が趨勢を左右することとなった。体制崩壊の危機に対応するため、金正日は軍と一体化し、政治・外交・経済・安全保障のすべての分野を指導する先軍政治を選択した。先軍政治はクーデターなど軍の動向を管理すると同時に、軍を国民の側につかせず国民世論が実質的な力を持ち得なくする、ある種の危機管理体制として機能したのである[2]。

だが、金正恩後継にあたって金正日が準備したのは危機管理体制としての先軍政治ではなく、党が国家、軍を指導する本来の社会主義体制であった。金正日は指導者としての経験が浅く、リーダーシップが不足する金正恩が先軍政治を継承すれば、軍に取り込まれると懸念し、7人の後見人で支える体制を整えた。党が主導する体制の下では、先軍政治に代わる危機管理システムが必要となる。北朝鮮のメディアは従来、体制の優位性宣伝と指導者の神格化、思想教育と大衆動員、対外宣伝などの役割を担ってきた。メディアが指導者と社会（大衆）を結ぶ役割を果たしており、指導者の統治の手段として機能してきたのである。金正恩政権下で報道ぶりに変化が生じたのは、北朝鮮社会、人民大衆の意識の変化に合わせた対応を取ることで、世論の離反を防ごうとしたからではないか、との仮説が成り立つ。

以上の問題意識を踏まえて本研究では、金正恩政権下での報道の変化、特に조선중앙텔레비죤（朝鮮中央テレビ）の報道映像に示される変化が、北朝鮮社会の変化にどう対応したのかについて分析・考察する。また、世論を意識した報道の中で、金正恩の指導者像や統治スタイルがいかに変化し、最高指導者、幹部、人民大衆の間の相互関係をどのような形で再構築しようとしたのかを検証する。北朝鮮研究においては、『로동신문（労働新聞）』や조선중앙통신（朝鮮中央通信）といった国営の活字媒体が一次資料として使われてきたが、テレビ報道の映像に着目した研究は韓国を除いては日本や英語圏でもほとんどなされて来なかった。映像は文献に比べ、北朝鮮が内外に発するメッセージをより鮮明かつ具体的なイメージとして喚起させる力を持つ。従って、北朝鮮社会の変化の可能性を映像の変化を通じて検討することは、北朝鮮の実態を読み解くうえで大きな意義がある。

２．先行研究

国交がなく人的往来や情報収集が極度に制限されている北朝鮮についての研究は、北朝鮮の国営メディア報道や、北朝鮮が発行する文献資料の分析が中心となる。北朝鮮の報道や文献は全て朝鮮労働党の管理下に置かれ、徹底した検閲を受けた上で報道・出版される。最高指導者の偉大性や体制の優位性を内外に広く宣伝扇動することを最大の使命としており、党の政策や

[2] 平岩俊司『北朝鮮はいま、何を考えているのか』（NHK 出版、2017）、74 頁

路線をダイレクトに反映している。これまでも朝鮮労働党機関紙である労働新聞、朝鮮中央通信、金日成、金正日、金正恩の著作、演説等の文献分析を通じて、国際政治、外交・安全保障等の観点から北朝鮮について多くの研究がなされてきた。一方で、北朝鮮メディアが公開する映像を対象とした本格的な分析は、ほとんど手つかずの状態が続いている。北朝鮮は近年、衛星放送やインターネットを通じた映像公開に力を入れ、国際社会に向けた宣伝扇動活動を積極的に展開している。映像から北朝鮮の政治的変化を分析することの重要性は、もはや無視することができないと言ってよいだろう。

代表的な文献研究として鐸木昌之[3]は北朝鮮の政治体制となった「首領制」の権力構造を分析し、首領の後継過程とその正統化、イデオロギーと体制神話構築の過程で伝統文化が利用されたことを明らかにした。補章を加えた 2014 年版[4]では、金日成から金正日への後継と先軍政治、その後の金正恩登場と政治体制の変化を通じて、首領制が内包する様々な矛盾と金正恩が直面する課題について指摘している。和田春樹[5]は金日成から金正日への後継過程における北朝鮮を「遊撃隊国家」と位置づけた。伊豆見元[6]は、2012 年 4 月から 2013 年前半までの金正恩体制を分析し、金正恩の権威の不足を如何に補填するかが、この時期の北朝鮮の政策決定を規定していたと説明した。また、その過程で、北朝鮮の国民に朝鮮労働党の政策を説明し教育する手段である労働新聞の署名コラム「政論」に注目し、北朝鮮側の主張と対米政策の根幹を浮き彫りにした。平岩俊司[7]は北朝鮮の内政と国際関係の連続性、並びに相互作用に着目し、金日成、金正日、金正恩の統治スタイルの変化を分析した。また 2017 年の北朝鮮核危機について国際関係の力学を通して説明し、北朝鮮が独裁体制を続け、核ミサイルを保有し続ける独自の論理を読み解いた[8]。このほか、平井久志[9]は金正日の先軍政治による権力維持と、後継への道筋をジャーナリスティックな視点で分析した。いずれも、北朝鮮独自の思想、イデオロギーを歴史的に解き明かし、その行動論理を分析するもので、北朝鮮の政治体制を理解するうえで重要な研究である。

メディア論としては日本における北朝鮮報道、拉致報道に対する分析が主で、日本の北朝鮮報道の偏向性とその要因を考察している。川上和人[10]は、日本における北朝鮮報道の変遷を分析し、情報源が限定され検証が困難な状況の下で、情報操作や世論誘導に至る報道の「からくり」を明らかにした。また、拉致問題をめぐっては木村 洋二 ・板村 英典・ 池信 敬子[11]や、伊藤高史[12]などが過熱した拉致報道の問題点と政治への影響などを明らかにした。このほか、李

---

[3] 鐸木昌之『北朝鮮－社会主義と伝統の共鳴』（東京大学出版会、1992）

[4] 同『北朝鮮　首領制の形成と変容　金日成、金正日から金正恩へ』（明石書店、2014）

[5] 和田春樹『北朝鮮――遊撃隊国家の現在』（岩波書店、1998）

[6] 伊豆見元『北朝鮮で何が起きているのか－金正恩体制の実相』（筑摩書房、2013）

[7] 平岩俊司『北朝鮮－変貌を続ける独裁国家』（中央公論新社、2013）

[8] 平岩、前掲書（2017）、（注 2）

[9] 平井久志『なぜ北朝鮮は孤立するのか　金正日　破局へ向かう「先軍体制」』（新潮社、2010）

[10] 川上和人『北朝鮮報道』（光文社新書、2004）

[11] 木村 洋二 ・板村 英典・ 池信 敬子「『拉致』問題をめぐる 4 大新聞の荷重報道 ： 多元メディアにおける「現実」の相互構築をめぐって」『関西大学社会学部紀要』35 巻 3、2004、89-121 頁）

[12] 伊藤高史「外交政策とメディア、あるいは CNN 効果:「政策:メディア相互行為モデル」の北朝鮮拉致事件におけるメディア:日本政府間関係への応用」（『慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』56 号、2006、101-114 頁）

光鎬[13]の日韓の北朝鮮報道の比較や、金京煥[14]の南北首脳会談報道の分析など特定の事象をめぐったテレビニュースの比較研究が幾つか見られる。しかし、日本では北朝鮮の「報道媒体」そのものに関する研究は多いとは言えない。特に金正恩政権に入って以降のものとしては、労働新聞の報道を分析した大澤文護[15]程度である。大澤は金正恩の動静報道の変化について労働新聞をもとに分析し、金正日時代との比較から、その特徴や傾向を洗い出している。後段では金正恩政権の核ミサイル開発の脅威と日本の危機管理にも論点を展開しているため、金正恩の指導スタイルと報道の関連という焦点が拡散してしまった感がある。北朝鮮のテレビ放送に関する研究としては、山下英愛[16]があるが、北朝鮮のテレビ放送導入期の研究であり、報道内容の分析とは異なる。

一方、韓国では金正日時代から北朝鮮メディア全般の研究や、労働新聞、朝鮮中央テレビの報道に関する研究が続けられてきた。金正恩時代の報道についての研究も増え始めている。김영주（キムヨンジュ）[17]は主に労働新聞を中心に分析したもので、テレビ放送については概括的な説明に留まっている。유선영（ユソンヨン）[18]は、北朝鮮の各報道機関の組織と機能を編成、運用、人材などを網羅的に調査し、その役割を解説した。

放送関連では박우용(パクウヨン)[19]が、北朝鮮の放送について体系的に整理し、北朝鮮放送局の組織及び体系、放送番組編成、放送受信現況などを包括的に紹介し、この分野で欠かすことのできない著作と評価された。황성진・공영일・홍현기・박상주（ファンソンジン、コンヨンイル、ホンヒョンギ、パクサンジュ）[20]は、南北協力の観点から金正日時代の放送部門の現況について技術面も含めて調査した。朝鮮中央テレビの番組に特化した研究としては이주철(イジュチョル)[21]が、朝鮮中央テレビの 10 年間の番組を通じて量的、内容的側面を分析し、朝鮮中央テレビの特性、変化の原因などから、朝鮮中央テレビが北朝鮮住民や社会に与える影響について検証した。

金正恩政権発足後の報道媒体に対する総合的な研究としては고유환· 이주철· 홍민（コユファン、イジュチョル、ホンミン）[22]がある。北朝鮮の新聞、放送、通信、デジタルメディア、言

---

13 李光鎬「ふたつの「北朝鮮」――日本と韓国の TV ニュースにおける北朝鮮報道の内容分析――」（『慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』56 号、2006、59-71 頁）

14 金京煥「韓国・北朝鮮首脳会談に関するテレビ報道の内容分析」（『マス・コミュニケーション研究』59 巻、2001、138-150 頁）

15 大澤文護「金正恩体制形成と国際危機管理への影響、 及び日本の対処方策 －労働新聞の動静報道、脱北者インタビュー分析を基にした考察－」（千葉科学大学博士論文、2017）

16 山下 英愛「北朝鮮のテレビ放送導入に関する一考察：インフラの形成とコンテンツを中心に」（『言語と文化』文教大学、2020、113-132 頁）

17 김영주（キムヨンジュ）『현대북한 언론의 이해』（『現代北韓言論の理解』）（서울: 한울아카데미、1999）

18유선영（ユソンヨン）『북한언론-조직특성과 매체별 현황』（『北朝鮮言論―組織特性と媒体別現況』）（한국언론재단、2000）

19박우용(パクウヨン)『북한방송총람』（『北朝鮮放送総覧』）（コミュニケーションブックス、2014）

20황성진·공영일·홍현기·박상주(ファンソンジン、コヨンイル、ホンヒョンギ、パクサンジュ)『북한 방송통신부문 및 남북방송통신 교류협력 현황 보고서』（『北朝鮮放送通信部門と南北放送通信交流協力の現状』）、정보통신정책연구원、2009

21이주철(イジュチョル)『북한의텔레비전 방송 – 텔레비전 정치와 인민의 갈등』（『北韓のテレビジョン放送～テレビジョン政治と人民の葛藤～』）、（한국학술정보、2012）

22고유환· 이주철· 홍민（コユファン、イジュチョル、ホンミン）『북한 언론 현황과 기능에 관한 연구』（『北韓言論の現状と機能に関する研究』）、（한국언론진흥재단、2012）

論関連の組織の最新状況を網羅的に調査すると共に、北朝鮮のメディア組織の機能と役割について把握した。さらに金正恩政権での報道の変化を洗い出し、北朝鮮社会の変化とメディアの変化の相関関係についても考察した。2012 年までの短期の分析ではあるが、北朝鮮の報道媒体の特性や金正恩政権下での報道の機能を網羅的に理解するのに適している。

英語文献ではBruce Cumings[23]が北朝鮮社会に残る伝統的、儒教的価値観の要素と政治体制の関係を「儒教的コーポラティズム」と規定した。Patrick McEachern[24]は金正日体制の政策決定メカニズムを分析し、体制を支える党、軍、内閣の主要機関を互いに対立させ分裂させて支配していると指摘、権威は中央集権化されても権力は拡散した「ポスト全体主義」と指摘している。Victor Cha[25]はブッシュ政権下で米朝交渉を担当した経験を踏まえ、北朝鮮の3代の指導者のリーダーシップについて考察するとともに、米国の北朝鮮政策について「無関心」と「優先順位の低さ」が北朝鮮を延命させてきたと分析している。Rüdiger Frank[26]は金正日の突然の死去により金正恩への移行が準備不足のまま進められたことを、両者の動静報道の比較や朝鮮中央通信が配信した写真、永訣式の映像などから分析した。Sora Lim and Sunghwah Ko[27]は最高指導者の最も重要な決定事項の一つである挑発のパターンから金日成、金正日、金正恩のそれぞれの特徴を分析し、その違いを浮き彫りにした。メディア研究としては、テキストをコンピューターで自動解析するデーターマイニングの手法で朝鮮中央通信の核関連報道を分析したTimothy S. Rich[28]や、北朝鮮が発行する外国人向けの英字紙「Pyongyang Times」をもとに北朝鮮の対米国、対韓国、対日本報道のレトリックを分析したErdem Güven[29]などがある。また、北朝鮮のテレビ放送やIT事情については、Martyn Williams[30]が専門サイトを通じて最新情勢を報じているが、体系化された研究、分析ではない。

このように北朝鮮のテレビ報道の映像に着目し分析した研究は、韓国を除いては日本や英語圏でもほとんどなされて来なかった。しかし、映像には文献の内容をより具体化し、北朝鮮が内外に示す指導者像や社会のイメージを鮮明に提示する利点がある。例えば、金正恩後継を決定するにあたり、北朝鮮の文献は条件の一つに「高邁な風貌」を挙げたが、それが金日成を指すことは映像が端的に示している。また、映像は人々の感情により強く訴えかけ、影響力も大きいことから、北朝鮮を統治するうえで映像の比重と重要性はこれまで以上に高まっている。朝鮮中央テレビが流す報道映像には、北朝鮮が最も重要視する内容が凝縮されていることから

---

23 Cumings, Bruce, *Korea's Place in the Sun : A Mordan History*, (New York: W.W.Norton& Company, 1997)

24 McEachern, Patrick, *Inside the Red Box : North Korea's Post-totalitarian Politics*, (New York: Columbia University Press, 2010),pp.21-22

25 Cha, Victor., *The Impossible State,* Ecco. Kindle 版, (HarperCollins, 2012)

26 Rüdiger, Frank, "North Korea after Kim Jong Il: The Kim Jong Un era and its challenges", *The Asia-Pacific Journal, Japan Focus, Volume 10, Issue 2, Number 2,* (Jan 2012)

27 Lim, Sora and Ko, Sunghwah, "North Korean Leaders' Personality Reflection on Provocation Patterns: Narcissism and Fear", *Journal of Contemporary Eastern Asia Vol. 19, No.2,* (pp.216-233,2020)

28 RICH, TIMOTHY S.,"Deciphering North Korea's Nuclear Rhetoric: An Automated Content Analysis of KCNA News", *Asian Affairs: An American Review 39,* (pp.73-89, 2012 Taylor & Francis Group, LLC)

29 GÜVEN, Erdem, "The Juche System and the DPR Korea Media as Official Mouthpiece of the Kim Family: Pyongyang Times Newspaper Website Analysis", *Global Media Journal TR Edition, 10 (19)*, (Güz 2019)

30 Williams, Martyn,『North Korea Tech』:URL : https://www.northkoreatech.org/

も、映像に現れた変化に注目し、そこから北朝鮮の政治的、社会的変化を分析・検討することが必要となる。

３．研究対象と方法

本研究では、朝鮮中央テレビの 20 時の定時ニュース（以下、「20 時報道」）を中心に臨時ニュースや、特別報道、録画実況、記録映画なども含め、金正恩の主要動静や金正恩政権下での重要政治イベントとなる米朝首脳会談や核ミサイル実験、党大会などの報道を映像分析の対象とする。金正恩時代は最高指導者が参加する重要政治イベントに関し、映像公開が迅速化され、重要度に応じて定時ニュース以外にも集中的に報道されるようになったためである。これら「20 時報道」と重要政治イベントの報道から金正恩の統治スタイルの変化や、金正恩の独自性を示す映像を精査し、政権運営における金正恩の映像活用戦略を分析する。対象期間は、金正恩が後継者に内定した 2011 年から朝鮮労働党第 8 回大会（2021 年）に至るまでとした。これにより、後継就任前と就任後、第 7 回と第 8 回党大会の映像と政治的変化の比較が可能となるためである。ただし、「20 時報道」の定量分析は金正恩政権が本格始動した 2012 年から、米朝対話の打ち切り期限となった 2019 年末までとした。対象期間にずれが生じたのは、定時ニュースである「20 時報道」に本格的に変化が生じるのは金正日の死後、金正恩政権の発足後であること、また、2020 年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という特殊な事象が発生し、報道にもその影響が及んだことを考慮した。

朝鮮中央テレビの「20 時報道」は北朝鮮が運営するインターネットサイト「우리 민족끼리（わが民族同士）」や「조선의 오늘(朝鮮の今日)」に一定期間掲載されており、それを随時参照した[31]。掲載期間が過ぎたものについてはフジテレビのアーカイブで映像を確認し、内容はラヂオプレスの会員向けサービスである「20 時報道」の項目表、韓国統一省の朝鮮中央テレビの番組編成表を参照した[32]。なお、韓国統一省が運営する北韓資料センター[33]には 2007 年 6 月以降に朝鮮中央テレビで一日に放映された番組が全て収録・保管されており、「20 時報道」についても閲覧が可能である。

（１）「20 時報道」の定量分析

「20 時報道」は北朝鮮の報道が持つ基本的機能である最高指導者の動静、大衆動員、思想教育、対外宣伝などの機能を、映像を伴う形で網羅した、北朝鮮の有力な宣伝扇動手段である。

---

31 우리 민족끼리（わが民族同士）「朝鮮中央テレビ報道」
URL：http://www.uriminzokkiri.com/index.php?ptype=ccentv&stype=2#pos（2022 年 7 月 9 日確認）、조선의 오늘(朝鮮の今日)「革命活動消息」、URL: https://dprktoday.com/videos/category/22 （2022 年 7 月 9 日確認）

32 통일부 북한정보포털（韓国統一省北韓情報ポータル）TV 프로그램 편성표（TV プログラム編成表）2004 年 1 月 1 日～、URL:https://nkinfo.unikorea.go.kr/nkp/theme/listNkTv.do（2022 年 7 月 9 日確認）

33 통일부 북한자료센터（韓国統一省北韓資料センター）、URL:https://unibook.unikorea.go.kr （2022 年 7 月 9 日確認）

「20 時報道」では、北朝鮮の記念日を含む時期とそれ以外とでは、関連報道の量が極端に異ななる。即ち、毎年の記念日には金日成・金正日を中心とした最高指導者の礼賛報道が突出して増加し、それ以外のニュースは減少する傾向を示す。したがって、定量分析においては全期間の「20 時報道」を対象とするのではなく、以下のように記念日を含む週と記念日のない週に分けて、それぞれ 5 週、計 10 週についてサンプルを取り、「20 時報道」の内容を分析することとする。また、記念日の場合、その少し前からイベントを開催し、記念日に向けて雰囲気を高め、記念日の後も一定期間、関連報道が続く。こうした事情から「記念日前日から 1 週間という範囲」を一つの単位とし、この期間における「20 時報道」の項目を集計した。その期間は以下の通りである。

記念日のある週は、①新年の辞が報道される 1 月 1〜7 日、②金正日に対する大元帥の称号授与日 2 月 14 日や金正日誕生日 2 月 16 日を含む 2 月 13〜19 日、③金正恩の党第 1 書記推戴日 4 月 11 日や、金日成誕生日 4 月 15 日が含まれる 4 月 10〜16 日、④建国記念日 9 月 9 日を含む 9 月 8〜14 日、⑤朝鮮労働党創建日 10 月 10 日を含む 10 月 9〜15 日とする。記念日のない週は①1 月 21〜27 日、②2 月 21〜27 日、③3 月 11〜17 日、④6 月 10〜16 日、⑥11 月 18〜24 日とした。

「20 時報道」の分析対象期間は、前述したように金正恩政権が本格始動した 2012 年から米朝対話打ち切りの期限となった 2019 年末までとした。報道の変化が「20 時報道」に実際に表れるのは金正恩政権発足後の 2012 年以降であることと、2020 年に拡大した新型コロナウイルスという特殊要因を排除したためである。また、分析にあたっては、「20 時報道」の主要なニュース項目を北朝鮮が重視する順に体制礼賛報道、成果報道、その他の三つに分類し、各期間におけるそれぞれの回数をカウントする方法を採用した。体制礼賛報道は北朝鮮の最高指導者の偉大性を宣伝するもので、金正恩だけでなく、金日成・金正日の先代指導者も含まれる。体制礼賛報道の内訳は金正恩の動静や国内での礼賛行事、海外での金正恩報道、著作出版、友好国からの祝電や贈物など海外での金正恩礼賛、金日成、金正日をそれぞれ讃えるもの、金日成と金正日を同時に讃えるものに分類した。金正恩政権発足直後からの礼賛報道の推移を先代の礼賛報道と比較することにより、金正恩の権威の向上が礼賛報道にどのような形で反映されているかを確認する。

礼賛報道に継いで北朝鮮が重視するのは、国内外の政治、経済、文化、軍事などの各分野で成し遂げられた成果や業績の向上を模範モデルとして報じる成果報道である。成果報道は金正恩の指導や党の路線の正当性を証明する根拠となると同時に、体制の優位性を宣伝し、大衆動員の役割を果たす。成果報道の推移を年代別に辿り、金正恩政権が成果報道に力を入れる理由を分析する。その他は自国の施策に関する海外での反響、国内での行事開催、政権の決定や声明に関するもの、北朝鮮の立場に対する外国の支持などの報道、外国から北朝鮮への来訪者に関する報道、スポーツ、海外ニュースなどが含まれる。

北朝鮮中央テレビは 1990 年代末からタイの衛星などを使って送出されるようになり、海外でも受信が可能になった。特に金正恩時代に入るとインターネットサイト「우리 민족끼리(我が民族同士)」や「조선의 오늘(朝鮮の今日)」が開設され、朝鮮中央テレビの報道のほか、ドラマや映画、各種番組が掲載されるようになり、北朝鮮が制作した映像物の視聴が身近になった。

（２）ニュース映像の定性分析

上記、定量分析から見た報道の変化と金正恩政権の転機となる出来事などをふまえ、2011 年から 2021 年までの金正恩政権の時期区分を、後に詳述するように以下の３つに仮定した。①後継者に確定した 2011 年から 13 年末の張成沢粛清まで、②2013 年末の張成沢粛清から 2016 年の第 7 回党大会前まで、③2016 年第 7 回党大会から 2021 年の第 8 回党大会までとし、それぞれの時期における重大行事や象徴的な出来事に焦点を当て、そこで使われた映像を詳細に分析する。分析対象には「20 時報道」に加えて、臨時報道、実況録画、記録映画等の映像も含め、宣伝扇動戦略、映像活用戦略の変化を読み解くこととする。「20 時報道」においては、報道量や報道割合の変化を分析の柱としたが、時期区分に沿った映像の分析では、金正恩の政治的転機との関連性を意識し、そうした節目に映像がどのように活用されたかを分析することに重点を置いた。これにより量的変化の推移だけでは十分に捉えきれない、映像活用における試行錯誤の動きなども含めた分析が可能となった。また、映像に現れた指導者像や統治スタイルの変化と北朝鮮社会の変化の関連性を検証し、なぜ報道に変化が生じたのかを読み解いていく。前述のように「20 時報道」分析では対象期間を 2012 年から 2019 年末までとしたが、定性分析では政権発足前の 2011 年から 2021 年第 8 回の党大会までとし、第 7 回党大会との比較を通じた金正恩の統治スタイルの変化に焦点を当てた。これにより、北朝鮮社会の変化と金正恩の統治スタイルの関係、今後の方向性がより明確に示されると考える。

（３）論文の構成

本論文の構成は次の通りである。第 1 章では北朝鮮の放送が持つ独自の放送体系、報道指針などを明らかにした上で、その基本的な機能と役割を確認する。次に朝鮮中央テレビの総合ニュース番組である「20 時報道」の定量分析を通じて、金正恩政権における報道の推移と変化を検証する。「20 時報道」における主要報道項目を①金正恩・金日成・金正日に対する礼賛報道、②各分野での業績・模範事例を紹介する成果報道、③その他に大別し、その報道量の推移、割合の変化を分析する。金正恩政権が重視する報道項目の量的変化を明らかにしたうえで、報道の変化が生じた時期をもとに金正恩政権を①伝統による権力補填期（2011～13 年末：張成沢の粛清まで）、②後見人体制の崩壊と独自性醸成期（2013 年末～2016 年：第 7 回党大会開催まで）、③金正恩体制の確立期（2016 年第 7 回党大会～2021 年第 8 回党大会まで）に分け、時期区分の仮説として設定する。

第 2 章では①の伝統による権力補填期に、金正恩が権力継承を正統化し自身の権力基盤を構築する上で、報道にどのような変化が現れたのかに焦点をあてる。この時期、金正恩は金日成のカリスマ性を利用し住民と積極的にスキンシップを取る映像を積極的に公開したが、なぜそのような手法がとられたのか。その背景にある北朝鮮社会の変化との関係を報道映像をもとに実証的に分析する。第 3 章では②の張成沢粛清から 2016 年の第 7 回党大会開催前までの時期に

ついて考察する。張成沢粛清が異例の形で公開・報道された点に着目し、その意図や背景にある最高指導者、幹部と人民大衆の関係を考察する。また、張成沢粛清以降、金正恩が徐々に独自性を発揮し始めていく過程とその狙いを報道映像から検証する。第 4 章では③の第 7 回党大会から 2021 年の第 8 回党大会までの金正恩の政権運営で、核ミサイル実験や米国との首脳会談、米朝交渉決裂を受けた方針転換などの際に、映像がどのような形で活用されたのかを分析する。本研究では金正恩の権力継承から 10 年の間に北朝鮮のテレビ報道に生じた変化から、北朝鮮の政治的・社会的変化に対する対応を読み解いていく。また、報道の変化が必要とされた要因について考察し、金正恩政権で報道が果たした役割についても明らかにする。併せて映像に示された金正恩の統治スタイルの変化から、指導者・幹部・人民大衆相互の関係性の変化を分析し、金正恩政権の今後の方向性を検討する。

第１章　北朝鮮におけるメディア体系と「20 時報道」

第１節　放送体系と報道指針

（１）北朝鮮放送の成立

北朝鮮における放送はラジオ・テレビ放送の総称で、1945 年 10 月 14 日、金日成の「祖国凱旋歓迎平壌市群衆大会」での演説をラジオで実況中継したのが始まりとされる[34]。日本植民地時代から北朝鮮には主要都市に放送局があり、植民地支配の終了後は北朝鮮がこれらを接収した。しかし、技術や人材が追いつかず、全国的な放送体制が整ったのは 1960 年代後半であった。テレビ放送は 1963 年 3 月 3 日、平壌テレビジョン放送局（現・朝鮮中央テレビジョン、以下朝鮮中央テレビ）の開局を受け、スタートした。その後、1974 年までに全住民のテレビ視聴を可能にする「全国のテレビ化」を推進する。難視聴地域を減らすために放送局を追加で設置するなどして、1970 年代末から 1980 年代初旬にかけ、「全国放送」の目標を一定程度達成したとみられている。金日成生誕 62 年となる 1974 年 4 月 15 日からはカラーによるテレビ放送も始まり、住民への宣伝扇動活動の下地が整えられた[35]。受像機調達の遅れや慢性的な電力不足などによってテレビの普及は送れたが、70 年代後半から 80 年代にかけて増加し、現在ではほぼ 100％の普及率となっている[36]。また、1990 年代末にタイの衛星を通じた朝鮮中央テレビの放映が始まり、アジア全域だけでなく、アフリカ・ヨーロッパ地域にも発信されている[37]。

金正恩時代に入った後の 2013 年 7 月には、報道の開始時間を午後 3 時からに 2 時間早め放送時間が拡大した。さらにデジタル化が進み、2015 年には HD（ハイビジョン）放送、2017 年 12 月には地上波デジタル放送への移行が確認された。注目すべきは 2016 年に IPTV の一種である「網 TV 媒体閲覧機〈망방（網放）〉」サービスが開始されたことである。網放は網放閲覧機を電話回線と高速モデムで国家ネットワークに接続し、閲覧機を TV につないで視聴する。国家ネットワークに加入している機関、企業所、家庭で朝鮮中央テレビなどの放送をリアルタイムで見られるだけでなく、放映済の番組も視聴可能だという[38]。

放送内容でも、金正恩時代に入って外国ドラマや国際スポーツ競技の紹介が増えるなど一定の変化があった。在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）機関紙である朝鮮新報は「最高指導者の活動を動画と共にいち早く伝える習慣が確立されて、重要な国家行事を生中継する機会が多くなった」と分析したうえ「テレビの報道時間を待っている視聴者が増えた」「過去の古いやり

---

34 『조선대백과사전（朝鮮大百科事典）19』、（평양:백과사전출판사　平壌：百科事典出版社）、2000）、68-69 頁

35 황･공･홍･박、前掲書、50 頁、（注 20）　放送略史参照。

36 김창완・임동민・김태은・서소영（キムチャンワン、イムドンミン、キムテウン・ソソヨン）『북한 방송통신 이용실태 조사（北韓放送通信利用実態調査）』）、（정보통신정책연구원：情報通信政策研究院、2019）、31 頁

37 聯合ニュース 2013 年 8 月 13 日付「北朝鮮中央 TV、放送時間増やし……科学プログラムの強化」

38 김･임･김･서、前掲書、41 頁（注 36）

方から脱し、より生き生きとしたニュースを伝えようとする言論の試みは人民の好評を受けている」との評価を伝えている[39]。

（２）北朝鮮放送の機能と役割

金日成は建国直後の 1946 年、報道の役割について「私たちの報道機関は（中略）人々を啓発し、人民大衆を正しい道に導かなければならならない」と語った。また「放送は党の路線と政策を内外に広く解説・宣伝し、人民大衆を革命へと組織・動員する宣伝・扇動手段の一つ 」と指摘した[40]。この金日成の言葉が示すように、北朝鮮における放送の基本使命は、最高指導者の思想や党の政策・指針を宣伝し、それを通じて経済活動を鼓舞し、大衆動員に結び付けることにある[41]。メディアは党や国の主張を代弁する機関として党の強い統制下にあり、失政や汚職、国際社会からの批判など社会主義体制の権威を貶める情報は報道から排除される。これに対し資本主義国家でニュースの価値を構成する要素は、①顕著さ・重要性、②関心事（人間ドラマ）、③対立・抗争、④異常性、⑤タイムリーさ、⑥地理的近さなどが挙げられる[42]。報道機関が政府批判や不祥事の告発などを通じて権力を監視、牽制することにより、第 4 の権力といわれる社会的影響力を持つ点も、北朝鮮とは明確に異なる。

建国当初の北朝鮮はソ連や東欧諸国など他の社会主義国と同様、マルクス・レーニン主義に立脚した言論観を打ち出していた。レーニンは大衆に党の政策を説明し、社会主義革命と建設に有用な手段として放送による宣伝扇動を重視しており、北朝鮮もこれに倣ったのである。しかし、1970 年代に入ると北朝鮮の報道は初期のマルクス・レーニン主義の階級的観点から金日成の主体思想に立脚した形に転換が図られ、独自の変化を遂げ始める。こうした動きは金正日が 1974 年 2 月に党中央委員会第 5 期第 8 回総会で後継者として決定され、金正日が「全社会の金日成化」主導していく中で顕著となっていった[43]。金正日は「組織伝達の迅速性、大衆を先導する呼訴性、戦闘性においてどの宣伝手段も放送に及びません」[44]と述べ、宣伝扇動の手段として特に放送を重視する姿勢を示した。北朝鮮で放送はテレビとラジオの双方を指し、どちらも時間と空間の制限を受けないという特性から、「他の出版報道手段よりも強い伝播力と影響力を持ち、宣伝で大砲のような威力を持つ」、「最も大衆的な宣伝手段」[45]とみなされたのである。金正日は 1974 年 5 月、党の報道出版物は「金日成主義を実現する最も鋭利で威力のあ

---

39 『朝鮮新報』2012 年 5 月 8-9 日、金志永「新しい風が吹く/第 1 委員長の指導術①②」

40 김일성（金日成）「선전일근과의 대화（1956. 3. 1）」（宣伝活動家との対話）、『김일성전집（金日成選集）72』、（평양: 조선로동당출판사）、34 頁

41 前掲『조선대백과사전（朝鮮大百科事典）19』、71-72 頁「朝鮮中央 TV 放送は党員たちと勤労者たちを思想文化的に教養し、主体型の革命家として育て、彼らを革命闘争と建設事業に力強く鼓舞推動し、社会主義建設を早め、人民たちの文化情緒生活を保障するのに大きな役割を果たしている」（注 34）

42 井上康浩『メディアリテラシー』、（日本評論社、2004）、142 頁

43 고유환(コユファン)「김정일의 주체사상과 사회주의론（金正日の主体思想と社会主義論）」、『북한의 사상과 정치（北韓の思想と政治）』、（서울:동국대 안보연구소、1994）、10－20 頁

44 김정일（金正日）「방송은 정치의 중요한 수단이다 – 조선중앙방송위원회 위원장과 한 담화 - 1968 년 3 월 24 일（放送は政治の重要な手段である-朝鮮中央放送委員会副委員長との談話－1968 年 3 月 24 日）」、『주체혁명위업의 완성을 위하여（主体革命偉業の完成のために）』第 1 巻、（평양: 조선로동당출판사、1987）、41 頁

45 『조선대백과사전（朝鮮大百科事典）10』「방송（放送）」、（평양:백과사전출판사、1999）、563 頁

る思想的武器」であり、その基本的使命は「全ての社会成員を真の金日成主義者に作り、全社会を金日成主義の要求通り改造」することだとして、北朝鮮に放送革命を起こすことを宣言した[46]。これにより「全社会の金日成主義化」が放送にも反映され、放送内容も「主体思想」「金日成の革命思想」を内外に広く宣伝するものへと変化したのである。

金正日は主体思想放送事業で重要なのは「主体を立てる（主体性を確立する）こと」としたうえで「放送事業を、わが党の要求とわが国の具体的実情、朝鮮人民の思想感情に合わせて朝鮮式に進めていく」ことが必要だと強調した[47]。中でも放送を総括し主管する朝鮮中央放送委員会には記事の書き方から映像の編集、アナウンサーの話術に至るまで詳細な指示を繰り返し出している。金正日は「放送記者と放送員が思想的に純粋で堅実であってこそ、私たちの放送が党と一緒に呼吸し党の意図どおりに話す党の真の声ということができます」[48]と述べて、放送従事者に対し最高指導者への絶対的な忠誠心と体制擁護と党のプロパガンダに徹することを要求した。この他にも金正日は「放送では政治宣伝と密接に結合し経済宣伝、経済扇動を強化することで、放送宣伝の実効が社会主義経済建設で実際的な成果として現れるようにすべきです」[49]と指摘し、党の路線や政策を実現するための大衆動員に放送宣伝の力を集中することなどを指示している。

このように北朝鮮の放送は、金正日によって組織化・体系化された「体制礼賛のための宣伝扇動」機関として、「大衆的であり、総合的な報道宣伝手段であり、力のある思想文化教養手段であり、放送が党の声であり、また、党は放送を通じて首領様の思想と党の方針を内外に宣伝し、広範な群衆を革命闘争と建設事業へと力強く呼び起こす媒体である」と定義される[50]。また、放送の基本使命は「社会のすべての成員を金日成と金正日に限りなく忠実で、熱烈な金日成主義者に作りあげ、社会を金日成主義の要求どおりに改造し、金日成主義が世界的に広がっていくことに貢献すること」とされる[51]。また、放送の機能と役割については、①「報道的機能」、②「思想教養的機能」、③「組織動員的機能」、④「対外宣伝と外交的機能」、⑤「対敵言論戦機能」の５つが挙げられている[52]。中でも最高指導者の動静とその活動を内外に

---

46 김정일「우리 당 출판보도물은 온사회의 김일성주의화에 이바지하는 위력한 사상무기이다－조선기자동맹 중앙위원회 제 3 기 제 5 차전원회의 확대회의에서 한 결론 - 1974 년 5 월 7 일-（わが党出版報道物は、全社会の金日成主義化に貢献する威力ある思想武器である－朝鮮記者同盟中央委員会第３期第５次全員会議の拡大会議での結論－1974 年 5 月 7 日)」『주체혁명위업의 완성을 위하여（主体革命偉業の完成のために）』、（평양: 조선로동당출판사（平壌：朝鮮労働党出版社）、1987）、127 頁

47 김정일(金正日)「방송사업에서 제기되는 몇가지 문제에 대하여 -조선중앙방송위원회 위원장과 한 담화 1967 년 7 월 30 일-（放送事業で提起される幾つかの問題に対して－朝鮮中央放送委員会委員長との談話 - ）」『김정일선집（金正日選集）』第 1 巻、（평양: 조선로동당출판사、1992）、287 頁

48 김정일(金正日)「중앙방송위원회 사업을 개선할데 대하여- 조선중앙방송위원회 위원장과 한 담화 - 1971 년 6 월 14 일」、「中央放送委員会事業を改善することについて－朝鮮中央委員会委員長との談話－1971 年 6 月 14 日」）、『김정일선집（金正日選集）』第 2 巻、（평양: 조선로동당출판사、1993）、266 頁

49 同上 269-270 頁（注 48）

50 조선중앙방송위원회『방송리론』（朝鮮中央放送委員会『放送理論』）、평양：조선중앙방송위원회、1985（고· 이· 홍前掲書）、51-52 頁（注 22）

51 同上（注 22）

52 백과사전출판사 편、『광명백과사전 7 교육. 언어. 출판보도』（平壌百科事典出版社編『光明百科事典７：教育・言語・出版報道』）평양: 백과사전출판사、2011、558－561 頁。2006 年版では④が「対外宣伝機能」、⑤が「外交的機能」とされていた。

宣伝する報道的機能と国民に最高指導者の教示や党の政策を伝える思想教養的機能、党政策貫徹のための大衆動員の手段としての組織動員的機能はその根幹をなす。

北朝鮮のように独裁的で非民主的な権力が放送内容に干渉し、国営放送を中心にプロパガンダが展開される放送は「独裁主義モデル」[53]に分類される。ロシア・東欧など旧共産圏のほか、中国やベトナム、イランなどが同モデルに該当する。中国では主要メディアが中国共産党の統制下におかれ、党や政府の方針を国民に伝え指導する「喉と舌」の役割を担ってきた。一方で 1978 年の改革開放以降は、テレビ・ラジオへの広告導入や経営改革が進み、政府の見解とは異なる独自の記事を報じるメディアも出始めるなど報道が多様化した[54]。インターネットの普及に伴い民間業者の参入も本格化し、中国版 SNS の利用も飛躍的に進んだ。SNS 上での政府批判や抗議活動の呼びかけなども広がったが、習近平政権に入って規制が強化され、国営メディアによる公式報道以外の情報は発信できなくなりつつある[55]。ロシアではソ連の崩壊後、共産党の統制も検閲もなくなり、西側的な言論の自由が認められた。しかし、プーチン政権誕生後は 3 大テレビ局がプーチン政権の支配下に入り、独立メディアや反体制派への締付けが厳しさを増している[56]。一方、北朝鮮の放送の特徴は何よりも最高指導者の偉大さとその思想を宣伝し、個人崇拝を浸透させる手段として用いられる点にある。このため、「独裁主義モデル」の他の国と比べても情報統制が厳しく、最高指導者や党に対する批判は一切認められず、個人が自由に意見を表明できる世論形成の場も存在しない。また、海外のポータルサイトへの接続や SNS の使用は禁止され、北朝鮮にとって不都合な外部からの情報の流入を徹底して遮断しようとしている[57]。

（３）放送の統制システム

北朝鮮の新聞や放送は朝鮮労働党によって指導され、その徹底した統制下に置かれている。言論媒体の人事・財政・組織上の全ての権限を党が掌握し、党が指揮、統制、監督する中で運営される。党では組織指導部が主に人事部門を統括し、宣伝扇動部は制作内容を中心に統制する[58]。放送部門では文化省の下部機関である朝鮮中央放送委員会が放送全般を管轄し、放送施設運営は内閣の逓信省が担当する。組織上は党と内閣の 2 元体制となっているが、放送委員会は実質的に、朝鮮労働党・宣伝扇動部放送課の指揮・統制・監督の下で運営されている。放送内容や編成業務の決裁は党宣伝扇動部が、放送局と各放送委員会の責任者の人事権は党組織指導部が、それぞれ有する。また、対南放送には統一戦線部も関与している。朝鮮中央放送委員会は 1945 年 10 月、ソ連の「全同盟ラジオ委員会（BPK）」を模倣する形で設置された。ラジオ

---

53 Head.S.W and Spann,T.,et al.,*Broadcasting in America,ninth Edition*,Houghton.Mifflin Company,2001,409-410

54 島崎哲彦・米倉律編著『新放送論』、（学文社、2018）240 頁

55 『人民日報』2021 年 10 月 20 日、「国家网信办专项整治互联网用户账号运营乱象（国家インターネット情報弁公室、ユーザーアカウントの無秩序運用是正」http://politics.people.com.cn/n1/2021/1020/c1001-32258382.html （2022 年 7 月 9 日確認）

56 小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』、（ちくま新書、2021）、84 頁

57 拙著『テレビに映らない北朝鮮』、（平凡社新書、2018）163－164 頁

58 이주철、前掲書、18 頁（注 20）

総局、テレビ総局、文芸総局など三つの部署で構成され、それぞれがラジオや TV などの事業を総括的に管理する。

テレビ放送の主体である朝鮮中央テレビは、日本でいうところのアナウンサーや記者、ディレクター、技術要員ら 2400～2600 人を有する。放送に関わる職員には党員の中でも北朝鮮における階級制度にあたる出身成分と党への忠誠度が高い人材が選抜される。記者や編集者らは金日成総合大学の出身者が選ばれ、タレントや放送番組制作者、カメラマンらは平壌演劇映画大学で養成される。どの職も、学校長の推薦を受けた者を対象に、党宣伝扇動部幹部２課による厳格な思想検討、家庭環境調査を経て任用される。

放送番組は、最高指導者が示した方針に基づき、党宣伝扇動部が月ごとに「報道方向定義書に関する批准書」を作成し、朝鮮中央放送委員会を通じて放送局の各部署が「放送計画」を作成するという流れになっている。放送計画を元に最終的な総合定義書が再び最高指導者に送られ、その決裁を受けて初めて放送が執行される。最高指導者の決裁なしに放送することは不可能で、最高指導者の意図が直接反映される仕組みとなっており、その意味では最高指導者の直接の指揮統制下にあるといえる。放送番組の制作過程では、担当部長や放送委員会副委員長らによる３段階の検閲を受ける。加えて、放送前に 40～50 人態勢で「事故要素」の有無の検閲、宣伝扇動部直属機関である国家出版検閲局から派遣された職員による全編集物の点検―を経る必要がある。最終的には国家出版検閲局による批准を経て、初めて放送が可能となる[59]。検閲の基準は「最高指導者の指示を正確に貫徹したのか」であり、検閲内容は週報として最高指導者に伝えられる。検閲過程で問題となった記者や編集員、担当者は厳重な問責を受けるという[60]。北朝鮮のメディア統制システムと他の社会主義国との最大の相違は、最高指導者がメディアを直接指揮統制する体制が強化された点にある。検閲の基準も「最高指導者の指示」に合うかが最優先されており、その統制システムは金正恩時代も変化していない[61]。

中国でも新聞、出版、テレビ、ラジオ、映画などあらゆるコンテンツが検閲を受けている。放送の規制監督、管理、政策立案は国家広播電視総局（国家ラジオテレビ総局）[62]が統括し、インターネットの規制は国家インターネット情報弁公室がそれぞれ担当する。多種多様なメディアが膨大に存在するため、最高指導者が直接管理するのは物理的にも不可能であり、そうした体制も取られていない。また、ロシアの場合は、憲法で「思想及び言論の自由」を保障し、検閲も禁止されており、クレムリンも当局の報道機関への統制を否定している[63]。ただ、3 大全国テレビ放送局はプーチン政権の直接間接の支配下にあり、政府が報道機関に圧力をかけ、取材を妨害したり、政権を批判したジャーナリストが襲撃される事件が相次ぐなど、報道の自由度が高いとは言えない[64]。

---

59 장해성（チャンヘソン）「북한의 언론 및 방송의 개혁개방 방안」『북한조사연구』（「北韓の言論及び放送の改革開放法案」『北韓調査研究』2 巻 2、1999、70 頁

60 고·이·홍、前掲書、29-30 頁（注 22）

61 고·이·홍、前掲書、28 頁（注 22）

62 NHK 放送文化研究所「中国，機構改革で中央テレビなど 3 局合併へ」、『放送研究と調査』、2018 年 5 月号

63 小田健『現代ロシアの深層　揺れ動く政治・経済・外交』、（日本経済新聞社、2010）、109－118 頁

64 国境なき医師団による 2021 年の「世界報道の自由度ランキング」（https://rsf.org/en/ranking）では 180 カ国のうちロシアは 150 位、中国は 177 位、北朝鮮は 179 位である。ウクライナ侵攻後ロシアは軍事分野で政府見解以外の報道を禁じた。

（４）報道指針

先に述べたように、テレビ放送を含めた北朝鮮のメディアは、最高権力者のための手段として体系化されており、他の社会主義体制、権威主義体制とは異なる特徴を持つ。そうしたシステムを構築し定着させる上で、重要な役割を果たしたのが「党の唯一思想体系確立の十大原則」（以下、唯一思想十大原則）である[65]。北朝鮮の指導者の権威を絶対化し体制を維持するための指針であり、その原則にもとづいて報道がなされている事自体が北朝鮮メディアの特異性を示している。「唯一思想十大原則」は金正日が朝鮮労働党組織担当書記として作成を主導し、1974 年 2 月に公開された。「唯一思想十大原則」は金日成の思想を国民の生活と行動のすべてにおいて規範とし、金日成の権威の絶対化を生活の隅々にまで浸透させることを目的としていた。北朝鮮の政策と制度、組織生活と個人生活の基準であり規則とされ、メディアもすべて「唯一思想十大原則」の規制下に置かれた。金正日時代はテレビの放送編成と番組制作、記事作成にあたっても、最も注意を払うべきは「唯一思想十大原則」とされた[66]。

金正恩は 2013 年 6 月 19 日、「唯一思想十大原則」を改正し、金正恩を党の唯一の指導者としその権威を絶対化する「党の唯一領導（指導）体系確立の十大原則」（以下、唯一指導十大原則）を発表した[67]。改正では「首領」を「党」に、「金日成思想」を「金日成・金正日主義」に置き換え、金正恩への後継を「党の唯一の指導体系を立てる事業」として正当化すると共に、党の権能を強化した。金正恩を党の唯一の指導者とし、金正恩を「党」と呼称することで、その指示と方針貫徹に無条件で従うように求めたのである。中でも、金正恩の指示に従わない個別の幹部を反党的分子と批判し、徹底的に闘争するよう強調している点が目を引く。まず、第 3 条で「金日成権威の絶対化」を「金日成－金正日の権威、党の権威」に変え「党の権威を絶対化し決死擁護しなければならない」とし、金正恩の権威を絶対化し擁護するよう求めた。第 4 条では「金日成・金正日の教示と個別的な幹部たちの指示を厳格に区別し」とあったのを、「党の方針や指示と個別的な幹部たちの指示を厳格に区別し」（第 4 条 7 項）に改正し、金正恩の指示に従わない場合は「反党」「反革命」思想潮流として鋭く闘争し、主体思想の純潔さを固守するよう求めている。

さらに第 6 条では「個別的な幹部たちに対する幻想やごますり、偶像化を排撃し、個別的な幹部たちの職権に押されて盲従盲動したり、非原則的に行動する現象を徹底的に取り除かなければならない」とし、宗派（派閥）的な動きを禁じる内容が新たに加えられた。また、「党の統一団結を破壊し、害を与える宗派主義、地方主義、家族主義をはじめとするあらゆる反党的要素と同床異夢、陽奉陰違（面従腹背）の現象に反対し、闘争しなければならない」として、闘争すべき対象を挙げた。「同床異夢、陽奉陰違（面従腹背）の現象」との表現は、同年 12 月に

---

65 국가정보원편（国家情報院編）『北韓法令集.下:2012.10』- 부록 당의 유일사상체계 확립의 10 대원칙（『北韓法令集下』付録:党の唯一思想体系確立の 10 大原則）서울:국가정보원、2012、933 頁（ソウル:国家情報院 2012）

66 고·이·홍、前掲書、34 頁、朝鮮中央テレビ元記者チャン・ヘソン（2004 年脱北）は放送記事や番組の作成で最も気をつけるべき事項は唯一思想重大原則以外ないと証言している。（注 21）

67 국가정보원편（国家情報院編『北韓法令集.上:2020.10』－참고（参考） 당의 유일적령도체계 확립의 10 대원칙（党の唯一的領導体系確立の 10 大原則）서울:국가정보원、2020、77 頁

張成沢を処刑した際の報道[68]でも使われ、唯一指導十大原則が報道指針として浸透していることを示した。第7条では打破すべき事業様式として官僚主義、主観主義、形式主義と並んでトップに「勢道（権勢）」を挙げ、権力を濫用したり、派閥活動をする党幹部を排斥対象とした。半年後の張成沢粛清の布石とも取れる内容であり、この時期、金正恩にとって「党の唯一の指導体系」を確立することが、切実な政治的要求であったことを窺わせている。新十大原則の発表にあたっては党幹部らと並んで出版報道部門の責任者が集められており、宣伝扇動活動の指針が「唯一思想十大原則」から「唯一指導十大原則」に転換されたことを示している[69]。

第2節　「20時報道」の政治的役割

朝鮮中央テレビでは定時のニュース番組は17時、20時に「報道」、22時過ぎに「今日の報道の中から」があり、一日3回放送されている。放送時間は17時が10分程度、20時は天気予報も含めて30分弱、22時台は20分ほどで一日の報道のまとめとなっている。このうち「20時報道」は、最高指導者の動静報道に加え、党が推し進める路線や政策、国内での大衆動員活動などを網羅的に扱う総合ニュースである。北朝鮮のテレビ放送では「視聴率が最も高い時間に重要な編集物が出るように編成する」[70]ことが求められ、報道についても「聴取率が良い時間にその日の重要消息などを集めて総合報道として放送」[71]することが基本となる。「20時報道」は定時ニュースの中で、放送時間が最も長く報道項目も最多で、北朝鮮が内外に宣伝したいと考える内容が網羅されている。また、一日の中で最も視聴者が多いとみられる午後8時の時間帯に放映されていることや、国営媒体のインターネットサイトに報道として掲載されているのも「20時報道」の動画であることから、北朝鮮を代表するテレビ報道、いわばメインニュースと位置付けられる。「20時報道」は全国で視聴でき、「網TV」と呼ばれるIPTVやタブレットでも視聴が可能で、北朝鮮住民のニュース情報源として主要な地位を占めている。

「20時報道」では、前述した北朝鮮におけるメディアの5つの機能（①「報道的機能」、②「思想教養的機能」、③「組織動員的機能」、④「対外宣伝と外交的機能」、⑤「対敵言論戦機能」）が凝縮された形で報じられている。いわば、北朝鮮が内外に向けて発信したい情報と映像が網羅されたショーケースのような存在である。最も重視されるのは「人民大衆の最高頭脳であり、統一団結の中心であり、革命と建設の最高指導者である首領の革命活動」[72]に関する報道で、基本的にトップ項目で報じられる。北朝鮮のメディアは民主主義国家の報道とは異なり、「人々を思想的に教養し、力のある社会的存在として作ることに大きな力を入れている」[73]ため、事実を報道するだけでなく思想教養的機能を有する。「20時報道」でも最高指導

---

68 朝鮮中央通信2013年12月13日報道「천하의 만고역적 장성택에 대한 조선민주주의인민공화국 국가안전보위부 특별군사재판 진행(天下の万古逆賊、張成沢に対する朝鮮民主主義人民共和国国家安全保衛部特別軍事裁判進行)」

69『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）2』(조선로동당 출판사、2018)、385頁

70 前掲『조선대백과사전 10』、「방송편성（放送編成）」（평양:백과사전출판사、1999）、569頁、（注45）

71 同上、「방송보도（放送報道）」566頁（注45）

72 前掲『광명백과사전 7』、559頁（注52）

73 同上、559頁（注52）

者の思想とその偉大性を宣伝扇動し、全国民に深く浸透させることを中核に据えることで思想教養的機能を果たしている。

各界各層で成し遂げられた成果や模範事例、国内外の主要な政治的行事なども「20 時報道」の基本項目となる。これらは人民大衆に党が提示した政治、経済、文化分野などでノルマを実行させるため、メディアが大衆を組織し動員する役割を担う組織的動員機能を体現する報道となる[74]。金正日は報道関係者の使命として「私たちの記者、言論人は全党、全軍、全民を社会主義強盛大国建設へと力強く呼び起こすラッパ手となる必要があります」[75]と述べ、「動員のラッパ手の役割」を挙げた。「20 時報道」では党員と軍人、勤労者らが、党の呼びかけに呼応し革命と社会主義建設にあたる様子を「成果」「模範」として報じ、人民大衆を一つに固く結合させて目的に向かっていくよう宣伝扇動している。特に、各界各層の成果や模範事例を多数紹介して称賛することで国民の労働意欲を刺激し、「党と人民が創造する成果と経験、肯定的な模範、闘争気性を積極的に報道宣伝して一般化」[76]することに寄与する。

これ以外にも「20 時報道」では談話や声明などの形で政府の立場や外交方針を報じ、対外宣伝や国際社会に向けての対外広報の役割も果たしている。国際社会から孤立している北朝鮮は、報道を対外発信の手段として活用しているのである。かつては労働新聞や朝鮮中央通信などの文字媒体と朝鮮中央放送（ラジオ）が、対外発信の中核を担ってきたが、1990 年代末からは衛星を使って朝鮮中央テレビを放送するようになり、映像による対外発信が加わった。金正恩が後継者に指名された後の 2011 年 2 月 16 日からは「労働新聞」のインターネット版が開始され、「朝鮮中央通信」「우리 민족끼리（わが民族同士）」などもインターネットサイトをオープンし、北朝鮮の国営媒体の対外開放が進められた[77]。金正恩は 2014 年 2 月の第 8 回思想活動家大会で「インターネット網をわれわれの思想と文化の宣伝の場にする決定的な対策を立て、大衆および対外宣伝手段の現代化、情報化を実現する計画を推し進めなければならない」[78]と述べ、インターネットでの発信に力を入れるよう指示した。2017 年頃からは宣伝色を薄め、若い女性や子供が北朝鮮の市民生活を紹介する動画が YouTube や中国の動画サイトに投稿されるようになった[79]。これも、多様な対外発信を通じて国際社会に北朝鮮の姿を宣伝し、同調者を増やす金正恩のメディア戦略の一環と位置付けられる。

対外発信をさらに発展させたのが、特定の敵対国や世界を相手に心理戦を展開する役割を担う言論戦の機能である。言論戦は中国やロシアも展開しており、社会主義国や権威主義体制のメディアに共通の特性といえよう[80]。北朝鮮にとっての対敵言論の対象は「米帝国主義者と日

---

74 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、560 頁（注 52）

75『김정일선집（金正日選集）』第 15 巻、213 頁、2005

76 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、560 頁（注 52）

77 『労働新聞』のウェブサイトは 2018 年 12 月 24 日年から紙面 PDF の閲覧を有料化した。

78 朝鮮中央通信 2014 年 2 月 26 日付「《혁명적인 사상공세로 최후승리를 앞당겨나가자》--김정은동지께서 조선로동당 제 8 차 사상일군대회에서 하신 연설--」（「《革命的な思想攻勢で最後勝利を早めよう》－金正恩同志が朝鮮労働党第8回思想活動家大会でなさった演説－」）

79 NEW DPRK URL: https://www.youtube.com/channel/UCktAYwdwHNQn4Jqwbf8i_pg （2022 年 7 月 9 日確認）、朝鮮中央テレビも YouTube チャンネルを開設。https://www.youtube.com/channel/UCNaH2TGwop7CHZvnj0t3yjA（2022 年 7 月 9 日確認）

80 中国の外交官らが SNS などを通じて中国批判に攻撃的に反論する「戦狼外交」や、ロシアの米国大統領選介入などサイバー攻撃による内部情報の暴露、インターネット空間における偽情報の流布もなどの情報戦も言論戦の一環と捉えられる。

本軍国主義者、南朝鮮の保守反動勢力、国際反動勢力」などを指す[81]。「20 時報道」でも「対敵」攻撃の談話や、北朝鮮批判に対する反論、海外での北朝鮮への支持表明などの形でしばしば報じられている。

朝鮮中央テレビの番組編成は、報道、児童、教養、学習などの時間帯に区分され、報道時間帯と教養時間帯が交互に繰り返される形式で進行する[82]。金正恩政権発足後の 2013 年以降、放送時間が平日と土曜は午後 3 時から午後 11 時過ぎまで、日曜と祝日は午前 8 時から午後 11 時過ぎまでに増加したが、編成形式には 1990 年代末から大きな変化は見られない[83]。「20 時報道」で報じられる基本的な報道項目も最高指導者の動静や国内外の礼賛報道、国内ニュース（行事、経済的成果、生活等）、海外ニュースなどで金正日時代とほぼ同様となっている[84]。一方で、金正恩時代のテレビ報道には金正日時代には見られなかった変化も生じている。ドローンなどを利用した新しい撮影技法や様々な編集技術が導入され、視覚的要素が強調されるようになっただけでなく、3D コンピュータグラフィック、仮想スタジオなどグラフィック効果を活用するなど画面の現代化が図られた[85]。「20 時報道」ではアナウンサーの背景に CG を活用し、スタジオのセットも現代的なデザインに変わり、若い世代のアナウンサーの登場で、華やかで柔らかい雰囲気が生まれた。金正恩の動静報道でも最新技術を積極的に使い、速報性や現場の臨場感を強調するようになり、最高指導者のイメージ形成の中核に映像を活用する姿勢を鮮明にしている。また、アナウンサーが現場で取材する形式の報道で視聴者に親近感を与えるなど、住民への訴求力を高める工夫が施されるようになった。

このように金正恩時代には視聴者を惹きつけるため、「20 時報道」の画面上にも変化が生じた。こうした変化をもたらした根本的な要因を考察する前に、第 3 節では金正恩政権発足後の「20 時報道」の推移とその定量的変化に焦点を当て、20 時報道の代表的な報道項目がどのように変化したのかを分析し、報道の変化が生じた時期と金正恩政権の転機の関連性についても考察する。

第 3 節　「20 時報道」の定量分析

既述の通り、北朝鮮が報道で最も重視するのは最高指導者の現地指導や最高指導者の活動に関連する報道であり、通常ニュースのトップ項目で扱われる。前掲『광명백과사전（光明百科事典）』は、北朝鮮の新聞、通信、放送は「偉大な領導者・金正日同志による人民軍部隊と人民経済の各部門の現地指導と対外活動、社会の各階層の勤労者に対する感謝、労作発表などの報道を 1 面、最初に入れて、明るく丁寧に伝えることを最も重要な新しいニュース報道として国内外に広く伝播している」[86]とし、最高指導者の活動を新聞の一面やテレビニュースのトッ

---

81 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、562 頁、（注 52）

82 황･공･홍･박、前掲書、60 頁（注 20）

83 김･임･김･서、前掲書、28 頁（注 36）

84 황･공･홍･박、前掲書、76－77 頁（注 20）

85 김･임･김･서、前掲書、31－60 頁（注 36）

86 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、559 頁、（注 52）

プで報じ、内外に宣伝することを不文律としている。最高指導者は人民の前で「笑顔」で社会主義の「成果」を誇示し、労働者を「鼓舞」するのが視察報道の使命であり、最高指導者の「革命活動報道」に接した「党員と軍隊と人民は、将軍様の無限の欽慕心に包まれて、先軍革命の勝利の信念と勇気にあふれ」る。従って、北朝鮮の出版報道活動では最高指導者の「革命活動」を伝える報道的機能が、「常に第一次的な意義を有する」のである[87]。次に重要なのは国内外の政治、経済、文化、軍事などの各界各層で成し遂げられた成果や業績を模範モデルとして報じることであり、国内外の主要な政治的行事や出来事の消息がこれに続く[88]。

同様にテレビ報道の中核となるのは、最高指導者の映像とアナウンサーが独特の抑揚で読み上げる活動の内容である。金正日は視覚と聴覚を通じて視聴者に最高指導者の姿を強く印象づけ、宣伝効果をより高めるよう指示している[89]。「20 時報道」では一日の重要なニュースを総合して伝えることを目的とし、まず、最高指導者の動静、先代指導者を含む最高指導者に関する海外の報道、銅像やモザイク画等の建設、革命史跡訪問など国内での最高指導者に関する礼賛行事がトップで伝えられる。続いて農業や工業など各部門での成果・業績、党や国家の立場発表、各界の反響、海外ニュース、スポーツなどが続く。報じられる内容は、北朝鮮当局が重視し、広く内外に宣伝したい事柄であり、優先順位の高いものから報道される。指導者の礼賛報道は常に最優先で扱われ、次に国内ニュース、その後に海外ニュースが続く。国内での事件事故、金正男殺害など北朝鮮に不利な事象は基本的に報じられないが、反論する場合は立場発表などの形で相手側を批判する。以上を踏まえ、本節では 2012 年から 19 年の朝鮮中央テレビ「20 時報道」の項目を以下の 3 つに大別し、その変化を分析した。「20 時報道」の映像・内容については前述の北朝鮮のインターネットサイトを参照し、掲載期間が過ぎたものは個人でダウンロードしたものや、フジテレビのアーカイブなどを利用した。前述した韓国の北韓資料センターでも閲覧が可能である。

１．体制礼賛報道
・金正恩の動静
・金正恩に関する海外及び国内での礼賛報道
・金日成、金正日をそれぞれ讃えるもの
・金日成と金正日を同時に讃えるもの

２．成果報道
・工業や農業を中心とした業績向上や模範事例など

３．その他
・自国の施策に関する海外での反響
・国内での行事に関する開催
・政権の決定や声明関するもの

---

87 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、559 頁（注 52）

88 고·이·홍、前掲書、39-40 頁（注 22）

89 前掲『김정일선집（金正日選集）』第 2 巻、421 - 425 頁（注 48）

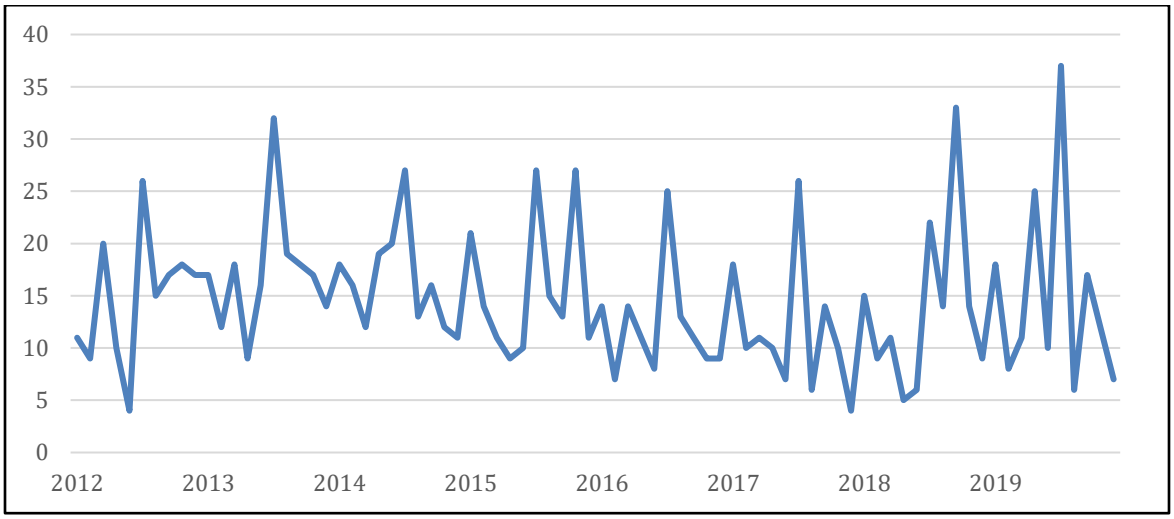
・北朝鮮の政策に対する外国からの支持などの報道
・外国から北朝鮮への来訪者に関する報道
・スポーツ
・海外ニュース

（１）体制礼賛報道

「20 時報道」の主眼となっている体制礼賛報道には、金正恩の最新の動静、国内外での金正恩礼賛の動き、金日成・金正日の誕生日などの記念行事や金日成、金正日の銅像参拝など先代首領を称える報道が含まれる。ここでは金正恩に関する礼賛報道を動静、海外での偉大性報道（海外での金正恩活動報道、著作出版、海外首脳らからの祝電・贈り物、海外の祝賀行事など）、国内での偉大性報道（最高指導者推戴を祝う行事など金正恩を称える国内の動き）に分け、金日成、金正日それぞれに関する礼賛報道を金日成偉大性、金正日偉大性、両方の場合は金日成・金正日偉大性として、それぞれを比較検討した。偉大性報道は指導者への個人崇拝を強化し、体制の優位性を内外にアピールする上で欠かせないものであり、特に海外での礼賛報道は最高指導者の偉大性を証明する国内向けの宣伝扇動材料として活用されてきた。

2012 年から 2019 年までの金正恩礼賛報道の推移をまとめたのがグラフ 1 である。金正恩に対する礼賛報道は年間を通じ、一定のパターンが確認できる。グラフ 1 からは毎年 1 月の新年の辞、2 月の金正日誕生日、4 月の金日成誕生日と金正恩の最高位推戴の際には礼賛報道が大幅に増加し、その合間の記念日のない月には減少する傾向を示している。特に 4 月には礼賛報道がピークに達する傾向が見られる。

グラフ 1　金正恩の動静／偉大性報道件数の推移

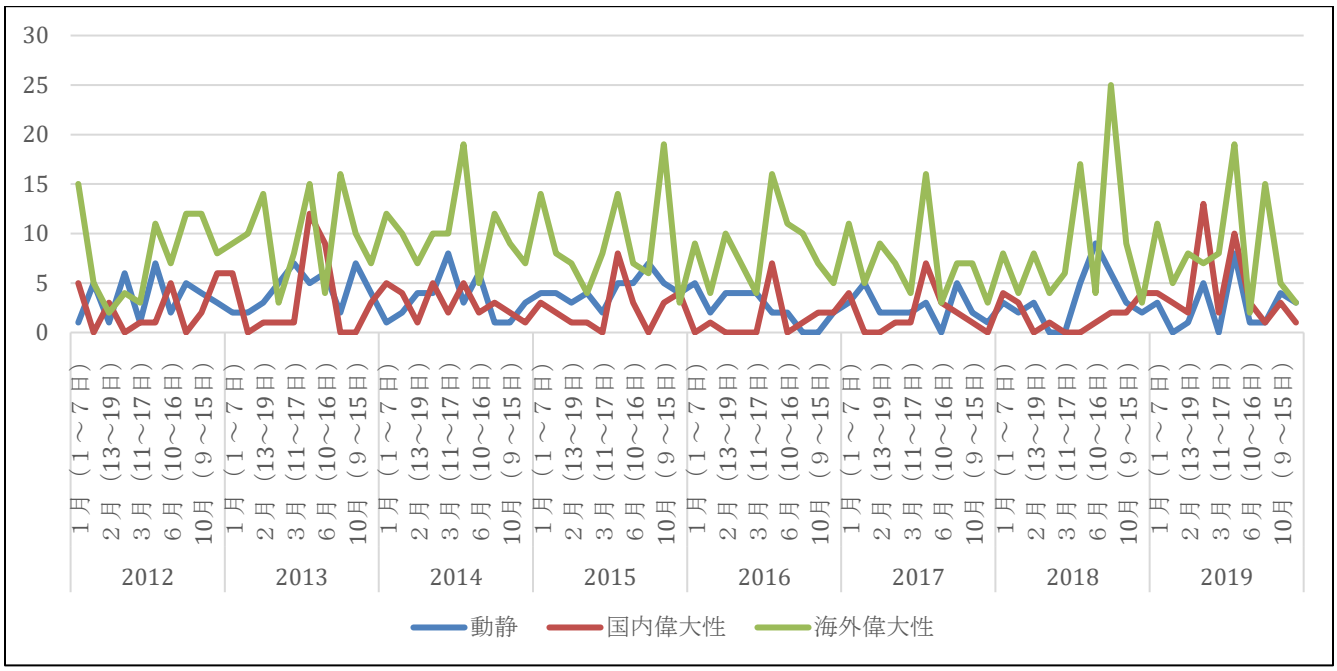


また、北朝鮮は記念日を 5 年 10 年の節目で盛大に祝うことから、2012 年 4 月の金日成生誕 100 周年、2013 年 7 月の朝鮮戦争休戦 60 周年、同 9 月の建国 65 周年、2015 年 10 月の朝鮮労働党創建 70 周年、2017 年 4 月の金日成生誕 105 周年、金正恩推戴 5 年、2018 年 9 月の建国 70 周年

などの節目には金正恩礼賛報道が増加している。2016 年 5 月は 36 年ぶりの党大会開催を受け、6 月も他の年に比べ礼賛報道が増えた。2017 年は 9 月 3 日に 6 回目の核実験が実施され、同月 16 日に「火星 12」型発射が続いたことから、9 月の報道が増えている。2018 年、19 年は定例パターンにやや変化が見られる。2018 年は核ミサイル開発の強硬路線から一転、対話に転じ首脳外交に積極的に取り組んだことが礼賛報道にも反映された。3 月には中国、4 月に韓国、6 月に米国との首脳会談、9 月の文在寅訪朝など首脳外交が活発に展開され、関連報道が増加した。特に 9 月は建国 70 年と文在寅訪朝の動きが重なったことを受け、礼賛報道のピークとなった。2019 年 2 月は米朝首脳会談とベトナム訪問に先立つ 2 月 21～27 日の週に礼賛報道が急増した。4 月には恒例の祝賀行事に加え、10 日に朝鮮労働党中央委員会総会、11 日に最高人民会議が開かれたことから、例年以上に報道が増加しピークに達している。

金正恩礼賛報道を動静、海外偉大性、国内偉大性報道の別に分けて推移を見たのがグラフ 2 である。海外偉大性報道には海外で報道された金正恩の「活動消息報道」、金正恩の著作物の海外での出版を知らせる「出版物報道」、海外で開催された主体思想討論会や太陽節（金日成誕生日）慶祝準備委員会の結成など「思想強化活動」などが含まれる。金正恩の活動を好意的に報じたとして紹介されるのは、北朝鮮と友好関係にある南米やアフリカ、アジア諸国が多い。最高指導者が海外でも賛美と崇拝の対象となっていると報じることで、最高指導者の権威を宣伝し、人民の忠誠心を高める狙いがある。

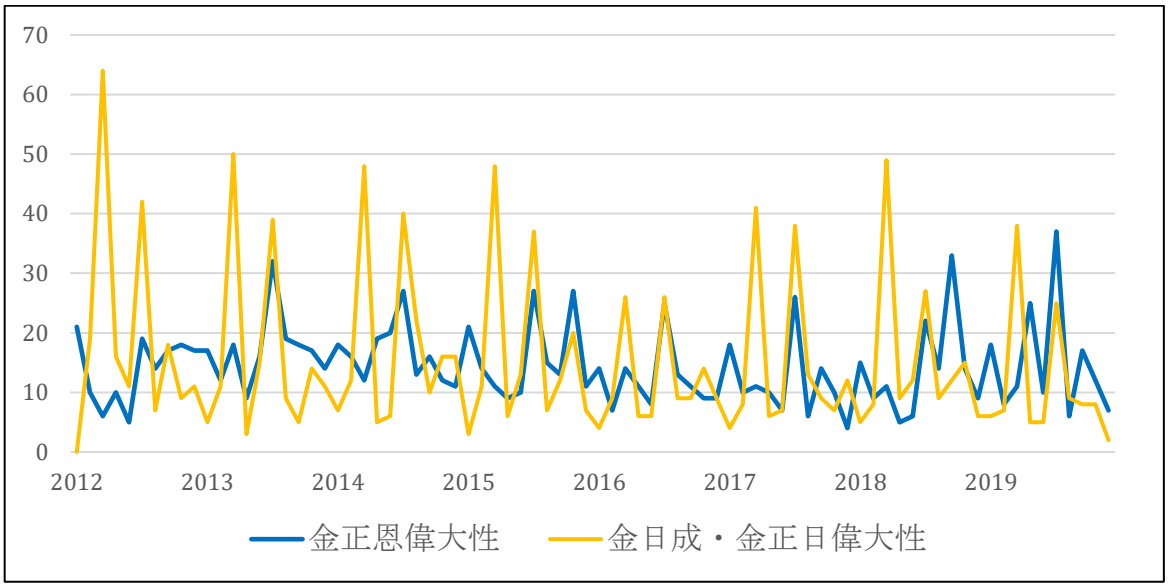
グラフ 2　金正恩礼賛報道件数の内訳別推移



グラフ 2 における海外偉大性報道は、グラフ 1 の金正恩礼賛報道の推移に似たパターンを示し、北朝鮮の行事や金正恩の動向に連動して増減する傾向がみられる。金正恩の海外偉大性報道が 15 件以上となったのは、2012 年 1 月、2013 年 4 月、9 月、2014 年 4 月、2015 年 10 月、2016 年 4 月、2017 年 4 月、2018 年 4 月、9 月、2019 年 4 月、9 月となる。4 月は金日成誕生日

と最高指導者推戴の記念日が重なるため、海外偉大性報道も増える。海外偉大性報道のピークは建国 70 周年の 2018 年 9 月で 25 件、次いで党創建 70 周年にあたる 2015 年 10 月と 2019 年 4 月が 19 件、2018 年 4 月が 17 件となっている。一方、国内偉大性報道は 2012 年 11 月から増加し、一旦減少した後 2013 年 4 月に突出して増えている。2014 年は 1 月、2 月、4 月に小ピークが続き、2015 年から 18 年までは 1 月に増加し、4 月に跳ね上がる傾向を示した。2018 年は 1 月と 11 月に上げた以外は相対的に低調で、2019 年は米朝首脳会談直前の 2 月 21～27 日の週が最多となり、4 月も高い伸びを示した。

グラフ 3　金正恩と金日成・金正日の礼賛報道の比較

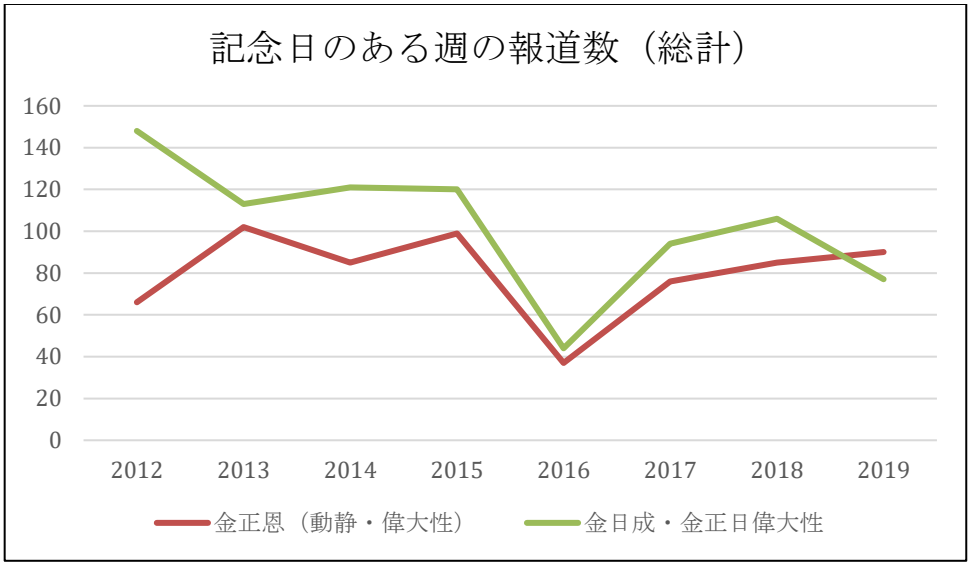


グラフ 3 では、金正恩と金日成・金正日の礼賛報道を比較した。金日成・金正日礼賛報道は毎年、2 月の金正日誕生日と 4 月の金日成誕生日に集中的に増加するパターンが繰り返されている。報道回数は 2012 年 2 月が 60 超と最も多く、2013 年から 15 年までは 40～50 回で推移している。2016 年には 30 回以下に減少し 2017 年以降は再び増加に転じた。一方、金正恩礼賛報道は新年の辞が発表される 1 月は先代礼賛報道を上回り、記念日のない 6 月や 9 月から 11 月にかけても金正恩がやや上回る傾向が見られる。また、2013 年 2 月から 2014 年 1 月までは 2 月 4 月の誕生日を除いて、金正恩礼賛報道が先代を上回った。特に 2013 年 4 月は金正恩礼賛が大きく伸び、先代礼賛とほぼ拮抗している。2013 年 4 月 10 日の週の「20 時報道」では金正恩の最高位推戴 1 周年を記念する行事が 19 件に上り、2012 年の 9 件から急増している。金正恩の最高位推戴を祝う報道は 2014～15 年は 10 件前後、2016～17 年は 6 件、2018 年は政治局会議と最高人民会議開催中で報道がなく、2019 年に 10 件と再び増加している[90]。記念日のある週では党創建 70 年の 2015 年 10 月と建国 70 年の 2018 年 9 月、2019 年 4 月に先代を上回った。4 月の礼賛報道で金正恩が先代を上回ったのは 2019 年が初めてとなる。36 年ぶりの党大会が開催され

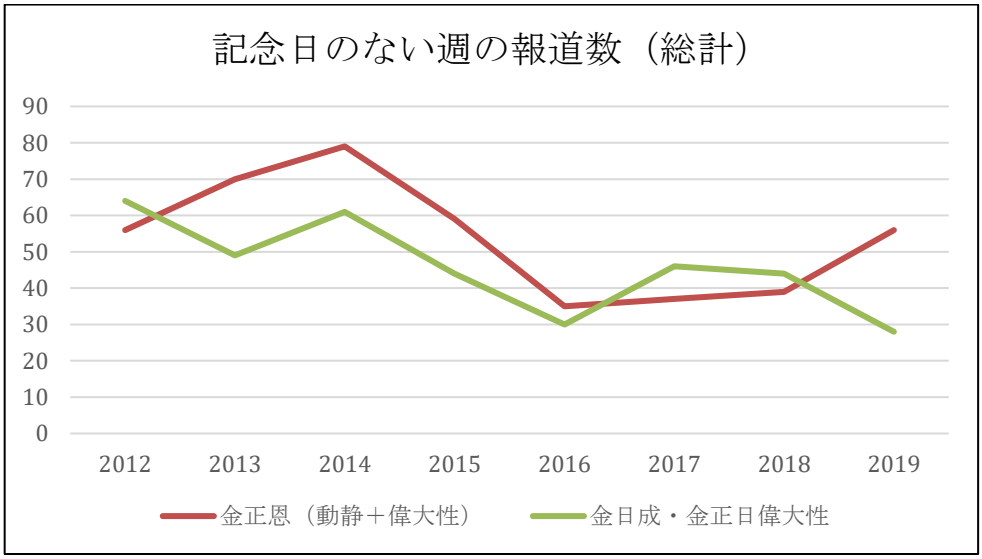
[90] 金正恩は 2016 年 6 月 29 日最高人民会議で国務委員長に推戴され、2017 年以降は 6 月 29 日前後に「20 時報道」で国務委員長推戴を記念する報道がなされている。

た 2016 年には金正恩、金日成、金正日いずれの礼賛報道も例年に比べて落ち込み、相対的に成果報道が増加した。

グラフ４　記念日のある週での金正恩と先代礼賛の比較



グラフ５　記念日のない週での金正恩と先代礼賛の比較



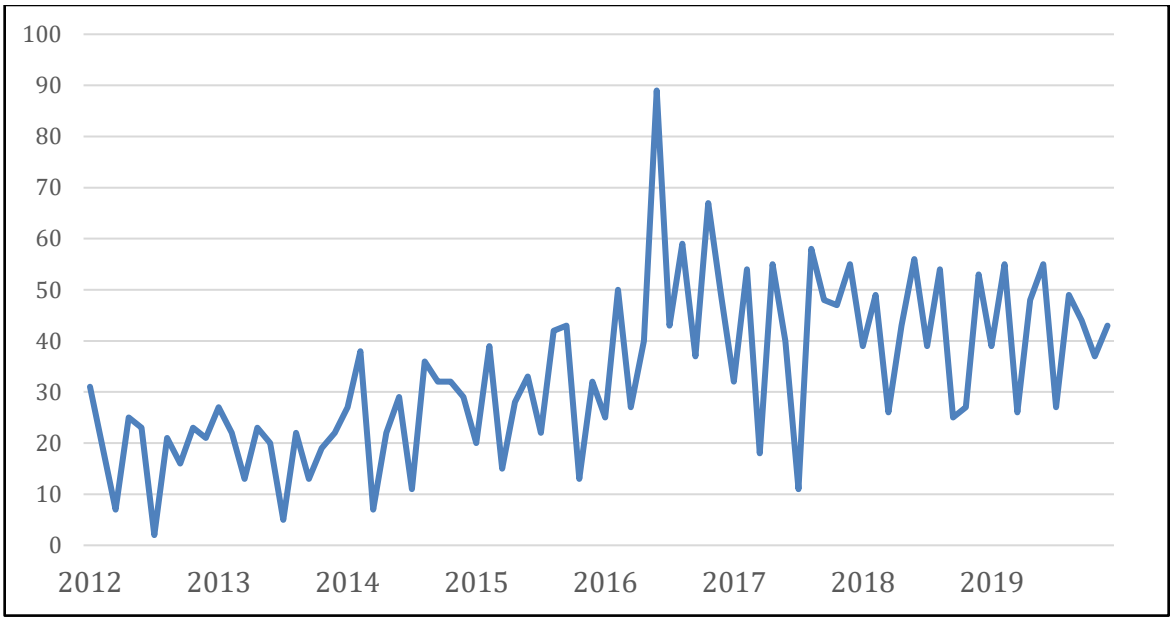
記念日のある週とない週で金正恩と金日成・金正日の礼賛報道を比較してみると、グラフ 4 の記念日のある週では 2012 年から 18 年までは金日成・金正日礼賛報道が金正恩を上回っているが、2019 年には金正恩礼賛が逆転している。記念日のない週で比較したグラフ 5 では、2013 年から 16 年までは金正恩礼賛が先代を上回っている。2017 年から 18 年は先代礼賛が金正恩をやや上回っているが、2019 年には再び金正恩礼賛が逆転している。グラフからも明らかなように 2018 年以降、金正恩への礼賛が先代に比べ顕著な伸びを示しており、金正恩の権威がこの 1

年間で大幅に高まったことがわかる。米国、中国、韓国などとの首脳会談開催を通じて、金正恩が国際社会の注目を集めたことが、礼賛報道にも反映されたのである。

（２）成果報道

「20 時報道」で体制礼賛と並んで重視されているのが、国内の各層各部門で成し遂げられた成果や模範的な所業を報じる成果報道である。成果報道では「党員と勤労者を新しいより大きな偉勲の創造に目覚め」させること[91]で、金正恩ならびに朝鮮労働党の指導の正しさと体制の優越性を誇示する。即ち、社会主義経済の特徴である「動員」による「経済建設」の過程で、人民大衆を刺激し、党の路線や目標の貫徹を促すとともに生産性の向上につなげることが目的となる。最高指導者は現地指導を通じて労働者や軍人らに「お言葉」を与え、人民は最高指導者の与えた課題を達成することにより、忠誠心と熱意を示す。特に勤勉な者は「労働英雄」として道徳的な権威を与えられ、人民の忠誠心を鼓舞し、労働への動機付けとして働く。最高指導者と人民の関係は、このような労働に対する道徳的表象によって結ばれてきたのである[92]。

グラフ６　金正恩時代の成果報道件数の推移



成果報道の典型例として、
「竜陽鉱山（咸鏡南道）が鉱物生産の炎を一層力強く燃え上がらせている」
「衛星科学者通り建設現場で平城市女盟（朝鮮民主女性同盟）突撃隊員らが軍人建設者らを助け、愛国の汗を惜しみなく捧げている」

91 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、 559 頁、（注 52）
92 고·이·홍、前掲書、60－61 頁（注 22）

「平原郡大井農場（平安南道）がイネの肥培を科学技術的にしっかりと管理している」[93]、といったものが挙げられる。このように全国の鉱山、農場、建設現場など各地の模範事業所を具体的に列挙し、その取組を称賛し成果として報じるのが特徴である。成果の内容は生産量などを数字で示すものはほとんどなく、「革新を起こす」「熱心に取り組む」などの抽象的な表現で忠誠心を鼓舞する形を取っている。典型例にも挙げた 2014 年 6 月 10 日の「20 時報道」では、ニュース 13 項目のうち 5 項目が成果報道だった。時期によって増減は見られるが、連日、複数の成果報道が途切れなく報じられる。

成果報道は 2 月の金正日、4 月の金日成誕生日や、2015 年 9 月の党創建 70 周年、2018 年 10 月の建国 70 周年など節目の記念行事がある週には減少するパターンがみられ、全体としては増加傾向を示している。政権発足直後の 2012 年から 2013 年は 180 件前後に留まっていたが、2014 年には前年の約 1.4 倍増となる 263 件、2015 年に 268 件と増加に転じた。金正恩は 2014 年の新年の辞で農業、建設、科学技術部門で「革新の烽火」を高く掲げるよう求め、3 部門の成果を重視する方針を示しており、周年行事のない 2014 年に成果報道が増加する結果につながった。2015 年は党創建 70 周年で白頭山青年英雄発電所の建設を「成果」とする大々的な報道が建設過程も含めて続いたが、報道件数は 2014 年と同水準に留まった。成果報道は 36 年ぶりに第 7 回党大会が開催された 2016 年に 468 件と急増した。特に前半にかけて成果報道が大きく伸び 3 月に 81 件とピークを迎え、10 月にも再び増加した。これは党大会に向けて「全党員が党と革命のための献身で強盛国家建設の最盛期を開く」[94]ため「70 日戦闘」が展開され、党大会後は「200 日戦闘」が続いたことを反映している。

金正恩は第 7 回党大会の活動総括報告で「党活動の全般に人民大衆第一主義を具現しなければならない」と述べており、成果報道は人民大衆の生活向上につながる宣伝扇動手段として活用されていく。2017 年から 2019 年の成果報道は年間 410～420 件前後と 2016 年よりは低いものの高水準で推移しており、人民大衆第一主義を目に見える形で報じる必要性があったことを示している。また、「自力更生の旗印を高く掲げ生産と建設で新たな成果を収めて敵対勢力の制裁・圧力を粉砕」[95]すると主張し、制裁に対抗する宣伝扇動手段としても成果報道を活用した。2020 年は制裁の長期化に加え、新型コロナウイルスによる中朝国境の封鎖や自然災害などにより、経済的な苦境が一層深まったが、「20 時報道」では成果報道が依然高い割合を占めた。成果報道は実際の経済成長を反映するものではなく、あくまで党の大衆動員と人民の忠誠心を鼓舞するための手段であることから、当面この傾向が続くと考えられる。

金正恩は 2013 年 1 月 1 日、19 年ぶりに「新年の辞」を復活させた。成果報道はこの新年の辞の戦闘スローガン[96]に呼応する形で生産・増産活動の成果や各界での業績を宣伝する。「新聞と放送が沸騰したら、国民が沸騰し国が革命的ブームに沸き広がる」[97]ため、新年の辞で示された経済分野での党の路線貫徹を目指し、全国津々浦々で続々と経済的成果が上がっている

---

93 조선중앙텔레비죤（朝鮮中央テレビ）2014 年 6 月 10 日「20 時報道」

94 조선중앙통신(朝鮮中央通信)2016 年 2 月 24 日報道「党大会までの『70 日戦闘』を呼び掛ける、朝鮮労働党が全党員に手紙」

95 『労働新聞』2017 年 10 月 9 日 2 面「崔竜海同志の報告」

96 朝鮮中央通信 2013 年 1 月 1 日、2014 年 1 月 1 日、2015 年 1 月 1 日、2016 年 1 月 1 日、2017 年 1 月 1 日、2018 年 1 月 1 日、2019 年 1 月 1 日の新年の辞をそれぞれ参照

97 前掲『광명백과사전（光明百科事典）7』、560 頁、（注 52）

と報じ、生産性向上の熱気を巻き起こす手段とする。新年の辞のスローガンからもわかるように、金正恩政権は一貫して人民生活の向上を掲げているものの、実現には至っていない。金正恩自身がこれを認め、演説の中で「いつも気持ちだけで、能力が追いつかないもどかしさと自責の念」[98]を吐露し、「国民に報いることができず面目ない」[99]と謝罪した。2021 年の第 8 回党大会でも国家経済発展 5 カ年戦略の「目標未達」を認めている。スローガンでは 2013 年から 17 年までは核とミサイルの並進路線の下での「経済強国」、2017 年 11 月 29 日に核ミサイル開発の完成を宣言して以降、2018 年からは「社会主義強国」建設を掲げてきたが、2019 年からは国連制裁の長期化に備え、自力更生が強調されるようになった。

表 1　新年の辞スローガン（2013～19 年）

2013	「宇宙を征服したその精神、その気迫で経済強国建設の転換的局面を開こう」
2014	「勝利の信念高らかに強盛国家建設の全ての戦線で飛躍の熱風を巻き起こそう」
2015	「こぞって白頭山の革命精神で最後の勝利を早めるための総攻撃戦に立ち上がろう」
2016	「朝鮮労働党大会第7回大会が開かれる今年に強盛国家建設の最全盛期を切り開こう」
2017	「自力自彊の偉大なる動力で社会主義の勝利的前進を早めよう」
2018	「革命的な総攻勢で社会主義強国建設の全ての戦線で新たな勝利を収めよう」
2019	「自力更生の旗を高く掲げ、社会主義建設の新たな進撃路を開いていこう」

成果報道はこうした変化を反映しつつ、その時々の重点経済目標である建設現場や、工業、農業分野などでの模範事例を通じ、「党員と人民が創造する革新的成果との闘争経験、肯定的な素行、集団闘争の消息を知らせ、誰もがそれを模範にすることができるように広く宣伝」している[100]。特に強調されているのが、白頭山青年英雄発電所や、馬息嶺スキー場などの国家レベルの大型建設事業への青年たちの参加である。青年たちは重要な建設事業を担うことによって国の発展に寄与する「強盛国家の突撃隊」であり、「青年英雄」であるとして大々的に宣伝された。北朝鮮では 14～30 歳のすべての青年が「社会主義愛国青年同盟」[101]（以下青年同盟）に加入し、その数は 500 万人に達するとされる[102]。300 万人の少年団員（7～13 歳）も含めると、人口の 3 分の 1 を占めることから、体制維持の上でも青年たち心をつかむことが重要となる。

金正日は社会主義陣営の崩壊という体制の危機に対応するため、金日成が創立した「朝鮮共産主義青年同盟」の結成日（8 月 28 日）を「青年節」に制定した。また、金日成死後の 1995 年からは、『労働新聞』（党機関紙）、『朝鮮人民軍』（軍機関紙）、青年同盟の機関紙『青年同盟』の 3 紙からなる新年共同社説を通じて、その年の政策の方向性を発表するようになっ

98 朝鮮中央通信 2017 年 1 月 1 日「金正恩委員長の新年辞」

99 朝鮮中央通信 2020 年 10 月 10 日「金正恩委員長、党創建 75 周年慶祝閲兵式で演説」

100 前掲、『광명백과사전（光明百科事典）7』、560 頁（注 52）

101 朝鮮中央通信 2021 年 4 月 30 日、金日成・金正日社会主義青年同盟は第 10 回大会で名称を「社会主義愛国青年同盟」に改称。

102 김종수（キムジョンス）「북한 김정은 시대 청년동맹 연구（北韓金正恩時代青年同盟研究）」통일정책연구 제 22 권 2 호（統一政策研究第 22 巻 2 号） 2013、51－78 頁

た。党、軍と並んで青年を重視する姿勢を鮮明にしたのである。しかし、1998 年に青年同盟の幹部が韓国の国家安全企画部と内通したとして 8 名が処刑され、青年同盟は壊滅的な打撃を被った[103]。青年層は外部世界からの影響を受けやすく、資本主義思想に染まりやすいと見なされ、思想教育の重要性が強調される契機となった。

金正恩も体制維持の要として青年を重視する一方で、青年層の思想的な変節を警戒している。特に、金正恩の後継内定後の 2011 年にチュニジアで「ジャスミン革命」が発生し、青年が政治変動の主力となったことから、北朝鮮は警戒感を強め、青年に対する思想教育を強化した。当時、金正恩は「反動的な思想文化の浸透と心理謀略戦は、今日の敵が侵略策動で使っている基本手法であり、ここで主な対象は青年たちだ」[104]と指摘し、「思想教養事業を良くして青年たちに革命的な思想意識を不断に植え付け、革命の真理で武装させる」よう強調した。特に 1990 年代以降に生まれた「新世代」は経済的に厳しい環境で成長したため、利害に敏感で個人の生活を重視する傾向があり、思想教育を疎かにすれば、体制離反を招く恐れがあると認識されている[105]。成果報道は、組織動員を通じて青年たちを絶えず体制側に惹きつけ、米国を中心とした「反動的な思想文化浸透と心理謀略戦」を防ぐ、危機管理的な役割も担っていると見ることができる。

既述の通り、社会主義建設において労働は最高指導者と人民の関係を道徳的に結合させ、規定することにより、北朝鮮社会における体制維持の基本メカニズムとして機能してきた。最高指導者や党が提示した課題に、誰よりも熱意を持って取り組み英雄的成果を成し遂げた組織や個人は「最高指導者への絶対的忠誠を具現化した」とみなされ、「労働英雄」として称賛される[106]。労働の成果は最高指導者への忠誠をはかる物差しとなり、その人物の道徳性・人間性の評価に直結し、ひいては、大衆を生産活動、増産運動に駆り立てる原動力となる。金正恩政権では成果報道を通じ人民大衆との関係を強化するとともに、「青年」による労働の成果を強調し青年層を取り込むことで体制維持に活用したと考えられる。

（3）報道割合の変化

ここまで 2012 年～2019 年の「20 時報道」を体制礼賛報道と成果報道をもとに定量分析した結果、体制礼賛報道では 2013 年 4 月と 2019 年に金正恩の国内偉大性報道が大幅に増えたことがわかった。また、記念日のない週では、2013 年から 2014 年にかけて、金正恩礼賛の増加が顕著に示された。成果報道では 2016 年の党大会を期に大幅に増加し、その後も高水準を維持している。このことは、金正恩が政権基盤を固める過程で、先代礼賛から金正恩礼賛へと礼賛対象がシフトしつつあることを示す。また、成果報道の大幅な増加は、金正恩が体制の優位性を

---

103 『月刊朝鮮』2019 年 6 月号「北 2 人者崔竜海、パルチザン血統崔竜海はいかにナンバー2 になったか」http://monthly.chosun.com/client/news/viw.asp?ctcd=E&nNewsNumb=201906100025&page=1 （2022 年 7 月 9 日確認）当時、金正日社会主義青年同盟の委員長だった崔竜海は、この青年同盟黄色事件により全ての職位を剥奪され、革命化処分を受けた。

104 『労働新聞』2012 年 9 月 7 日「青年たちに対する思想文化浸透に覚醒を高めなければならない」

105 김종수（キムジョンス）前掲書、73 頁（注 102）

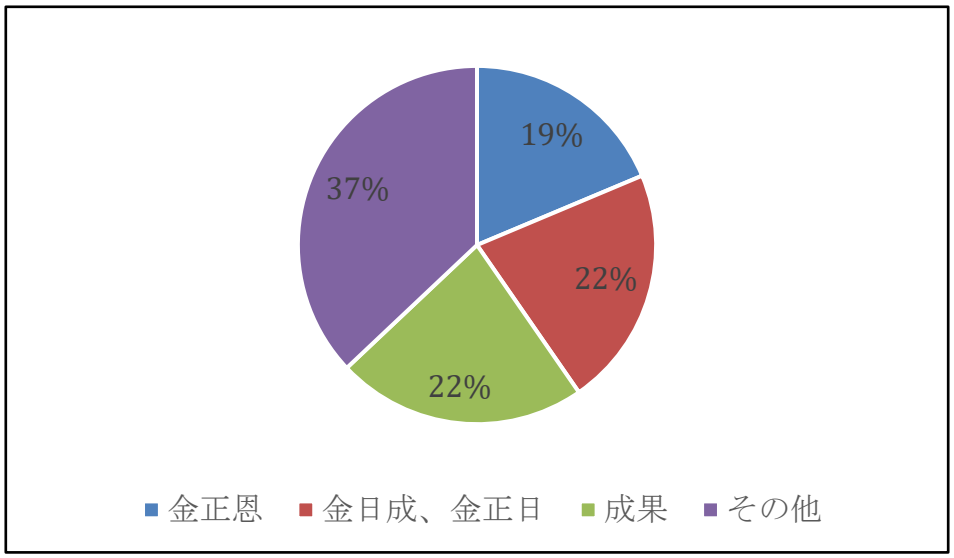
106 조선로동당출판사편(朝鮮労働党出版社編)『인민들 속에서(人民の中で)』第 1－3 巻、（평양:조선로동당출판사、1962)は模範的な労働者のエピソードを集めたシリーズ化したもので、すべての英雄的成果は首領との出会いと約束を通じて描かれている。

示す指標としてだけでなく、最高指導者と人民の関係を強化する上で重視していることを反映している。報道に変化が現れた年に着目すると、張成沢粛清（2013 年末）、第 7 回党大会開催（2016 年 5 月）、米朝首脳会談の決裂（2019 年 2 月）となり、金正恩政権にとって大きな政治的節目にあたっている。こうした点を踏まえ、金正恩政権の時期区分を仮説として以下の 3 つの期間に分類し、「20 時報道」との関連性を分析した。

①政権発足直後の 2012 年から 13 年末まで（Ⅰ期）
②2014 年から 2016 年 5 月の党大会開催まで（Ⅱ期）
③2016 年 6 月から 2019 年まで（Ⅲ期）

さらに各期間における「20 時報道」の①体制礼賛報道、②成果報道、③その他のニュース――の 3 項目の比率を計算し、その割合の推移を確認したのがグラフ 7～9 である。体制礼賛報道では、金正恩礼賛と金日成・金正日礼賛の割合の変化から金正恩の権威向上の過程が確認できる。成果報道は金正恩政権における人民生活向上の指標であると同時に、金正恩の権力の正統性とそれに対する人民の忠誠を具現化する手段として機能しており、比重が金正恩政権で大幅に増えたのが特徴である。その他のニュースはスポーツ、北朝鮮政府の立場表明、海外ニュースなどで成果報道などに比べ、総体的に減少している。

グラフ 7　Ⅰ期（2012～13 年）の「20 時報道」のニュース項目の割合

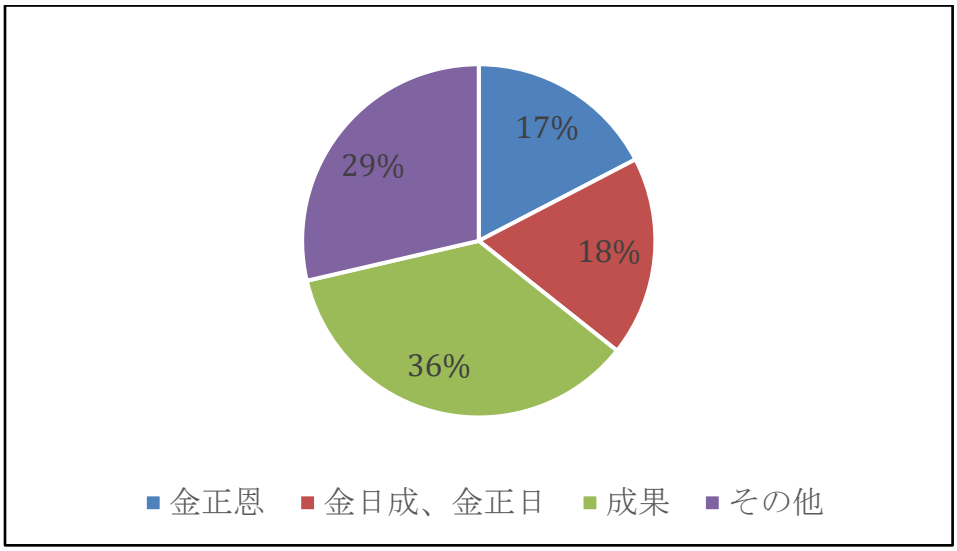


グラフ 7 に示された通り、Ⅰ期の金正恩礼賛は 19%、金日成・金正日礼賛は 22%と、後者の値が高くなっている。（小数以下四捨五入、以下同じ）これは金正恩の政治指導者としての経験不足を補うため、先代の偉大性を広く宣伝することで金正恩後継の正統性を補強する意味合いがあったと解釈できる。一方、Ⅰ期の成果報道は 22%にとどまっている。

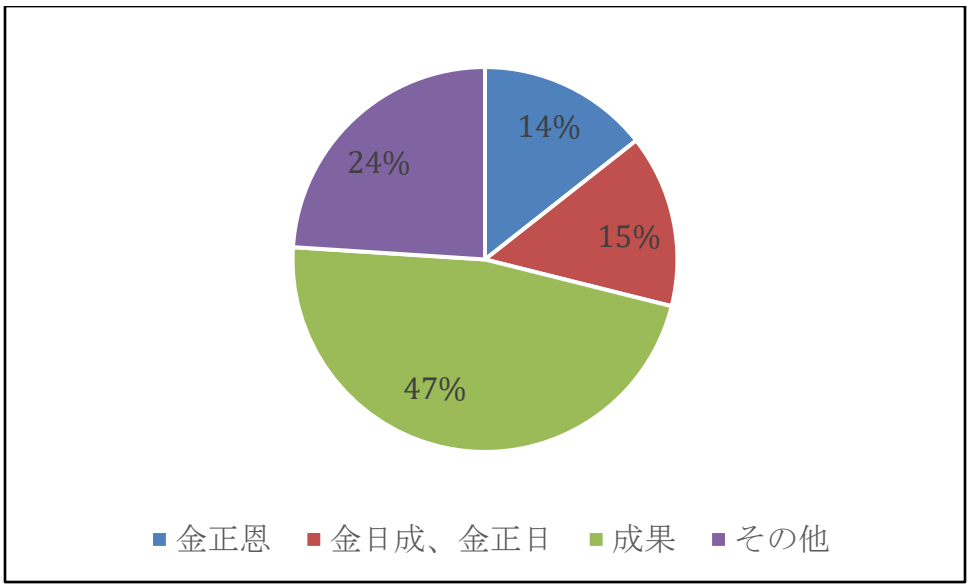
グラフ 8 のⅡ期には、金正恩や金日成・金正日の礼賛報道の合計が 35%となり、Ⅰ期に比べて割合がやや減少した。このうち金正恩礼賛は 17%、金日成・金正日礼賛は 18%と、先代の割

合が減少し、金正恩礼賛との差が縮まっている。一方、成果報道はⅠ期に比べ 14 ポイント増と顕著な伸びを示し、体制礼賛報道を 1 ポイント上回る 36%を占めた。2013 年以降、成果報道が増えたことに加え、党大会に向けさらに成果を積み上げる必要性があったことを反映している。相対的に体制礼賛報道の割合はやや減少したものの、35%に達している。

グラフ 8　Ⅱ期（2014～16 年 5 月）の「20 時報道」のニュース項目の割合



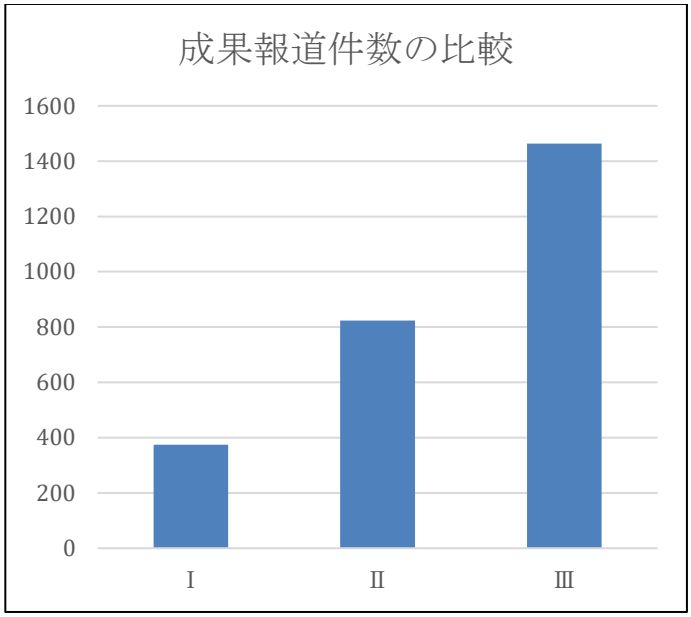
グラフ 9　Ⅲ期（2016 年 5 月～2019 年）の「20 時報道」のニュース項目の割合



グラフ 9 にはⅢ期の割合を示した。Ⅲ期には成果報道が 47%と「20 時報道」の５割近い比重を占めるに至り、Ⅰ期比 25 ポイント、Ⅱ期比 11 ポイントと大幅に増加している。要因としては党大会で決定した経済 5 カ年戦略遂行にあたり、党大会後も 200 日戦闘が展開されるなど増産活動が続いたことや、金正恩が政権発足当初から掲げている人民生活の向上をアピールする

うえで成果報道が重視されたことが挙げられる。一方、金正恩、金日成、金正日の体制礼賛報道は3割以下に縮小し、礼賛報道の割合はⅠ期の41%から11ポイント減少し29%に留まった。金正恩礼賛は14%、先代礼賛は15%と拮抗している。2016年の党大会開催、2017年の核兵器開発の完成、2018年の一連の首脳会談開催などにより金正恩の権威が確立したことを受け、礼賛報道の必要性が相対的に低下したことを意味する。また、金日成・金正日礼賛も記念日以外は減少傾向にあり、報道全体に占める礼賛報道の割合が低下した。

グラフ10　成果報道件数の比較



成果報道についてⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期に分けて比較したのがグラフ10である。Ⅰ期は400件未満であるが、Ⅱ期では800件超とⅠ期の倍以上に数字が伸び、Ⅲ期はさらにその約1.8倍の1400件超と成果報道が大幅に増加しているのがわかる。Ⅱ期の伸びの要因は、2016年の党大会開催にあたり、目に見える形で成果を積み上げる必要があったことを示している。Ⅲ期に入っても、党大会で定めた5カ年計画達成のための大衆鼓舞の手段として、また、人民大衆第一主義を目に見える形で示す手段として、成果報道が重視された。北朝鮮は自力更生の成果によって経済制裁を粉砕すると主張し、成果報道はその証左としても活用された。実質的な成果を重視する金正恩の要求に応えるため、成果報道の項目が細分化されたことも件数の増加につながっている。

第4節　「20時報道」の定量分析と報道の変化

本章では、朝鮮中央テレビの「20時報道」を集中的に取り上げ、その放送内容を「体制礼賛報道」「成果報道」「その他」の三つに分けて、それぞれの量的変化を分析した。体制礼賛報道のうち金日成、金正日の先代指導者に関するものは2012年、つまり金正恩が最高指導者とな

って間もないころの期間が最も多く、その後はやや減少し、金日成・金正日誕生日などの記念日に報道が集中する傾向を示した。金正恩礼賛は 2013 年に増加し 2015 年ごろまで年間 150 件前後で推移した。2013 年 6 月に党の唯一指導体系確立のための十大原則が発表され、金正恩の権威向上のための宣伝扇動活動が強化されたことを受けたものと考えられる。特に張成沢粛清によって幹部らに動揺が広がり、政権内部が混乱するのを防ぐため、張とその追従者らを「現代版宗派」と規定し、その影響を排除するための思想教育に力が入れられた[107]。2016 年には第 7 回党大会開催に関連した報道が増えたことにより一時的に礼賛報道が減少したが、その後再び増加した。特に 2018 年から 2019 年にかけては金正恩礼賛報道が大きく伸び、2019 年には金正恩礼賛報道が先代礼賛報道を明確に上回った。核ミサイル開発の完成と米国をはじめとする首脳会談の実現により、金正恩の権威が高まったことが報道にも反映されたといえる。これは、2021 年に党規約から金日成・金正日の固有名詞が消えるなど先代の権威が抽象化され、金正恩が統治の中心にあることを示す動きと連動している。

20 時報道における礼賛報道の量的変化からは、先代の権威で自身の権威不足を補っていた状態から、金正恩の権威の確立が確認できる。また、権威の確立に伴い礼賛報道の量自体が減少したことも明らかになった。こうした変化は先代の権威が抽象化される動きとも連動しており、今後は金正恩礼賛が中心となっていく可能性が高い。今後、礼賛の対象が金日成・金正日から金正恩に完全にシフトするかは、もうしばらく推移を見守る必要がある。

成果報道は金正恩政権下で大幅に増加した。体制礼賛報道と同様に、張成沢粛清を経た 2014 年は成果報道が強化され、前年に比べ 1.4 倍に増加している。成果・業績を誇示することによって金正恩の能力の高さ、指導の正統性をアピールしたのである。また、36 年ぶりに党大会が開催された 2016 年には成果報道が前年に比べて 200 件増加し、ピークに達した。急増の理由として、党大会を開催するための地ならしとして成果を積み上げる必要があったことが挙げられる。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の時期区分で見ると、成果報道は倍増する形で増えており、人民大衆第一主義の姿勢を目に見える形でアピールする手段として、また経済制裁に対抗する宣伝扇動手段として重視されたことがわかる。成果報道は労働を通じて結ばれた最高指導者と人民大衆の関係の維持強化を図る手段でもある。最高指導者の卓越した指導とそれに応える人民の忠誠を示す具体的な証であり、金正恩政権では国家的建設事業に組織動員された青年たちが、「突撃隊」「青年英雄」として称賛され、大々的に宣伝された。成果報道は青年層における金正恩への忠誠を高め、体制からの離反を防ぐための一種の危機管理機能も果たしたのである。

本章では「20 時報道」の量的変化をもとにⅠ期（2011 年の後継体制発足直前から 2013 年張成沢粛清まで）、Ⅱ期（2013 年張成沢粛清から 2016 年党大会開催まで）、Ⅲ期（2016 年党大会開催後から 2021 年第 8 次党大会まで）とする時期区分の仮説を提示した。次章以降はこの区分をもとに、朝鮮中央テレビに現れた映像の変化を通じて、北朝鮮社会の変化に映像メディアがどう対応し、金正恩の統治スタイルにどのような変化が生じたのかを、具体事例をもとに実証的に分析する。

---

[107] 前掲『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）2』、387 頁（注 69）

第 2 章　伝統による権力補填期（2011～13 年）

第1節　北朝鮮社会の変化と金正恩後継

北朝鮮社会は 1990 年代に大きな変化が生じた。ソ連・東欧社会主義体制の崩壊により社会主義諸国からの経済支援が途絶えたことに加え、食糧難と飢饉に見舞われたことで、「苦難の行軍」[108]といわれる危機的状況に陥ったのである。国民の大半が食糧難に直面し、社会主義の最も基本といえる食糧配給制度が実質上破綻した。人々は自力で食糧を確保する必要に迫られ、これまで非社会主義・反党的行為として規制された個人の私的経済活動が、いわばなし崩し的に容認されていった[109]。社会主義と集団主義の理念という首領制の基盤となる社会秩序が根底から揺らぎ、機能不全に陥ったのである。1995 年以前の北朝鮮社会について、鐸木は「最高首脳である首領とその指示を伝達する党（神経、血管）、そして指示通りに動く人民という社会政治的生命体論を具現化した」マスゲームをモデルとした政治社会システムと規定した[110]。人民は党が定めた「単位（組織）」に所属し、その政治的・社会的地位は「成分」によって区分され階層が固定される一方、食糧、衣服、住居、教育、医療などは無償で提供されてきた[111]。

しかし、配給システムが崩壊すると、人々は生計のために市場を利用するほかなくなり、生存のための活動を優先せざるを得なくなった。従来の政治生活と生計活動の間に生じた葛藤は、北朝鮮人民の意識に構造的な変化をもたらした。生活を保障しない国家や、生計活動を制御し収奪を強要する党幹部は、恨みと反感の対象へと変わり、これまでは恥ずかしかった「商行為」が正当な行為と認識されるようになったのである。これに対し、真正で高貴な人民の義務として、国家（首領）と人民の関係を規定していた労働に対する道徳的解釈が説得力を失い、労働英雄が創出する労働神話も無力化された[112]。市場を通じ人々は国家依存から抜け出し、個人の利益や利害を追及しはじめた。私的な経済活動よって資金を得た「돈주（トンジュ）」[113]と呼ばれる商業資本家ともいうべき新たな階層が登場し、階層分化と経済格差が一層深化した。市場は人々の流動化を促進し、移動制限が守られなくなった結果、当局の統制がきかない様々な情報が北朝鮮社会に流通するようになった。市場の拡大を恐れた金正日は公開処刑や人民裁判などの「剥き出しの暴力」[114]を人々に向けることで、市場を統制しようとしてきた。だが、市場の存在はもはや不可逆的であり、市場との闘争という課題はそのまま金正恩へと受け継がれたのである。

---

108 통일성 국립통일교육원（韓国統一省国立統一教育院）『북한 지식사전（北韓知識事典）』（2021）42－43 頁、「苦難の行軍」は北朝鮮が 1990 年代の体制危機状況を 1938 年冬の抗日遊撃隊の行軍に例えた用語。1996 年の新年共同社説で提示。

109 伊藤亜人『北朝鮮人民の生活―脱北者の手記から読み解く実相』、弘文堂、2017、427 - 9 頁

110 鐸木、前掲書（2014）、288 - 9 頁（注 4）

111 伊藤、前掲書、42－46 頁（注 109）

112 고· 이· 홍、前掲書、59-60 頁（注 22）

113 伊藤、前掲書、304 頁（注 109）

114 鐸木、前掲書（2014）、295 頁（注 4）

金正恩後継は市場に依存する生活が 15 年以上続く中で進められた。金正日は金正恩に先軍政治を受け継がせるのではなく、党が国家・軍を指導する本来の社会主義体制への移行を準備した。また、年齢も若く後継準備期間も短いことを考慮して、金正恩を補佐する後見人体制も整えた。2011 年 12 月 17 日に金正日が死去し、金正恩体制がスタートした。同月 28 日に営まれた永訣式の際には金正日の棺を乗せた霊柩車には、金正恩のほか張成沢（国防副委員長）、李英鎬（軍総参謀長）、金己男（党書記）、金永春（人民武力部長）、崔泰福（党書記）、金正覚（党政治局委員候補）ら 7 人が取り囲むようにして付き添ったことから、彼らは金正日が選んだ後見人と目された[115]。同 30 日に開かれた朝鮮労働党中央委員会政治局会議で、金正恩は朝鮮人民軍最高司令官に任命され[116]、北朝鮮の最高指導者としての一歩を踏み出した。さらに翌年 4 月 11 日開催の朝鮮労働党第 4 回代表者会で、新たに設置された「党第一書記」に推戴され[117]、その 2 日後に開かれた最高人民会議第 12 期第 5 回会議で、同じく新設された国防委員会第一委員長に推戴された[118]。これにより、金正恩は軍、党、国家の三つの最高指導者ポストに就任したが、金正日の「総書記」と「国防委員長」の肩書は引き継がず、永久欠番とした上で、「第一書記」、「国防委員会第一委員長」というポストを新設し就任した。「わざわざナンバー２のポストを新設して亡くなった父の権威を最大限利用しながら統治しようとした」（平岩）[119]のである。

金正恩が後継に内定し活動を始めた 2011 年から、張成沢が粛清される 2013 年 12 月までのこの時期は金正恩が、金正日が金正恩への権力移譲に際し、金正恩後継を維持するために選定した後見人を擁する基本的な枠組みの下で政権運営を進め、政権基盤を固めた時期といえる。金正恩は現地指導の場などで金日成のカリスマ性に自身を重ねる形で行動し、権力継承の正統性を補填することで、住民に「親しみやすく、慈愛に満ちた若き指導者」のイメージを浸透させていった。一方で、現地指導での叱責や人工衛星打ち上げ失敗を報じるなど、金日成・金正日時代には見られなかった金正恩独自のアプローチも試みた。また、李英鎬解任など金正日が選んだ後見人体制からの自立を模索する動きも示し始めた。

第 2 節　後継の正統性を可視化するための映像活用

（1）金日成のカリスマ性活用期

金正恩は後継の座につくと、その直後から積極的に映像を活用する姿勢を見せた。その先駆けとなったのが、2011 年 12 月 28 日に営まれた金正日の永訣式の模様を伝えるテレビ報道だっ

115 平岩俊司「北朝鮮の内政と対外政策　金正恩体制の構造と国際関係」（『国際問題』614 号、2012 年 9 月、33 頁）

116 朝鮮中央通信 2011 年 12 月 31 日報道

117 朝鮮中央通信 2012 年 4 月 11 日報道

118 朝鮮中央通信 2012 年 4 月 13 日報道

119 平岩、前掲書（2017）、76 頁（注 2）

た[120]。永訣式では、金正日の霊柩車が金正恩らに取り囲まれるように錦繡山記念宮殿広場（当時の名称）内を周回し、その後、金正日がほほ笑む姿を描いた肖像画や金正恩名義の花輪を載せた車とともに平壌市内を走った。40km に及ぶ沿道には軍人や市民が動員され、泣きながら金正日を見送った。霊柩車は錦繡山記念宮殿広場に戻り、国歌奏楽、21 発の弔砲、弔銃が放たれた。その後、朝鮮人民軍軍旗縦隊と陸海空軍、労農赤衛隊の儀仗隊の分列行進に移り、金正恩が査閲した。この様子を朝鮮中央テレビは当日午後 2 時から 5 時過ぎまでの 3 時間にわたって「実況中継」した。その翌年、金正日の誕生日である 2 月 16 日にも、朝鮮中央テレビは当日午後 1 時 57 分に「実況中継」の形で金正恩の錦繡山太陽宮殿参拝を放送した。金正日時代、実況中継は軍事パレードを報道する際に使われてきたものの、「錦繡山宮殿参拝」などの行事にこの手法が取られたのはこの時が初めてだった[121]。

そもそも金正日時代には、5 年、10 年ごとの記念行事をのぞいて最高指導者の動静が当日に報じられたり、映像が出ることは極めてまれであり、通常は数カ月後に記録映画という形で映像が公開されていた。ところが金正恩時代に入ると、映像公開のタイミングが格段に早まり、放送回数も増加した。軍事パレードの録画実況をはじめ、重要行事の映像は早ければ当日や翌日に放映されるようになった。金正恩の動静は 15 時のテレビ放送開始直後から報じられ、数日にわたり反復される形が定着した。最高指導者としての認知度やカリスマ性が不足していた金正恩は、現地指導を通じその映像を迅速に公開することで、新たな指導者の姿をいち早く大衆の間に浸透させ、イメージの確立を図ったのである。金正恩は金日成の「米帝・日帝に勝利した偉大な指導者」としてのカリスマ性と「慈愛に満ちた父なる指導者」のイメージを借用する形で自身の後継の正統性を可視化し、権威を補填した。そして、平壌倉田通り住宅建設や紋繡水遊び場、馬息嶺スキー場など、金正日時代に計画されたものも含めて大型施設を次々に建設した。新たな建築物を「目に見える成果」として映像で示し、新政権の下での変化をアピールしたのである。

社会主義経済の行き詰まりによって配給制度が破綻し、市場に依存する生活が常態化する中で最高指導者に就任した金正恩は、娯楽施設や住宅などの建設を通じて「人民生活向上」に配慮する指導者であることを強調する必要に迫られていた。生活を保障できない国家・党・幹部に対する人民の反感や怒りを抑えるには、配給に代わる「恩恵」を人民に提示しなければならない。だが、疲弊した経済を短期間に立て直すのは困難なため、金正恩は「人民生活向上への配慮」を示す手短な手段として建設事業を推進し、指導者や党に対する人民の意識を改善しようと試みた。金日成のイメージを「北朝鮮の社会主義計画経済が順調に機能し、繁栄していた時代」[122]の象徴としても活用し、政策面では金正日の路線を継承する形で、自身の権威・権力を補填したのである。

---

120 朝鮮中央テレビ 2011 年 12 月 28 日「위대한 령도자 김정일동지와 영결하는 의식 엄숙히 거행 조선로동당 중앙군사위원회 부위원장 김정은동지께서 당과 국가,무력기관의 책임일군들과 함께 영결식에 참석하시였다（偉大な領導者金正日同志と永訣する儀式厳粛に挙行 朝鮮労働党中央軍事委員会副委員長金正恩同志が党と国家、武力機関の責任活動家と共に永訣式に参加なさった） － 주체 100(2011)년 12 월 28 일 －」

121 錦繡山宮殿参拝の実況中継は、2013 年以降は見られなくなった。

122 伊藤、前掲書、259 頁（注 109）、1960 年代後半から 1970 年代初めにかけては北朝鮮で社会繁栄の時期と記憶されている。

以下、この時期の映像からまず「金日成のカリスマ性」と「金正日の政策」によって権力継承の正統性を可視化した映像活用の具体例を分析し、次いで独自性の端緒となる映像活用を試行錯誤も含めて検証する。

① 金日成生誕 100 周年の肉声演説（2012 年 4 月）

金正恩が初めて肉声による公開演説を披露したのは、金日成生誕 100 周年の記念行事だった。金正恩は最高指導者になった直後から、金日成の髪型、服装、立ち居振る舞いなどを模倣してきた。100 周年の一大記念行事を機に、北朝鮮住民が根強く抱いている金日成への郷愁をかき立て、自身のイメージを一層強化しようと試みた。先代の金正日は演説を嫌い、唯一残されている演説での肉声は 1992 年の朝鮮人民軍創建 60 周年で「英雄的朝鮮人民軍将兵に栄光あれ」という一言だけである。金日成が恒例としていた新年演説も労働新聞など 3 紙による共同社説で代替していた。このため、北朝鮮の住民にとって演説といえば金日成のイメージしかなく、金正恩も金日成の演説を忠実に再現することに主眼を置いた。

金日成生誕 100 周年（2012 年 4 月 15 日）では、午前 9 時 37 分から金日成広場で閲兵式が始まり、その模様は朝鮮中央テレビで実況中継された。[123]金正恩はこの日、黒の人民服に金日成バッジを着用し、金日成が好んだ「横を刈り上げて後ろになでつける髪型」で登場した。傍らの幹部らは白い軍服姿で、朝鮮戦争の停戦調印後に実施されたパレードで金日成が着ていた服装を思い起こさせた。「永遠なる朝鮮人民軍陸海空軍及び戦略ロケット軍将兵達……」で始まった金正恩の第一声は、声のトーンやしゃべり方、体の揺すり方まで金日成を強く意識したもので、演説を聞いた住民に金日成を想起させるよう工夫されていた。演壇の前に複数のマイクが置かれ、演説の合間に住民の拍手が入るのも、金日成の新年の辞を彷彿とさせた。金正恩は 20 分にわたる演説の間、顔を上げることはほとんどなく、終始原稿に目を落としながら読み上げ、周囲を見渡す余裕は見られなかった。締めくくりの部分では顔を上げ、「最後の勝利に向かって、前へ！」と叫び、「前へ」の部分では、右手の人差し指を立て前に振る動作をして見せた。

金正恩は政権発足後初めて、海外の来賓やメディアも招いた大規模行事で肉声演説し、住民らに金日成を強く想起させるという所期の目的を果たした。式典全体の演出は金正日時代の慣例に沿って進行され、後に見られるような凝った演出は示されなかった。これ以降、金正恩は単に姿かたちを模倣するだけでなく、人民愛と親しみにあふれた金日成のイメージを利用しながら、実際に現地指導で住民らと積極的に触れ合う様子を前面に押し出して、人民の生活に配慮する姿勢をアピールしていった。

② 平壌・綾羅人民遊園地視察（2012 年 7 月）

金正恩は 2012 年 7 月 24 日に綾羅人民遊園地を視察し、25 日の完工式には女性を伴って出席した。朝鮮中央テレビは 25 日の「20 時報道」で初めて、女性は金正恩の妻で、名は李雪主だ

---

[123] 朝鮮中央テレビ 2012 年 4 月 15 日午前 9 時 37 分放送「<실황중계> 위대한 수령 김일성대원수님 탄생 100 돐경축 열병식 진행（〈実況中継〉偉大な首領金日成大元帥様誕生 100 周年慶祝閲兵式進行」

と報じた[124]。24 日の視察は 25 日のテレビニュースで写真付きで報じられ、26 日には 25 日の完工式の様子が、早くも約 13 分の記録映画となって放映された[125]。記録映画が翌日に放映されたことから、完工式が軍事パレードなどの重要行事並に重視されていたことがわかる。放映回数も 26～29 日の 4 日間に 10 回と、通常の視察報道よりも多い[126]。さらに同遊園地に関する 4 月から 7 月までの動きをまとめた 44 分の記録映画も別途作成され、大々的に報じられた。祖父の金日成が夫人を公式の場に同伴したのと同様、李雪主の存在を国民に知らしめたのである[127]。

表 2. 綾羅人民遊園地関連報道（2012 年 7 月）

	現地指導	記録映画	
日時	7 月 25 日	7 月 26～29 日	7 月 30～31 日
題目	竣工を控えた 綾羅人民遊園地 視察	〈朝鮮記録映画〉 敬愛する金正恩元帥を迎えて 綾羅人民遊園地の竣工式を 盛大に進行	〈朝鮮記録映画〉 敬愛する金正恩元帥が 綾羅人民遊園地第一段階の 建設事業を精力的に指導
報道 開始 時刻	12 時 10 分 15 時 20 分 17 時 00 分 20 時 00 分 22 時 14 分	26 日　12 時 10 分　17 時 00 分 20 時 00 分　22 時 14 分 27 日　13 時 54 分　17 時 36 分 20 時 46 分 28 日　15 時 7 分	30 日　18 時 00 分 31 日　19 時 00 分
時間	約 6 分	約 13 分	約 44 分
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ
素材	写真	動画	動画
特徴	20 時ニュースで 「夫人の李雪主」と 紹介	李雪主と園内視察 金正恩が絶叫マシーン試乗 駐在外交官ら同行 イルカ館、遊泳場など	4～7 月の計 4 回現地指導と 完工式のまとめ
回数	5 回	10 回	2 回

124 朝鮮中央テレビ 2012 年 7 月 25 日放送「경애하는 김정은 원수님께서 준공을 앞둔 능라인민유원지를 돌아보시였다（敬愛する金正恩元帥様が竣工に先立ち綾羅人民遊園地をご覧になった）」

125 朝鮮中央テレビ 2012 年 7 月 26 日放送「〈조선기록영화〉경애하는 김정은 원수님을 모시고 릉라인민유원지 준공식 성대히 진행（〈朝鮮記録映画〉敬愛する金正恩元帥様を奉じ綾羅人民遊園地竣工式盛大に進行）－主体 101（2012）7.25－」

126 記録映画は 26 日が初出であるが放送開始時刻は不明。このため 26 日の綾羅遊園地完工式の報道 4 回はすべて記録映画としてカウントした。

127 伊豆見、前掲書、125－128 頁（注 6）

完工式の映像では黒い人民服姿の金正恩とワンピースに黒のパンプス、ショートカット姿の李雪主が登場し、完成した遊園地のミニゴルフ場や水遊び場、イルカ館などを見て回った。西側的な洗練されたファッションに身を包んだ美貌の李雪主は、内外の注目を浴びた。金正恩は結婚し家庭を持っていることを明らかにすることで安定感を強調するとともに、西側諸国のように夫人同伴で行動する姿を示して、新時代の指導者の姿を印象づけた。24 日の視察には平壌駐在の大使ら外交団が招待され、金正恩夫妻に同行した。目玉のイルカショーの観覧後には、金正恩が李雪主とともに、中国の駐北朝鮮大使の劉洪才や夫人と話したり、ロシア大使の挨拶を受けたりする場面もあった。最高指導者の視察に外交団が同行するのは異例で、金正恩は前政権からの変化を全面に押し出して、国際社会にオープンであり、交流の意思もあることを示したのである。映像には、金正恩が英国の若手外交官らとともに絶叫マシーンに試乗する姿も含まれていた。北朝鮮の金正恩が西側外交団とこれほどの至近距離で接したのは初めてだったとみられる。

これらの映像は金正日時代の秘密主義で近寄り難い、北朝鮮の最高指導者のイメージを根底から覆すもので、金正恩のこだわりのなさ、若さが際立った。遊具に興じる姿は最高指導者としての威厳を損ない、指導力に疑問を抱かせかねない恐れがある一方で、北朝鮮社会を覆っていた閉塞感を打破し、人民大衆に変化への期待を呼び起こす効果があった。北朝鮮メディアはこの視察について「世界に向けて、人民の最高理想を実現するために進む金正恩時代、ウリ（私たち）式社会主義の真の姿がはっきりと誇示された」[128]として、同遊園地が金正恩時代の象徴としてお披露目されたと報じた。また、同遊園地を「父なる金正日将軍様が特別に関心をもたれ、敬愛する金正恩元帥様が心血と情を注いで完成させた」と紹介し、「熱い人民愛の結晶であり、社会主義万年財富である」と称えた。朝鮮労働党からの勤労者や住民へのプレゼントである点を強調したうえで、「朝鮮人民が社会主義栄華を存分に享受するようにしようというのが党の意図」[129]と宣伝している。報道が社会主義の優越性を強調し、遊園地を人民への「贈り物」と表現したのは、北朝鮮社会の変化に伴う対応の一環といえる。最高指導者と党の「配慮」「恩恵」を強調することで、人民大衆との関係を改善し、体制維持につなげることが求められたのである。

③平壌・倉田通りの住宅視察（2012 年 9 月）

金正恩は 2012 年 9 月 4 日、李雪主とともに、平壌・倉田通りの住宅に引っ越した教員、労働者、新婚夫婦の各家庭を訪れて懇談した。その模様は 5 日の定時ニュースで写真と共に報じられ[130]、6 日からは 17 分ほどの記録映画にまとめられ[131]、10 日までの間に 7 回放映された。

---

128 朝鮮中央通信 2012 年 7 月 25 日「金正恩元帥様を奉じ綾羅人民遊園地竣工式盛大に進行」

129 同上（朝鮮中央通信 2012 年 7 月 25 日）（注 128）

130 朝鮮中央テレビ 2012 年 9 月 5 日「경애하는 김정은원수님께서 창전거리살림집들에 입사한 근로자들의 가정을 방문하시였다（敬愛する金正恩元帥様が倉田通りの住宅に入居した労働者家庭を訪問なさった）」

131 朝鮮中央テレビ 2012 年 9 月 6 日放送「<조선기록영화> 경애하는 최고사령관 김정은원수님께서 창전거리살림집들에 입사한 근로자들의 가정을 방문하시였다（〈朝鮮記録映画〉敬愛する最高司令官金正恩元帥様が倉田通りの住宅に入居した労働者家庭を訪問なさった）－主体 101（2012）9.4－」

住宅は労働者に無償で供給され、室内に備え付けられた家具一式などはすべて金正恩からの贈り物とされた。金正恩は人民服姿、李雪主はワンピース姿でお土産が入っているとみられる白いビニール袋を手にしていた。記録映画では一般庶民の家庭を訪れた金正恩と李雪主が気さくな様子で家族らに接し、床に座って話をしたり、金正恩が手ずから祝杯を注いで飲ませたりする姿を伝えている。最初に訪れた教員家族の家庭で金正恩は、水道の水の出を確認したり、お婆さんの手を取ってソファに座らせたりと住民を気遣って見せた。李雪主が自ら台所に立ってカップを洗う場面もあった。金正恩は床にあぐらをかいて座り、一家と歓談しながら世界童話全集、食器セット、液晶テレビ「アリラン」など贈り物の一式を渡した。次に訪れた労働者家庭では、金正恩が出迎えた小学一年生の次男の頬を撫で膝に抱いたり、話しかけたりする様子が度々映し出され、子供を慈しむ最高指導者の姿をアピールした。

表 3. 倉田通り住宅視察報道（2012 年 9 月）

	住宅視察	記録映画
日時	9 月 5 日	9 月 6～10 日
報道題目	金正恩元帥様が 倉田通り住宅に入居した 勤労者の家庭を訪問	〈朝鮮記録映画〉 敬愛する最高司令官・ 金正恩元帥様が倉田通り住宅に入居した勤労者の家庭を訪問なさった 主体 101（2012）.9.4
報道開始時刻	17 時 08 分 20 時 00 分 22 時 23 分	6 日　17 時 8 分 20 時 00 分 7 日　19 時 15 分 8 日　22 時 00 分 9 日　12 時 00 分 18 時 00 分 10 日　20 時 20 分
時間	約 11 分	約 17 分
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ
素材	写真	動画
内容	李雪主と 3 家庭を訪問、贈り物を渡す 懇談、乾杯、記念写真など	
回数	3 回	7 回

ここでも贈り物一式が渡され、李雪主が子供達に手製のマンドゥ（朝鮮式餃子）を持参したことも報じた。ファーストレディである李雪主が家庭の主婦としてふるまう庶民的な姿を公開

し、遊園地の視察と同様、金正恩が家庭を持つ安定感のある指導者であることを示そうとした。家長としてふるまう姿を見せることで、金正恩の若さや経験不足から生じる不安感を払拭しようとする意図が窺える。

報道では総体的に、最高指導者が住民一人一人の暮らしぶりに心を砕き、幸せな生活が送れるように配慮していることをアピールするとともに、そうした最高指導者の心遣いに感激する労働者家庭の姿が強調されている。平壌の最新式アパートは人民生活向上の象徴であり[132]、金正恩と党の配慮によって幸せな生活が実現したと宣伝される。一般の労働者家庭が選ばれたのは、誰でも同様の恩恵に預かる機会があるとの希望を抱かせるためといえよう。

④平壌・紋繍水遊び場視察（2013 年 10 月）

2013 年 10 月に完成した紋繍水遊び場は、金正恩の肝煎りで造られた北朝鮮最大の遊技施設である。敷地面積 10 万 9000 平方メートルの広大な敷地に屋内外に 10 以上のプールと巨大な滑り台を備え、バスケットコートやロッククライミングなどの室内競技場もある大型のレジャー施設となる。金正日の遺訓を受けて、金正恩が「立派な文化・情緒生活基地を青少年に与えるべきだ」 と建設を指示した。「世界的な（水準の）水遊び場」であり、「人民が文明的な生活を存分に享受できるもう一つの近代的な文化休息場」[133]とされ、北朝鮮はその完成を大々的に報じた。韓国メディアは建設費用が 3 億ウォンを超える[134]と推定される大規模プロジェクトで、建設には数万人規模の軍人が大量動員されたと伝えた。建設から完成までの間、金正恩は建設現場を繰り返し視察し、様々な指示を与えた。朝鮮中央テレビは 10 月 14 日に金正恩が完工した紋繍水遊び場を視察した様子を 15 時の放送開始直後に伝え[135]、17 時、20 時、今日の報道の中からの定時ニュースでも繰り返し報じた。金正恩は竣工式の準備状況を了解したうえ、「党が批准した設計の要求通りに立派に建設した」[136]と満足の意を表した。さらに「紋繍水遊び場の幹部と従業員が人民に対する献身的奉仕の精神を持って奉仕活動をよくし、水遊び場のすべての施設を積極的に愛護管理しなければならない」[137]と指示した。

室内ホールの入り口には海辺の風景をバックにトレードマークのジャンパーを身に着けた金正日の石膏像が設置された。これを見た金正恩は、「人民に総合的な水遊び場を作ってやろうとお心遣いされた将軍様が、見事に完成された紋繍水遊び場をご覧になったらどれほど喜ばれただろうか」と述べたと報じられ、金正日の遺訓を引き継ぐ「孝行息子」の姿を演出している。さらに同月 17 日には新たな記録映画「紋繍水遊び場に宿る人民愛の新たな伝説」を放映

---

132 伊藤は前掲『北朝鮮人民の生活』238 頁（注 109）で、アパート型または連立住宅型の住宅は、集団主義思想と同時に身分昇進意欲を高める効果があったと指摘している。

133 朝鮮中央通信 2013 年 10 月 13 日付「敬愛する金正恩元帥様が完工した紋繍水遊び場を見て回られた」

134 YTN2013 年 10 月 19 日「平壌に大型ウォーターパーク…経済の歩みに拍車」

135 朝鮮中央テレビ 2013 年 10 月 14 日放送「경애하는 김정은원수님께서 완공된 문수물놀이장을 돌아보시였다(敬愛する金正恩元帥様が完工した紋繍水遊び場を見て回られた)」

136 前掲、朝鮮中央通信 2013 年 10 月 13 日付（注 133）

137 同上（注 133）

し、23 日までの間に 8 回放送した[138]。42 分ほどの記録映画では、工事開始の初期段階から金正恩が何度も建設現場に足を運び、指示を重ねる様子が描かれる。視察は 5 月から 10 月にかけて 7 回、特に 9 月 22 日は昼間と深夜の 2 回訪れた。深夜の視察はこの日も含め 2 回と紹介されている。金正恩は造成、基礎工事、室内工事など工事の段階が進むごとに現場を訪れ、身振り手振りを交えながら熱の入った指導を繰り広げた。設計からシャワー室など各施設の仕上げ、家具や水着などのデザインまで、住民が使いやすいように細部にまでこだわる金正恩の様子が描写され、精力的な仕事ぶりや指導力が強調されている。記録映画では、大量の軍人が手作業で建設にあたる場面が随所に織り込まれ、建設現場を訪れた金正恩に軍人の大群衆が熱狂する様子も映し出された。軍人の大量動員により、工事はわずか 9 カ月で完了したと称えられている。紋繡水遊び場の建設現場での金正恩は、他の現地指導の場よりもジェスチャーが大きく、力が入っているように見える。金日成のカリスマ性に頼らなくても、自身の裁量で指導力を発揮できる余地が大きいことや、政権発足から 2 年近くなり政権運営が安定してきたことなどがその理由といえるだろう。

表 4. 紋繡水遊び場関連報道（2013 年 10 月）

	現地指導	記録映画
日時	10 月 14～15 日	10 月 17～23 日
報道内容	完成した紋繡水遊び場視察	〈朝鮮記録映画〉紋繡水遊び場に宿る人民愛の新たな伝説
報道開始時刻	14 日　15 時 09 分 17 時 00 分 20 時 00 分 22 時 29 分 15 日　15 時 55 分 20 時 24 分	17 日　18 時 00 分 18 日　17 時 30 分 19 日　20 時 30 分 20 日　9 時 10 分 16 時 00 分 21 日　19 時 00 分 22 日　18 時 00 分 23 日　17 時 30 分
時間	約 4 分	約 42 分
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ
素材	写真	動画
内容	美林乗馬クラブ完成と併せて報道	建設の初期から各段階での視察、身振り手振りで熱心に指示、夜間視察も
回数	6 回	8 回

138 朝鮮中央テレビ 2013 年 10 月 17 日放送「〈조선기록영화(朝鮮記録映画)〉 문수물놀이장에 깃든 인민사랑의 새 전설（紋繡水遊び場に宿る人民愛の新たな伝説）」

北朝鮮はこれまで最高指導者の現地指導を通じて、広い包容力を持って住民を慈しむ父親のような存在、卓越した能力で労働者や軍人、官僚らを教え導く存在として、最高指導者の姿を伝えてきた。金日成は「父なる首領様」と称され、様々な場面で住民の肩を抱き触れ合う姿がイメージとして定着している。これに対し、金正日は現地指導の際に腕組みするなど、一段上の立場から指導する姿を見せることが多かった。権威主義的で近寄り難い指導スタイルであり、住民と積極的にスキンシップを取ることはなく、夫人の存在や政策決定のプロセスを公開することもなかった。金正日は権力継承の過程で金日成の神格化を進めると同時に、自らの生誕地を白頭山に書き換え、金日成の聖性と神秘的能力をも継承しているとして後継の正統性を担保してきた[139]。金正日時代の報道は「金正日の指導は奇跡を生み、伝説となって」[140]おり、それは金正日の高い徳性によるものだとする逸話であふれている。しかし、実際には金正日時代は、配給制度の崩壊や飢饉による飢餓の発生によって「苦難の行軍」が続き、大衆の人気が金日成に及ばないことは、金正日自身も認識していた[141]。

このため金正恩後継では決定の段階から、金日成に容貌を似せ、「帝国主義への勝利」「社会主義の繁栄」といったイメージを再現することで、政権基盤の確立に利用しようとしたのである。また、「親しみやすく人民愛にあふれた新たな指導者」の登場を印象づけるため、兵士、住民、学生など腕を組んだり、並んで写真を撮ったりする場面を意識的に増やし、住民とのスキンシップを大切にする指導者のイメージを植え付けようと試みた。一方で、最高指導者として経験と実績を重ねるにつれ、金正恩なりの自己主張が次第に表に出てくるようになった。紋繍水遊び場での現地指導からは「世界水準」にこだわり、現地指導を繰り返してリーダーシップを発揮する金正恩の姿が示される。世界水準を強調することで人民に金正恩時代への期待感を抱かせ、人民生活向上を印象づけようとしたのである。

（2）試行錯誤、幹部恫喝と人民大衆第一主義の併用スタイルの芽生え

① 映像利用の試行錯誤

金正恩政権では当初「衛星打ち上げ失敗」など政権の失策を認める報道や、牡丹峰楽団によるディズニー音楽の演奏公開など、これまで禁じてきた西側文化を解禁するような動きがみられた。一連の報道は映像的にも大きなインパクトを持っていた。対外的には、閉鎖国家のイメージを転換し、北朝鮮の変化を意味するのではないかと注目される一方で、国内的には動揺を招き体制維持に悪影響を与えかねない要素を内包していたからである。このため、こうした報道がなされた背景に関心が集まった。

---

139 鐸木、前掲書（2014）、202 頁（注 4）

140 同上、222 頁（注 4）

141 崔銀姫・申相玉『闇からの谺―北朝鮮の内幕』上巻、（文春文庫、1989 年）39 頁、金正日万歳の声に対し金正日は「みんなウソですよ。ウソでやっているんですよ」と語った。

北朝鮮の朝鮮宇宙空間技術委員会は 2012 年 3 月 16 日、地球観測衛星「光明星 3 号」の打ち上げを発表し[142]、4 月 8 日に光明星３号と西海衛星発射場などを外国メディアに公開した[143]。外国メディアへの公開という異例の措置に踏み切ることで、弾道ミサイルを人工衛星とする北朝鮮の主張の正当性と技術力の向上を世界にアピールしようとしたのである。同時に情報の公開性を高め、北朝鮮の閉鎖的なイメージを払拭することで、金正恩時代の「変化」を印象づける狙いもあったと見られる。4 月 13 日の打ち上げ失敗は、朝鮮中央テレビが臨時ニュースの形で報じた。北朝鮮が最高指導者や党の失策を公に認めることは例がなく、その真意に関心が集中した。失敗の事実を公表する場合、最高指導者や党の権威を大きく損なう恐れがあり、前述の通り北朝鮮の放送体系では、最終判断は金正恩以外には下せない。そのため、失敗公表は金正恩が指示したと推察される。外国メディアを受け入れていたために、失敗であっても結果を公表せざるを得なかった側面もあり、試行錯誤の上での決断といえよう。

映像を通じた試行錯誤は文化行事でも見られた。朝鮮中央テレビは 2012 年 7 月 7 日、金正恩が李雪主とともに、新たに組織した牡丹峰楽団の示範公演を観覧したと報じた[144]。同月 9 日には 10 数分の記録映画が公開され[145]、11～12 日の 2 日間は公演の模様が録画実況として 1 時間 40 分にわたって放映された[146]。12 日には 17 時の定時ニュースの後、午後 8 時 15 分から牡丹峰楽団公演の実況録画放送があることを告げる短い予告放送もなされた。金正恩が牡丹峰楽団の存在を国民に広く知らしめ、自身が良いと考える「西側の音楽」を聞く機会を与えようとしたものと解釈できる。牡丹峰楽団は金正恩が「文学芸術部門で革命を起こすための遠大な構想を抱かれ、新世紀の要求に合った」楽団として創設したとされた。

示範公演は「革命的で戦闘的であり、形式は新しく独特で、現代的でありながら人民的なもので一貫された個性ある公演」と紹介された。ミニスカート姿の若い女性が集団で、エレキギターやドラムなどを演奏する姿は西側のガールズバンドを想起させ、北朝鮮ではこれまで見られなかった斬新なスタイルであった。演目にハリウッド映画「ロッキー」のテーマ曲や、ディズニーアニメの主題歌など敵国である米国の資本主義的な音楽が含まれていたことも国際社会の注目を集めた。金正恩は「公演のテーマと構成から編曲、楽器編成、演奏技法と形状に至るまで、すべての音楽の要素を既成習慣から抜け出し大胆に革新した」と評価したうえで、「公演は 2 時間以上に及んだが、まったく退屈しなかった、また見たい心情だ」「気分が非常に良い」と称賛している。さらに「朝鮮人民の好みに合う民族固有の優れたものを創造するとともに、他の国のものも良いことは大胆に受け入れ、私たちのものにしなければならない」[147]とも

---

142 朝鮮中央通信 2012 年 3 月 16 日報道

143 朝鮮中央通信 2012 年 4 月 8 日報道

144 朝鮮中央テレビ 2012 年 7 月 7 日放送「경애하는 김정은동지께서 새로 조직된 모란봉악단의 시범공연을 관람하시였다（敬愛する金正恩同志が新たに組織された牡丹峰楽団の示範公演をご覧になった）」、当時の報道では李雪主が夫人であることを明かしていない。

145 朝鮮中央テレビ 2012 年 7 月 9 日放送「<조선기록영화(朝鮮記録映画)> 경애하는 김정은동지께서 새로 조직된 모란봉악단의 시범공연을 지도하시였다(敬愛する金正恩同志が新たに組織された牡丹峰楽団の示範公演を指導なさった）－主体 101(2012)7.6」

146 朝鮮中央テレビ 2012 年 7 月 11 日 20 時 15 分放送「<록화실황(録画実況)> 경애하는 김정은동지를 모시고 진행한 모란봉악단 시범　공연(敬愛する金正恩同志が奉じ進行された牡丹峰楽団示範公演)」

147 朝鮮中央通信 2012 年 7 月 7 日報道

述べた。公演の内容が米国寄りであるとして、北朝鮮内部から「敵国文化の容認」「退廃的」などとの批判が出る可能性をふまえ、正当化を図ったものといえる。

表 5. 牡丹峰楽団示範公演報道（2012 年 7 月）

	観覧報道	記録映画	録画実況
日時	7 月 7 日	7 月 9～10 日	7 月 11～12 日
報道内容	新たに組織された牡丹峰楽団の示範公演を観覧	〈朝鮮記録映画〉敬愛する金正恩同志が新たに組織された牡丹峰楽団の示範公演を指導なさった	〈録画実況〉敬愛する金正恩同志を迎えて開かれた牡丹峰楽団示範公演
報道開始時刻	17 時 08 分 20 時 00 分 22 時 39 分	9 日　19 時 31 分 20 時 25 分 10 日　18 時 00 分 22 時 03 分	11 日　20 時 15 分 （予告）17 時 16 分 12 日　20 時 15 分
時間	約 13 分	約 14 分	約 1 時間 40 分
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ	録画実況
素材	写真	動画	動画
回数	３回	10 回	２回

金正恩が資本主義文化を許容する動きの背景には、13 歳から 17 歳まで思春期の 4 年間をスイスのベルンで過ごした経験がある。백학순（白鶴淳）は「スイス留学を通じてヨーロッパの文化と文明を経験したことにより、北朝鮮を考える際にスイス、西洋世界という「比較の準拠」（reference frame）を持つことになった」[148]と指摘している。社会主義経済が行き詰り、人民大衆の離反が広がりつつある現状を打開するため、金正恩は外国資本の導入や一定程度の改革開放を模索せざるを得なかったといえよう。しかし、北朝鮮は長らく資本主義文化を敵視し、堕落の象徴として排斥してきた。このため、外国文化の受け入れは幹部らの当惑や反感を招き、容易ではなかったと推定される[149]。牡丹峰楽団はその後も金正恩の肝いりの楽団として「祖国を輝かせていくための闘争で力のあるラッパ手、機関車、軍隊と人民の真の道連れとしての使命」[150]を果たす存在として活動を続けたが、初回公演以降、資本主義文化を代表するハリウッド音楽やディズニーの主題歌が公開の場で演奏されることはなかった。

148 백학순（白鶴淳）「김정은의 외교·안보·통일 리더십（金正恩の外交・安保・統一リーダーシップ）」정성장·백학순·임을출·전영선（鄭成長·白鶴淳·林乙出·チョンヨンソン）『김정은 리더십 연구（金正恩リーダーシップ研究）』、世宗研究所、2017、69 頁

149 시사 IN(時事 IN) 2012 年 7 月 26 日「리영호 전격해임된 계기는 모란봉 공연（李英鎬電撃解任の契機はモランボン公演）」韓国の時事 IN は李英鎬が牡丹峰楽団の公演を「資本主義的」と批判したことが解任のきっかけになったと報じた。

150 朝鮮中央通信 2012 年 7 月 7 日報道

人工衛星打ち上げの失敗や、牡丹峰楽団の米国音楽の演奏などで見られた北朝鮮報道の「変化」は、金正恩の試行錯誤の一環に留まった。前者は最高指導者や党の権威を傷つけ、安全保障面での弱点を露呈する懸念もあるため、北朝鮮にとってはあえて公開するメリットがない。また、後者のように、資本主義文化の流入を許容すれば、体制の根幹となっている金正恩を頂点とする「唯一的指導体系」を揺るがしかねない。金正恩は朝鮮労働党宣伝扇動部などと内外の反応を見極めた結果、こうした報道が「体制維持に資さない」との判断に至った可能性が高い。これ以降、核ミサイル開発での失敗を認めたり、資本主義文化を肯定したりするような報道は、目立たなくなった。

② 神秘現象報道の消失

金正恩は映像を通じて大衆の間に新たな指導者のイメージを定着させた。一方で、金日成・金正日時代に時に報じられた最高指導者の超人的な能力や、最高指導者の周囲に起きる神秘現象は伝えなくなった。「韓国国民が金正日を思慕している」という報道も同様である。北朝鮮において金日成は抗日武装闘争を率い、祖国を開放に導いた「不世出の英雄」であり、白頭山の精気を受け継いだ「天が下した霊将」とされる。ゆえに、金日成は人智を超えた能力と天変地異など神秘現象を伴う無数の伝説を持つ。遠い距離を縮めて移動する仙術・縮地法などはその代表例であり、太陽や星が金日成の象徴とされた。金正日も、金日成と同様の神話を受け継いでいる。金正日は抗日武装闘争中に白頭山の密営で生まれたと伝承され、誕生の際は天池の氷が割れたり、天池の上に二重の虹がかかったりといった天変地異が相次いで生じたと宣伝された。金正日もまた星と太陽で象徴され、「白頭山の精気」を受け継ぐ存在として神格化されてきた。金日成、金正日の神格化はいずれも指導体制の形成期と関連している[151]。金日成の神格化は金正日が後継体制を固めた 70 年代に推し進められた。また、白頭山密営の整備など 80 年代後半に始まった金正日生誕に関する新たな象徴操作は、ソ連や東欧で社会主義体制の崩壊が進行する中、金正日への権力移譲の正統性をより強固にすることが目的とされた。

前掲『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）2』では、1970 年代の金正日後継の過程で得られた「貴重な」経験が金正恩の後継体制作りにあたっても生かされたとしている[152]。金正日の場合は世襲批判を避けるため、後継者としての能力の高さが何よりも強調された。金正恩は金正日と違い、後継の座を脅す競争相手は存在しなかったが、それでも同様の手順が踏まれた。首領の後継者には、領導者の風格と資質を備え、革命に貢献した人物がふさわしいとされ、金正日は金正恩がそのすべてを完備しているとして、次のように強調している。

「（金正恩同志は）以前から我々と先軍の道をともに歩みながら、党の先軍革命領導を先頭で戴き、この過程で革命偉業の継承者、後継者が持たなければならない思想理論的英知と領導力、崇高な人民的風貌をより円満に持つようになりました」[153]。

---

151 鐸木、前掲書（2014）、207 頁（注 4）

152 前掲『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）2』）、330 頁（注 69）

153 『김정일선집（金正日選集）』増補版第 25 巻、419 頁

金正恩の資質としては首領への忠誠心、思想理論の大家、秀でた軍事資質と卓越した領導力、高邁な人民的風貌が挙げられた[154]。また、革命への忠誠、天才的英知、鉄の胆力と度胸、非凡な実力と資質、謙虚性と素朴性、人民に対する熱い愛情などが、金正恩の「偉大性」として北朝鮮内部で大々的に宣伝された[155]。これらは、金日成から金正日への後継が決定した際に「後継者」として兼ね備えていると評価された資質と共通する 。金正恩後継の道筋は 1970 年代の金正日後継過程を踏まえ、まず、後継者にふさわしい能力を持つ人物として首領のお墨付きが与えられ、金正恩の「徳性」が大々的に宣伝され、人民の間に金正恩を「欽慕し仰ぎ慕う」風潮が沸き起こり、それに応える形で進められた。

白頭山は権力継承の正統性を担保する根源的な要素であり、金日成の風貌に姿形を似せるのも、金正恩が白頭の血統の一員であることを常に想起させるためである。だが金正恩の場合、最高指導者としての卓越した能力は強調されているが、神秘的な超能力や天変地異などの逸話はほとんど見られず、生誕にまつわる「神話」も創作されていない。この点は金日成・金正日とは決定的な違いを示している。社会主義体制の崩壊という危機的状況の中で権力を継承した金正日は、権力の正統性を最終的に確立し体制を維持するため、神秘現象も含めた生誕にまつわる新たな「神話」を必要とした[156]。一方、金正恩は「科学技術の力で経済強国建設の転換的局面を開く」[157]として科学技術を重視する姿勢を示し、非科学的な神秘現象とは相容れない立場を取ってきた。2019 年 3 月には「第 2 回全国党初級宣伝活動家大会」に送った書簡[158]の中で、「重要なのは、首領は人民と離れている存在でなく、人民と生死苦楽を共にして人民の幸福のために献身する人民の領導者だということについて深く認識させることである」としたうえで、「偉大性を強調するために、首領の革命活動と風貌を神秘化するならば、真実を隠してしまうことになる」と述べ、最高指導者の神秘化を明確に否定した。首領を神格化し人民からかけ離れた存在とするのではなく、より現実的で身近な存在とすべきだとしている点に金正恩の現実重視の姿勢が示されている。

労働新聞は翌年「『縮地法』の秘訣」と題する記事を掲載し[159]、抗日パルチザン時代の金日成を神格化する代表的な逸話である縮地法について、「人がその場からいなくなったり、いなくなった人が再び現れたりするような、地面を折りたたんで行き来するようなことはできない」と否定した。指導者像の変化は社会状況の変化も反映している。配給体制の崩壊は、首領の絶対性と万能性の否定につながった。首領の「愛と恩恵」に限界が露呈したことにより、報酬を前提として成り立っていた人民の忠誠は揺らぎ、首領にまつわる「神話」の効力も失われたのである。非科学的な神秘現象に基づく「神話」からより身近で人間的な存在へ、金正恩の礼賛報道が変化したのもそのためと考えられる。

---

154 同上『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）2』、331 頁（注 69）

155 同上『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）2』、335～6 頁（注 69）

156 鐸木、前掲書（2014）、206～7 頁（注 4）

157 朝鮮中央通信 2013 年 1 月 1 日「김정은동지께서 2013 년 새해를 맞으며 신년사를 하시였다（金正恩同志が 2013 年新年を迎え新年の辞をなさった）」

158 朝鮮中央通信 2019 年 3 月 9 日「敬愛する金正恩同志が第 2 回全国党初級宣伝活動家大会に書簡《斬新な宣伝先扇動で革命の前進動力を倍加していこう》を送られた」

159 『労働新聞』2020 年 5 月 20 日付 2 面「『축지법』의 비결(『縮地法』の秘訣)」

③ 幹部恫喝と人民大衆第一主義の結合

金正恩は金日成の風貌や統治スタイルの模倣を前面に打ち出し、金正日がやり遂げられなかったプロジェクトを引き継ぐ形で、言わば金正日が準備した後継体制の枠組みの中で政権基盤を強化してきた。一方で、現地指導の際に現場の責任者を叱責する姿を公開するなど、金正日時代には見られなかった統治スタイルも示し始めた。最高指導者の「笑顔」と「満足」で終わる予定調和の現地指導にとどまらず、幹部の怠慢や官僚主義、不正腐敗を厳しく叱責する姿を公開したのである。金正日時代には社会主義計画経済が瓦解し、配給システムが維持できなくなり、格差が広がり、幹部らの不正腐敗が横行した[160]。金正日は「幹部が力をふるって、官僚的姿勢をとり、不正腐敗をこととすれば、社会主義執権党は大衆の支持と信頼を失い、大衆の支持を受けることのできない党は自らの存在を維持できない」[161]との強い危機感を持っていた。金正恩も同様に、幹部の怠慢、不正腐敗を許さないという強い姿勢を「人民大衆第一主義」として示すことで、人民の支持を得ようと試みたのである。

表 6. 万景台遊戯場視察報道（2012 年 5 月）

	現地指導	記録映画
日時	5 月 9 日	6 月 14～20 日
報道内容	万景台遊戯場視察	〈朝鮮記録映画〉敬愛する金正恩同志が各部門の事業を現地で指導
報道開始時刻	9 日　17 時 08 分 9 日　20 時 00 分 9 日　22 時 52 分 10 日　19 時 33 分	14 日　18 時 00 分 15 日　17 時 30 分 16 日　18 時 00 分 17 日　14 時 00 分 18 日　20 時 20 分 19 日　15 時 00 分 29 日　17 時 30 分
時間	約 7 分半	約 77 分
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ
素材	写真	映像
内容		万景台遊技場含む 11 件ほどの視察まとめ
回数	6 回	7 回

160 鐸木昌之「先軍政治とポスト金正日」（現代韓国朝鮮研究第 7 号、2007. 12、7 頁）

161 김정일「사회주의는 과학이다（社会主義は科学である）」『김정일선집（金正日選集）』第 13 巻、（朝鮮労働党出版社、1988）、484 頁

北朝鮮の主要メディアは 2012 年 5 月 9 日、金正恩が平壌の万景台遊戯場を訪問したことを一斉に報じた[162]。金正恩は遊戯場構内の歩道ブロックの間に雑草が生えているのを見ると、「自ら雑草を抜いて活動家の目にはこのようなものが見えないのか、遊戯場の管理する活動家が主人らしい立場と職場に対する愛着、人民のために奉仕しようという良心があればこのように働くことができるのか」と叱責した。自ら草を引き抜く姿までがテレビに映し出され、見るものを驚かせた。金正恩は幹部と管理責任者に対し「人民に対するサービス精神がゼロ以下」だと決めつけ、「思想観点の問題」として糾弾した。それまで北朝鮮は内部の否定的な姿は一切公開せずに、北朝鮮社会が完璧な「地上の楽園」であるかのように宣伝してきた。現地指導は労働者や軍人、現場幹部の苦労を称え、住民らに「最高指導者の慈愛」に満ちた姿を示すもので、金正日時代には最高指導者が現地指導の場で管理の不備を指摘し、公衆の面前で叱責することは考えられなかった。金正恩の叱責の裏には、金正日が金正恩のために準備した後見人体制の下で自身の指示が現場に徹底されず、思うような成果が出せていないという不満が窺える。労働新聞は「外から来る敵が怖いのではなく、社会主義の揺りかごの中に成長した活動家の中で起きうる官僚化、貴族化」を警戒すべきと指摘し、幹部らの官僚主義、事なかれ主義を批判した[163]。

金正恩は自身の権威・指導力の低さ、カリスマ性不足のために、こうした悪弊を一掃できないことにいら立ち、その解消手段として現地指導の場での「叱責」という手法を取ったと見られる。現実の不備をあえて公開してでも働かない幹部を許さないという強い姿勢を演出することで、住民の支持を強化する狙いもあったといえよう。幹部らを悪者にすれば、最高責任者としての自身の責任は回避できるからである。人民大衆第一主義の強調と幹部らへの厳しい恫喝が表裏一体の関係であることが、映像も含めて報じられたのはこの時が初めてと見られる。幹部らの官僚主義と形式主義の蔓延を放置せず、これを積極的に報じ批判することで体制を引き締め、住民らの支持を取り付ける金正恩流の統治スタイルの原形として注目される。人民への奉仕を最優先し、党幹部らの職務怠慢や管理不行き届きを厳しく叱咤する金正恩の統治スタイルはこれ以降、2013 年 12 月の張成沢粛清へと至る。

第 3 節　映像メディア分析による伝統による権力補填期の政治的意味

伝統による権力補填期（2011 年～2013 年）において金正恩は、金日成に似せた風貌と立ち居振る舞いを映像で繰り返し示すことにより「人民から慕われた金日成のイメージを再生」[164]し、新たな指導者として住民への浸透を図った。特に、住民や兵士らと肩を組むなど積極的にスキンシップを取り、一人一人の生活に配慮して見せるなど、金日成の住民に対するアプローチを想起させるスタイルを強調した。後継期間が短く実績もない金正恩は、金日成の持つカリスマ性や住民に配慮する指導者のイメージを自身に重ね合わせるように演出し、権威不足を補

---

162 朝鮮中央テレビ 2012 年 5 月 9 日放送「조선인민군 최고사령관이신 경애하는 김정은동지께서는 만경대유희장을 돌아보시였다(朝鮮人民軍最高司令官であられる敬愛する金正恩同志が万景台遊戯場をご覧になった)」

163 『労働新聞』12 年 6 月 2 日「정론(政論)」

164 鐸木、前掲書（2014）、302－304 頁（注 4）

おうと試みたのである。金日成・金正日という先代の遺した「伝統」を最大限活用するためには、白頭山の血統を強調し、自身の権力継承の正統性を補填する必要があった。このため、金正恩は金日成生誕100周年における肉声演説や、現地指導への夫人同伴など、住民に金日成を想起させる映像を繰り返し示すことで、権力継承の「正統性を可視化」したのである。また、政策面では金正日の遺した住宅や娯楽施設の建設などを引き継ぎ、完成させることで、人民生活に配慮する指導者の姿をアピールした。軍から党を中心とした政治体制への移行、後見人体制、そして当面の政策など、この時期の金正恩の政権運営は金正日が準備した枠組みの中で進められていたことがわかる。

金正日の後継は社会主義陣営の崩壊の余波が続き、北朝鮮にとっても体制存続の危機の中で進められた。既述の通り、ソ連・東欧での社会主義体制崩壊の教訓として、金正日が選択したのが先軍政治であった。人民の離反による体制崩壊を防ぐためには、何よりも軍を掌握し、軍に金正日への絶対忠誠を誓わせなければならないと考えたのである[165]。金正日は「今日我が国では党こそ軍隊であり、軍隊こそ党である」[166]として、軍事を全てに先行させ軍に依拠する形で政権運営を進めた。先軍政治の本質は、金正日が軍と一体化して緊急事態に対処する「危機管理体制」だったのである[167]。金正日時代は国際社会からの孤立と経済の行き詰まりが一層進み、崩壊した国家による配給体制に代わって、市場が人々の生活を支え、私経済の存在が無視できない状況に陥った[168]。また、軍部の利権独占や幹部の不正腐敗も深刻化し、金正日は「大衆の支持と信頼を失い、大衆の支持を受けることができない党は自らの存在を維持できない」、「官僚主義、不正腐敗を許容することは自ら墓を掘る」[169]との強い危機感を示していたのである。

一方、3代世襲となる金正恩の後継は既定路線であり[170]、2010年9月の朝鮮労働党第3回代表者会によって公式化されていたが、同年末から翌年にかけて中東で青年層を中心とした民主化デモが拡大し、強権的な長期政権が次々に崩壊する事態となった。チュニジアに端を発した「ジャスミン革命」は、エジプト、リビアなど他のアラブ諸国にも波及し、中国にも飛び火した[171]。北朝鮮は2011年2月、初めて先軍青年総動員大会を開催し金正恩の後継体制固めに核心的な役割を果たす青年組織の引き締めを図った[172]。影響を受けやすい青年層を通じて、民主化の機運が北朝鮮内部に浸透することを警戒したのである。イデオロギーよりも個人の生存が優先される風潮が強まる中で、最高指導者の地位を継承した金正恩は否応なく、人民大衆の離反

---

165 鐸木、前掲論文（2007）、（注160）

166 김정일「위대한 수령님을 영원히 높이 모시고 수령님의 위업을 끝까지 완성하자 」『김정일선집』（「偉大な首領様を永遠に高く奉り、首領様の偉業を最後まで完成しよう」金正日選集）第13巻、朝鮮労働党出版社、1997、27-28頁

167 平岩、前掲書（2017）、74頁、（注2）

168 三村光弘「朝鮮民主主義人民共和国の経済重視政策−金正恩時代の始まりから朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会まで−」『ERINA REPORT（PLUS）』154号、環日本海経済研究所、2020、2－6頁
https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2020/06/se15410_tssc.pdf　（2022年7月9日確認）

169 前掲、김정일「사회주의는 과학이다」（注161）

170 坂井隆・平岩俊司『独裁国家・北朝鮮の実像　核・ミサイル・金正恩体制』（朝日新聞出版、2017）、244－245頁

171 チュニジアのベン・アリ政権、エジプトのムバラク政権、リビアのカダフィ政権などアラブの長期政権が相次いで崩壊。青年層を中心にSNSや携帯を通じて、デモが拡大した。中国でもデモが呼びかけられたが、当局の厳戒で不発に終わった。

172 朝鮮中央通信2011年2月26日報道

を恐れる金正日の危機感を共有せざるを得なかった。後継体制の維持には人民の支持をつなぎ止めること、即ち世論の支持が必要となる。このため、金正恩はメディアを通じて金日成のイメージ再生し、人民大衆への奉仕を強調して人民生活の向上を約束することが求められたのである。金正恩が現地指導の際に不備を発見すると容赦なく叱責する姿を初めて映像で公開したのも、こうした危機感の表れといえる。目標達成を実現できなかった党幹部や各部門の責任者への厳しい叱責は、後に人民への配慮や人民大衆第一主義を「可視化」する行動として意識され、金正恩独自の統治スタイルとして定着していく。また、自身の指示が徹底されないことに対する不満と幹部らの官僚主義や不正腐敗に対する危機感は、後見人体制の下で権力を拡大する張成沢に対する警戒につながり、粛清へと発展していった。

金正恩の権力継承以降、過去のような最高指導者の超人的能力や神秘現象の発生、韓国人の金正日思慕といった事実とかけ離れた報道はなくなった[173]。これも人民の支持を意識した文脈で理解すべきであろう。金正日は 1970 年代に金日成を神格化する過程で後継者の地位を固め、また、80 年代後半に社会主義陣営の崩壊が進行する中で、生誕にまつわる象徴操作を通じて権力の正統性確立を目指した。一方、金正恩は白頭の血統を強調し、金日成・金正日の「伝統」によって権力を補填しつつ後継の座を固めてきたが、超人的能力や神秘現象などについては自身の権力継承の補填材料に含めなかった。最高指導者の非科学的な神秘性は金正恩の科学重視の姿勢とは相いれず、韓国との経済格差はもはや公然の事実となっていた。人民の共感を得るためにも金正恩は、従来のプロパガンダの手法を見直さざるを得なかったのである。こうした姿勢は、後に杖をついて視察する姿の公開や最高指導者の神秘化の否定へとつながり、最高指導者の人間性を「可視化」する方向へと深化していった。

一方で、金正恩は報道における試行錯誤の形で自身の独自性を模索する姿も見せた。人工衛星の打ち上げ失敗を報じたり、牡丹峰楽団のコンサートでハリウッド映画のテーマ曲を演奏し、ディズニーのキャラクターを登場させるなど資本主義文化の一部受け入れを容認するかのような姿勢を示したのである。この時期、金正恩は北朝鮮と世界を比較する意識を持ち、「他国のものであっても良いもの」は取り入れ、北朝鮮を世界水準に近づけることを目指そうとした。こうした試みは、北朝鮮社会に様々な情報が流入し、また、トンジュと呼ばれる新興富裕層が登場する中で、人民を惹きつける新たな社会主義のイメージを探るための試行錯誤でもあった。その結果、内部からの反発や困惑が大きい部分は封印し、北朝鮮が許容できる範囲のみが存続していった。例えば牡丹峰楽団は、服装やダンス等に資本主義的な要素を色濃く残しながらも、歌の内容では最高指導者や党への忠誠を強調することで許容された。金正恩が留学先のスイスの施設を模倣したとされる[174]紋繍水遊び場や馬息嶺スキー場などは、人民に世界水準の娯楽施設を享受させるための「贈り物」と宣伝され、金正恩時代の象徴として人々に印象づけられた。金正恩が新たに取り入れた施策のうち、体制維持に資さない部分は変更、もしくは封印し、受け入れ可能な形に変えることが必要だったのである。従って、この時期の報道にみられる試行錯誤は、社会の変化に応じた金正恩独自の試みであると同時に、世論の動向や内外の反応を見極めるバロメーターとして機能したと考えられる。

---

173 本論文「20 時報道」の定量分析で「韓国国民の金正日思慕」報道は 2010 年 5 件、2012 年 1 件でそれ以降は見られなかった。

174 백학순、前掲書、70 頁（注 148）

第 3 章　後見人体制崩壊と政権独自性の醸成期（2013～16 年）

第 1 節　指導者イメージの転換と幹部・大衆との関係性変化

2013 年 12 月の張成沢粛清後から 2016 年 5 月の朝鮮労働党第 7 回大会開催までのこの時期、金正恩は金日成のカリスマ性活用と金正日の遺した後見人体制から脱却し、独自の統治スタイルを追求し始める。後継作業の期間が短く、年齢も若い金正恩は、金日成のイメージを最大限に利用し、住民の支持を得ることで、最高指導者の地位を固めようとした。しかし、それは一方で、最高指導者としてのカリスマ性のなさ、不安定さの裏返しとなっていた。こうしたイメージを一変させたのが、2013 年 12 月の張成沢粛清である。北朝鮮では通常、幹部の粛清が報じられることはない。対外的には当該幹部の公式席上での動静が途絶え、別の人物が職位についたことが明らかにされる形で粛清が示唆される。しかし、張成沢の場合は、政治局拡大会議の場で連行され、国家安全保衛部特別軍事裁判で裁かれる様子が、写真付きで報じられた[175]。政権の中枢にいる幹部の罪が暴かれ断罪される様子を映像も含めて公開したのは、北朝鮮の報道史上にも例がない。しかも、血縁の叔父であり、金正恩の最大の後見人と目されてきた人物を処刑したことは二重の衝撃をもって受け止められた。この出来事は北朝鮮の指導者としての金正恩にとって大きなターニングポイントとなった。それまで前面に打ち出していた「若くて親しみやすい指導者像」が、残忍で容赦のないイメージへと一変し、幹部や住民の間に恐怖感、畏怖の念を生じさせたからである。

張成沢の粛清・処刑の公開は金正恩の指導者イメージを損なうだけでなく、内外の批判や、国内の動揺を招くリスクを伴う。では、金正恩はなぜ、リスクを冒しても、張成沢の粛清・処刑を報道したのか。1990 年代後半の「苦難の行軍」時期、人々の間には職場や地域、団体など住民の組織生活を統括する党員や党幹部らに対する否定的な認識が広がった。生存のための個人の生計活動を制約するだけでなく、特権的な地位を利用した着服行為、違法な収奪などが横行し、党幹部らに対する反感と怒りが蓄積されていったのである[176]。一方で、市場の定着に従って党幹部と人民の間には、新たに補完的で相互依存的な関係が成立した。人民は党員や幹部に代わって金や物資の調達という非社会主義的な役割を担い、党幹部は公式の地位に伴う情報や権限という政治的な価値を提供することにより、相互に問題を解決したのである。伊藤はこのような「政治的地位の異なる者の間で成立する交換」は、北朝鮮社会を維持する基本的なメカニズムとなっていると指摘している[177]。だが、この「交換」の基礎となる公式な地位は非公式な私利と直結しており、幹部の不正腐敗が必然的に横行する事態となったのである。

金正恩は張成沢の粛清を公表し、その理由に特権的地位を利用し私利私欲を満たそうとしたことを挙げ、徹底的に批判した。張成沢を腐敗・堕落した幹部の象徴であり闘争の対象として報道し、腐敗幹部に対する人民大衆の怒りや反感を張成沢に向けることで、その粛清・処刑を

---

175 『労働新聞』2013 年 12 月 9 日、12 月 13 日 2 面に写真と共に記事掲載

176 고·이·홍、前掲書、58-60 頁（注 22）

177 伊藤、前掲書、431－434 頁（注 109）

正当化したのである。これを機に金正恩は住民向けには、金日成のイメージを模倣した「慈愛に満ちた指導者」像を維持しつつ、幹部らに対しては、粛清と恫喝による恐怖で威圧するという、二つの顔の使い分けを始める。北朝鮮社会において首領の権力の正統性は、人民を指導して闘争と革命を遂行する指導性におかれている[178]。金正恩は過去の抗日闘争や階級闘争にかわる新たな闘争対象として、党幹部の「敗北主義と保身主義、形式主義と要領主義、無責任と本位主義など不健全な思想の要素を根絶するための教育と闘い」[179]を宣言した。張成沢の処刑後、幹部の謝罪や現地指導での失態などが報じられるようになり、人民に対する奉仕が強調されるようになったことも、人民大衆と幹部の関係の変化の文脈から読み解くことができる。次節ではこの時期における報道の変化について、具体的な映像事例をもとに検証する。

第 2 節　権威の可視化と現実直視による映像活用

（1）後見人体制の崩壊（張成沢粛清報道 2013 年 12 月）

朝鮮中央テレビは張成沢の粛清について、12 月 9 日 15 時の放送開始直後の臨時ニュースで初めて報じた。題目は「朝鮮労働党中央委員会政治局拡大会議に関する報道」で、8 日開催された同会議の模様を約 11 分にわたって伝える中に含めた[180]。男性アナウンサーは張成沢が「党の政策に背いて自らの勢力を拡大しようと試みたこと、財政管理に関する不正行為を働いたこと、女性問題や麻薬使用の問題」などの「反党・反革命行為」を重ねたとし、「全ての職務から解任し、一切の称号を剥奪し、わが党から離党、除名させる」とした党の決定を読み上げた[181]。その際、動画ではなく 29 枚の写真が使われた。このうち 2 枚は張成沢が国家安全保衛部（現国家保衛省）に連行される様子を撮影したもので、9 日付の労働新聞に掲載されたものと同一であった。テレビ報道では開催場所の党庁舎に続き、壇上に立ち拍手する金正恩の写真が映し出される。金正恩の表情がはっきりわかる写真は計 7 枚で、「金正恩のもとに団結」「反党・反革命的宗派事件が発生」というナレーションにあわせて眼鏡をかけた横顔の写真が、「金正日の遺訓」に触れた部分では、金正恩が壇上に着席して会場を見つめている写真がそれぞれ使われた。さらに、張成沢が党内に派閥を作り、党の路線に逆らって「意識的に怠業して歪曲的に執行」したとする罪状の部分で再び、金正恩の写真を使用している。いずれの写真でも金正恩は感情を表に出すことなく、淡々と会議に臨んでいるように見える。

会議は首相の朴奉珠らの批判討論、張解任の決定書の採択に続き終盤に、張成沢の連行写真が放映される。「張成沢を除去してその一党を粛清することにより、党内に新しく芽生える危険千万な宗派的行動に決定的な打撃を与えた」というナレーションに合わせて、国家安全保衛部の要員に囲まれ席を立つ場面と、両脇で腕をつかまれている場面の 2 枚が約 20 秒放映され

---

178 伊藤、前掲書、40 頁（注 109）

179 前掲、朝鮮中央通信 2014 年 2 月 26 日報道（注 78）

180 朝鮮中央テレビ 2013 年 12 月 9 日放送「조선로동당 중앙위원회 정치국 확대회의에 관한 보도（朝鮮労働党中央委員会政治局拡大会議に関する報道）」

181 同上（注 180）

た。続く「党の指導に挑戦し、党と国家の利益、人民の利益を侵害する者は誰であろうと容赦しない」「金正恩同志の周りに固く団結」「我が党と軍隊と人民の前途を阻むものはこの世の中にない」とする最終部分では、金正恩が別の場所で幹部らに指示を与えている写真 2 枚が挿入されていた。張成沢粛清を伝える政治局拡大会議の報道は 17 時、20 時、22 時過ぎの定時ニュースでも繰り返し報じられ、翌 10 日にも 2 度放送された。11 日にはこのニュースに対する反響を住民らのインタビュー形式で伝え、張成沢を批判した。

党中央委員会政治局拡大会議から 4 日後の 12 日、張成沢に対する国家安全保衛部の特別軍事裁判[182]が開かれた。裁判では「張成沢の一切の犯行は、審理の過程で 100%立証され、被告によって全面的に是認され」たとされた。その上で、張成沢による「国家転覆陰謀行為が刑法第 60 条[183]に該当する犯罪を構成する」として死刑が宣告され、判決が即時、執行された。労働新聞は 13 日付 2 面で記事と共に、法廷の裁判官席と手錠をかけられた張成沢の姿が映し出された 2 枚の写真を掲載した[184]。朝鮮中央テレビは同日 15 時 12 分からの臨時ニュース[185]で、18 分 30 秒にわたって張成沢の判決を報じたが、男性アナウンサーがスタジオで原稿を読み上げる姿を映し続け、映像や写真の公開はなかった。同日 17 時の定時ニュース、「20 時報道」終了後の 20 時 29 分からも同様の内容が繰り返された。アナウンサーは厳しい口調で、張成沢を「万古逆賊」「犬にも劣る醜悪な人間の屑」などと呼び痛烈に罵倒し、張成沢への怒りをかき立てた。判決文では①張成沢が金正恩の後継決定前から「（首領の）継承問題を陰に陽に妨害する未来永劫に許し得ぬ大逆罪を犯した」、②第 3 回党代表者会で金正恩が党中央軍事委員会副委員長に推戴された際も「やむを得ず席を立ちおざなりの拍手をしながら傲岸不遜な態度を見せた」、③金正恩の現地指導に随行するようになったことを悪用し、自身が「革命の首脳部と肩を並べる特別な存在ということを内外に見せびらかし、自身に対する幻想をでっちあげようと図った」、④張成沢が金正恩を対象とした政変を画策し、軍や保安機関、党の幹部らを抱き込み「経済が完全に挫折し国家が崩壊直前に至れば」自身が総理の座に就こうと考えたことを「白状」した――などと断定している。こうした記述からは、金正恩が後継以前から張成沢を潜在的な脅威と感じ、後継後は金正日が定めた後見人として権力を増していくことに強い危機感を抱いていたことが読み取れる。また、中国への地下資源の乱売と土地貸与、貴金属の密買、賭博、公金の使い込みから 2009 年のデノミの失敗まで全て張成沢の責任とし、「金儲けを奨励し、不正腐敗行為に明け暮れ」ていたと腐敗ぶりを強調している。

9 日に党中央委員会が張成沢の全職位剥奪を伝えて以降、金正恩の記録映画から張成沢の姿が削除された。9 日に放映された「紋繍水遊び場に宿る人民愛の新たな伝説」[186]では、過去の放送に映っていた張成沢の姿が全て削除されていた。13 日に放映された新作の記録映画「永遠

---

182 前掲『北韓法令集上:202010』、365 頁、刑事訴訟法第 52 条（特別裁判所管轄）軍事裁判所は、軍事上犯罪事件と軍事事業を侵害した犯罪事件、軍人、人民保安員、軍事機関の従業員が犯した犯罪事件を裁判する。軍需、鉄道裁判も管轄する。（注 67）

183 同上、325 頁、刑法第 60 条（国家転覆陰謀罪）は反国家目的で政変、暴動、示威、襲撃に参加したり、陰謀に加担した者は 5 年以上の労働強化刑、情状が特に重い場合は無期懲役、または死刑及び財産没収刑に処する。（注 67）

184 『労働新聞』2013 年 12 月 13 日付 2 面

185 朝鮮中央テレビ 2013 年 12 月 13 日放送「천만군민의 치솟는 분오의 폭발, 만고역적 단호히 처단 천하의 만고역적 장성택에 대한 조선민주주의인민공화국 국가안전보위부 특별군사재판 진행(放送「千万軍民のこみ上げる憤怒の爆発、万古逆賊を断固として処断－天下の万古逆賊、張成沢に対する朝鮮民主主義人民共和国国家安全保衛部特別軍事裁判進行）」

186 朝鮮中央テレビ 2013 年 10 月 17 日初放映（同 10 月 23 日まで 7 回放映）（注 138）

なる太陽の聖地として万代に輝かせようと」でも、2012 年 12 月 17 日に金正恩が錦繡山太陽宮殿を訪れた際に同行していた張成沢の姿が削除されていた[187]。

表 7.　張成沢粛清報道（2013 年 12 月 9～13 日）

	張成沢連行・逮捕			処刑
日時	12 月 9 日	12 月 10 日	12 月 11 日	12 月 13 日
報道題目	政治局拡大会議	政治局拡大会議	拡大会議反響	特別軍事裁判
報道開始時刻	15 時 09 分 17 時 00 分 20 時 00 分 22 時 13 分	17 時 36 分 20 時 16 分	10 時 29 分 14 時 18 分 17 時 27 分 20 時 25 分	15 時 12 分 17 時 00 分 20 時 29 分
報道時間	約 11 分	約 11 分	3～5 分	18 分 30 秒
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ	インタビュー	原稿読み上げ
映像	写真 29 枚 （うち張成沢連行 2 枚）	写真 29 枚 （うち張成沢連行 2 枚）	インタビュー	なし
報道回数	４回	２回	４回	３回

張成沢が党政治局拡大会議の席上、連行される 2 枚の写真が公開されたことは、内外に大きな衝撃を与えた。金日成・金正日時代も幹部の粛清はあったが、粛清の事実や写真を大々的に報じることはもちろん、親族を処刑したことは一度もなかったからである。特に写真の公開は張成沢の権威失墜と処罰の重さを印象づけ、粛清の正当性を強調する上で多大な効果を発揮した。金正恩の前で「おざなりな拍手」をした張成沢が粛清されて以降、北朝鮮の党幹部らは現地指導などの際、一様に「手帳」を持ち、金正恩の言葉を必死にメモする姿を見せるようになった[188]。金正恩は唯一の指導者として「権力の安定性を強化するのに成功」[189]したのである。張成沢は 11 月 6 日に参議院議員のアントニオ猪木（当時）一行と面談して以降、公開活動が途絶え、11 月下旬には腹心の部下だった李龍河、張秀吉が処刑されたことが韓国国情院によって明らかにされた[190]。一方、金正恩は 11 月末、国家安全保衛部長だった金元弘らと金日成が抗日パルチザン活動を展開した「聖地」である白頭山の革命戦跡地を訪れ、張成沢粛清を最終的に決意したとされる[191]。張成沢の処刑をわずか 1 カ月の間に断行できたのは、金正恩が党内を掌握し、核心部署を動かす強い統率力を持っていたことを意味する。張成沢の粛清の過程で「金

187 朝鮮中央テレビ 2013 年 12 月 13 日放送「<조선기록영화(朝鮮記録映画)>영원한 태양의 성지로 만대에 빛내이시려（永遠なる太陽の聖地として万代に輝かせようと）」

188 前掲朝鮮中央テレビ 2013 年 12 月 9 日（注 180）でも最後に幹部らが手帳に金正恩の指示をメモする姿が映し出されている。

189 백학순（白鶴淳）『김정은 시대의 북한정치 2012～2014 사상·정체성·구조 （金正恩時代の北韓政治 2012～2014　思想・正体性・構造）』、世宗研究所、2015、122 頁

190 聯合ニュース 2013 年 12 月 3 日「北２인자장선택실각설…실각사실인듯（北 2 人者張成沢失脚説…失脚事実のよう）」

191 『労働新聞』2013 年 12 月 11 日「길이빛나라 삼지연의 강행군이여!（長く輝け三池淵の強行軍よ！）」

正恩体制を支えるグループ」[192]が固まり、金正日が遺した後見人体制に取って代わることとなった。

一方、特別軍事裁判の写真は労働新聞のみで公開され、朝鮮中央テレビでは放映されなかった。9 日の報道以降、張成沢の映像が記録映画から削除されたのと同様、放映対象から除外されたと考えられる。幅広い階層の住民に影響力を及ぼすテレビの報道と新聞で使い分けがなされたのがわかる。張成沢粛清と写真の公開は、金正恩と党幹部、党幹部と人民大衆の関係を転換する契機となり、その後の金正恩の統治スタイルを決定づけたといえる。

（2）現実直視報道の登場

① 住宅崩壊事故と幹部謝罪（2014 年 5 月）

2014 年 5 月 18 日、労働新聞は平壌で建設中の住宅が崩壊する重大事故が発生し人命被害が出たことを報じた。事故は「工事をいいかげんに行い、監督、統制を正しく行わなかった無責任な行為」によって発生したとし、幹部が謝罪する写真とともに報じた[193]。そもそも北朝鮮では、重大事故や人命被害は基本的に報じられず、幹部が責任を問われて謝罪する姿が報じられた例もない。党の指導は絶対であり、党の無謬性否定につながる報道がなされるのは異例のことであった。事故の詳細や被害の規模は伝えられていないが、韓国政府関係者は事故があった 23 階建てのマンションには 92 世帯が入居していたとし、死傷者数は数百人に上る可能性があると指摘された[194]。場所が平壌の中心部で体制を支える権力層や富裕層が多く居住する地域でもあり、住民らの怒りや不満が金正恩に向かう恐れもあった。

前述のように北朝鮮では最高指導者がメディアを直接指揮統制するシステムが取られており、重大事故の報道を最終決断できるのは金正恩だけである。結局、金正恩は現実を認め、党の無謬性を否定する形になっても事故を公表し、党幹部に謝罪させることを選択した。事故そのものは隠蔽せず幹部に責任を取らせ、自身は住民のために事態の収拾に努めている形を取ったのである。報道では、事故の報告を受けた金正恩が「あまりにも胸を痛めて夜を明かし」、幹部らに「被害を一日も早く収拾するよう具体的な指示を与えた」と伝えた。さらに被害者家族のために「党と国家の強力な緊急措置」を講じたと強調した。人民大衆第一主義にもとづく金正恩の配慮と指導力を強くアピールし、世論の悪化や住民の不満を和らげようとしたのである。ただ、17 時、20 時のテレビの定時ニュースでは、この住宅崩壊事故は報じられなかった。テレビ報道によって住民の動揺が拡散し、社会不安を引き起こす事態を避けるため、見送られた可能性が高い。不都合であっても現実を認める現実直視の姿勢は、以下に記すように、最高指導者の体調など北朝鮮のトップシークレットにも及んでいく。

② 杖をつきながらの現地指導報道（2014 年 10 月）

---

192 平岩、前掲書（2017）、78 頁、（注 2）

193 『労働新聞』2014 年 5 月 18 日 4 面掲載、同日の朝鮮中央通信も同様の内容を伝えている。

194 2014 年 5 月 18 日聯合ニュース

朝鮮中央テレビは2014年7月上旬、金日成死去20年の追悼行事に金正恩が出席した際、右足を引きずる姿を放映した[195]。いったんは完治したと見られたが、9月3日に李雪主と牡丹峰楽団の公演を観覧したのを最後に、金正恩の動静報道が途絶える。公演観覧6日後に放映された7～8月の現地指導映像[196]には、金正恩が今度は左足を引きずって歩く姿が映し出され、物議をかもした。さらに、金正恩が9月25日開催の最高人民会議を欠席したことで、健康不安説が浮上した。最高指導者に就任して以来、最高人民会議に姿を現さなかったのは初めてだった。同日夜に朝鮮中央テレビが放映した記録映画では、金正恩が足を引きずって現地指導する7月の映像を流し、「不自由な体なのに人民のための指導の道を、炎のように歩み続けるわが元帥」と紹介した[197]。

表8.　杖つき視察報道（2014年9～10月）

	体調不良認める	杖をついて視察	
日時	9/25～10/1	10月14日	10月15日
報道題目	〈記録映画〉 人民のための領導の日々に（2）	衛星科学者の住宅地区現地指導	衛星科学者の住宅地区現地指導
報道開始時刻	17時00分	17時00分 20時00分 22時18分	15時12分 19時03分
時間	54分	約８分	約８分
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ
映像	足を引きずる映像を「不自由な体」と表現	視察写真47枚（杖あり23枚）	視察写真47枚（杖あり23枚）
回数	８回	３回	２回

記録映画は10月1日までの7日間、1日ほぼ1回のペースで放送された。北朝鮮当局として初めて、金正恩に健康問題があることを認めた上で、体調不良の中でも人民のために働く最高指導者の姿を印象づけようとした。先代の金正日が脳卒中で倒れ、病状が隠しきれなくなった

195 朝鮮中央テレビ2014年7月8日放送「〈실황중계(実況中継)〉우리 당과 우리 인민의 위대한 수령 김일성동지 서거 20돐 중앙추모대회(我が党と我が人民の偉大な首領金日成同志逝去20周年中央追慕大会)」

196 朝鮮中央テレビ2014年9月9日放送「〈조선기록영화(朝鮮記録映画)〉경애하는 김정은원수님께서 여러 부문 사업을 현지에서 지도- 주체103(2014).7-8 -(敬愛する金正恩元帥様が各部門事業を現地で指導)」

197 朝鮮中央テレビ2014年9月25日放送「〈조선기록영화(朝鮮記録映画)〉인민을 위한 령도의 나날에(2)(人民のための領導の日々に(2))」

後、体調不良を認める形で動静が報じられるようになったのと同様である。結局、金正恩の動静報道は40日間も途絶え、西側メディアを中心に健康不安説が拡散した。

10月14日になって、北朝鮮メディアは金正恩が杖をつきながら、衛星科学者の住宅地区を視察する姿を報じた[198]。テレビで放映された写真は47枚で、金正恩が左手に杖を持ち、不自由な左足を支えるようにして見て回る様子がはっきりと映し出されている。また、杖で体を支えながら話をしたり、杖を手に座ったりしている写真など杖が映りこんでいる写真は23枚に上った。さらに、カートで移動している写真も見られた。金正恩は住宅地区の完成度に「大満足」の意を示し、度々建設にあたった軍や責任者らを称賛し、終始笑顔だった。杖をつく理由についての説明はないが、同行の幹部らと会話を交わし、笑顔を見せる様子からは深刻な体調不良は感じ取れない。韓国国情院はこの間に金正恩が「足根管症候群」を発症し、足首の嚢腫を除去する手術を受けたと明らかにした[199]。11月11日に放映された記録映画[200]では、金正恩が杖をついて歩行する様子が動画でも映し出された。杖をついての視察は衛星科学者住宅地区の視察以後も11月上旬頃まで続き、いずれもそのまま報道されている。

異例の杖つき映像公開の背景には、この間に広まった健康不安説にまつわる憶測を排除し、国内の混乱・動揺を誘発しないためにも、早い段階で健在ぶりを誇示する必要性があったことが挙げられる。加えて、自分の体調よりも人民への奉仕を優先する「人民大衆第一主義の指導者」像を強調する狙いもあった。けがが完全に治癒するまで待つのか、多少の不自由はあっても動ける状態であれば外に出るのか―、最終判断は金正恩に委ねられているが、金正恩は杖をつく不自由な姿を公開した。そこには、金正恩の現実を直視する対応が反映されている。これまでの北朝鮮では、最高指導者は絶対的な存在として神格化され、超越的な能力の持ち主として扱われてきた。しかし、1990年代後半に配給制が崩壊すると、最高指導者が与える「愛と恩恵」に住民が「忠誠と孝行」を交換する形で結ばれてきた首領と人民の関係[201]も変質した。最高指導者の神秘的能力や労働神話に対する説得力は失われ、指導者や集団への忠誠より、個人の利益や生活が重要と考える人々が増え始めた。最高指導者を神格化して崇拝させる従来のプロパガンダ手法が通用しなくなったことを受けて、報道にも変化が生じた。金正恩は最高指導者が万能の存在ではないと認め、より現実的で合理的な認識にもとづく指導者像を示そうとしたのである。これに伴い、体制に不利な情報を全て隠すのではなく、あえて公開することで事態を早期に収拾し、体制維持に利用する形の報道が登場した。金正恩流の「現実直視」の姿勢が報道に反映され始めたのである。

（3）幹部恫喝統治と人民大衆第一主義の定着

198 朝鮮中央テレビ2014年10月14日放送「경애하는 김정은동지께서 새로 일떠선 위성과학자주택지구를 현지지도하시였다(敬愛する金正恩同志が新たに立ち上げられた衛星科学者住宅地区を現地指導なさった)」

199 ニューデイリー2014年10月28日「국정원 “김정은 5월 발목 부상·9월 낭종 제거” (国情院“金正恩5月足首負傷・9月嚢腫除去”）」URL:https://www.newdaily.co.kr/site/data/html/2014/10/28/2014102800124.html（2022年7 月9日確認）

200 朝鮮中央テレビ2014年11月11日放送「<조선기록영화(朝鮮記録映画)> 경애하는 김정은원수님께서 여러 부문 사업을 현지에서 지도- 주체103(2014). 9 ～10 -(敬愛する金正恩元帥が各部門を現地で指導)」

201 鐸木、前掲書（2014）、289頁（注4）

① スッポン工場での激怒報道（2015 年 5 月）

朝鮮中央テレビは金正恩の大同江スッポン工場（養殖場）現地指導のニュースを 5 月 19 日 17 時の定時ニュースから写真と共に伝えた[202]。放映された写真は 33 枚で、そのうち金正恩が写っているものは 26 枚あった。写真では黒っぽい人民服を着た金正恩が、工場の各所を見て回りながら、大きな身振りで幹部らに指示を与えたり、水槽に片足をかけ眉間にしわを寄せて幹部らを詰問したりするような様子や、腕組みし文句を言うような様子が映し出されていた。全編ナレーションで伝えられたため、金正恩がどのように「激怒」したのか、その度合いはうかがいしれない。ただ、通常の視察のような笑顔は見られず、終始、不機嫌な表情だった。報道では、金正恩が金正日ゆかりの工場が円滑に運営されていない状況に「嘆かわしい状況」「あきれて言葉が出ない」「到底理解できない」などと辛辣に批判し、「このような工場は初めて見たと激怒した」と伝えた。また、工場幹部らに対して「無能とこり固まった思考方式、無責任な仕事ぶり」と怒りをぶつけた。金正恩は「この工場が生産を正常化できていないとの報告を受け、実態を了解するために訪れた」と述べており、視察が抜き打ちだったことを示した。

表 9.　スッポン工場激怒報道（2015 年 5～6 月）

	スッポン工場視察		記録映画
日時	5 月 19 日	5 月 20 日	6 月 5～11 日
報道題目	大同江スッポン工場視察	大同江スッポン工場視察	金正恩同志が複数の部門の事業を現地指導--主体 104（2015）
報道開始時刻	15 時 10 分 17 時 00 分 20 時 00 分 22 時 20 分	15 時 14 分 19 時 11 分	1 日 1 回不定期 （7、11 日は 2 回）
時間	約 7 分	約 7 分	47 分 （スッポン工場は 5 分 40 秒）
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ
映像	視察で激怒と報道、写真 33 枚（金正恩 26 枚）	視察で激怒と報道、写真 33 枚（金正恩 26 枚）	動画、報道内容はマイルドに
回数	4 回	2 回	9 回

それまでの最高指導者の現地指導では事前に徹底した準備がなされ、その結果、最高指導者が「大満足する」ことが前提だった。指導者は「笑顔」で社会主義の「成果」を誇示し、労働者を「鼓舞」するのが視察報道の使命だからである。その一方、最高指導者の視察に備えた架空の実績積み上げや、見せかけの物資調達もしばしばあったといわれる。金正恩も業績の粉飾

202 朝鮮中央テレビ 2015 年 5 月 19 日放送「경애하는 김정은동지께서 대동강자라공장을 현지지도 하시였다(敬愛する金正恩同志が大同江スッポン工場を現地指導なさった)」

に不信感を持っていたと見られ、抜き打ち視察で、最高指導者が激怒する様子を映像で公開した。党中央や末端の幹部に限らず、社会全体に緊張感を植え付ける効果があったといえよう。6月5日には、このスッポン工場を含む5カ所の視察などを含む記録映画[203]が朝鮮中央テレビで公開され、11日までに9回放映された。47分の記録映画のうち、スッポン工場視察は5分40秒あまりで、そこには終始、不機嫌な金正恩の様子が収められている。ナレーションは「激怒」との表現を使わない形に書き換えられていたが、映像では「激怒」する金正恩の様子がそのまま映し出されていた。

金正恩が自身の指示に従わない、もしくは自身の要求を達成できない幹部らに対し恫喝による統治を続け、現地視察先で怒りや叱責を表に出すことはもはや珍しくなくなった。金正恩の指示が絶対視され、無条件での遂行が幹部らに求められる状況となり、金正恩は自身の不満や怒りを映像で示し、随時、体制の引き締めを図ることが可能になったのである。一方で、自身の責任については巧みに回避しているともとれる。成果が出なければ、人民のための奉仕ができていないとして幹部を問責し、成果が出れば「人民へのプレゼント」などとして自身の業績とすることができるからである。いずれの場合も「人民大衆第一主義」と関連づけることで、人民の支持を得たいという思惑が窺える。この現場担当者への責任追及は、責任の所在を明らかにする意味で、後に一定の役割を幹部に委任する分散体制への布石となったと見ることができる。この時期は、幹部に責任を分担させることで自身の負担を軽減し効率化を図る動きはまだ本格化していない。張成沢粛清後の2014年以降は、実妹の金与正が表舞台に登場し、存在感を増していくが、これも役割分担の一環と位置づけることができる。

③ 党創建70周年の金正恩演説（2015年10月）

既述の通り、不正腐敗や官僚主義により党幹部が人民大衆の怒りや反感の対象に変わる中で、金正恩は腐敗した幹部を闘争対象に設定し、その闘争を指導することで最高指導者としての正統性を強化し始めた。金正恩による幹部の恫喝は、人民との関係で幹部の義務である「滅私服務」が果たされていないと判断されたことによるものであり、人民優先、人民大衆第一主義と不可分の関係を有する。その点を最大限、内外にアピールしたのが、朝鮮労働党創建70周年記念行事での金正恩の肉声演説だった。式典の開始は天候の関係でやや遅れ、平壌時間の午後3時ごろに始まり、朝鮮中央テレビは午後2時28分ごろから実況中継を開始した[204]。

金正恩は演説の序盤で「共に泣き笑い、党と運命を共にしてくれた、愛する全体人民に党創建70周年にあたり、朝鮮労働党を代表して深く腰を曲げ熱い感謝の挨拶を捧げます」と人民に謙る姿勢を見せ、盛大な拍手を浴びた。また「わが党は、歴史上初めて人民重視、人民尊重、人民愛の政治を実施し、終生人民のために全てを捧げた金日成同志と金正日同志の高貴な志を奉じ、今日も明日も永遠に人民大衆第一主義の聖なる歴史を綴っていくだろう」と強調した。

---

203 朝鮮中央テレビ2015年6月5日放送「<조선기록영화(朝鮮記録映画)> 경애하는 최고사령관 김정은동지께서 여러 부문 사업을 현지에서 지도- 주체104(2015). 5 -(敬愛する最高司令官・金正恩同志が各部門の事業を現地で指導)」

204 朝鮮中央テレビ2015年10月10日放送「<록화실황（録画実況）> 조선로동당창건 70돐경축 열병식 및 평양시 군중시위(朝鮮労働党創建70周年慶祝閲兵式及び平壌市群衆示威)」

約 25 分間の演説で金正恩は 97 回も「人民」を連呼し[205]、人民への「滅私服務」を訴えた。過去の指導者の誰よりも「人民愛」と「人民への奉仕」を強調することで、金日成広場に詰めかけた 12 万人に及ぶ軍人や観衆に強くアピールしたのである。金正恩の「人民愛あふれる指導者」像はスキンシップの域を超えて、人民への奉仕を最優先する「滅私服務」の段階へと進んだことが鮮明になった。

テレビ中継では、金正恩がひな壇に入場する際から映像が公開されるなど、金正恩を中心とした演出が随所に見られた。張成沢の粛清により金正恩の権威を脅かすものがいなくなり、権威が高まったことを示している。金正恩は演説の際も聴衆の反応に応える余裕を見せ、2012 年 4 月の初の肉声演説の際とは違い、自信に満ちた姿を印象づけた。ひな壇で金正恩を補佐する妹の金与正の姿もカメラに捉えられ、金与正が金正恩に近い存在であることを隠していない。金与正が北朝鮮の公式報道に登場したのは 2014 年の 3 月からである[206]。このように張成沢の粛清以降、金正恩は幹部への恫喝と同時に人民大衆第一主義の指導者像を使い分けながら、「現実」を直視する指導者として徐々に独自性を発揮していった。金正恩の転機を示す事案とその報道映像からも、そうした変化が裏付けられる。

第 3 節　映像メディア分析による政権独自醸成期の政治的意味

張成沢の粛清により、永訣式で金正日の棺を囲んだ 7 人の幹部が全て表舞台から姿を消し、金正日が遺した後見人体制は完全に崩壊した。金正恩は張成沢が連行される姿や、裁判で手錠をかけられた写真を公開し、その映像は内外に大きなインパクトをもたらした。後見人体制の下で権力を拡大していた張成沢が失脚する決定的な場面を公開することで、自身の権威を可視化し、「真の意味での権力を獲得」[207]したことを示したのである。

張成沢の粛清と処刑は、金日成による朴憲永ら南朝鮮労働党系指導者に対する裁判や公開処刑を想起させる[208]。1955 年 12 月に非公開の軍事裁判でスパイ罪などに問われ死刑宣告を受けた朴憲永も、張成沢裁判と同様、自白が裁判の根拠とされた。また、1956 年のいわゆる「8 月宗派事件」では、党中央委員会会議で崔昌益ら延安派と朴昌玉らソ連派が宗派分子として粛清された[209]。前述の『조선로동당 력사（증보판）（朝鮮労働党歴史　増補版）２』では張成沢ら現代版宗派について、1950 年代、60 年代に現れた宗派とは完全に違う「隠蔽され改良された宗派」であり、「外では帝国主義者らの圧力に怯え、内ではブルジョア思想文化に汚染され堕落

---

205 平井久志「金正恩執権 4 年目（2015 年）の国内政治について」国際問題研究所『朝鮮半島情勢の総合分析と日本の安全保障』国際問題研究所、2016、18 頁 URL https://www2.jiia.or.jp/pdf/research/H27_Korean_Peninsula/02-hirai.pdf（2022 年 7 月 9 日確認）

206 朝鮮中央通信 2014 年 3 月 9 日報道、最高人民会議第 13 期代議員選挙の際、金日成政治大学で投票する金正恩に同行。

207 平岩、前掲書（2017）、78 頁（注 2）

208 정·백·임·전、前掲書 『김정은 리더십 연구』、41 頁（注 148）

209 8 月宗派事件の崔と朴は同年 9 月の全員会議で党籍を回復した。中ソが原状回復を要求したため金日成は受け入れざるを得なかった。鐸木は前掲「北朝鮮首領制の形成と変容」で張成沢の粛清報道は中国の介入を恐れたと指摘している。（314 頁、注 4）

した思想変質体」と批判した[210]。親族を粛清しただけでなく、その写真までも公開したことは、金正恩の残虐性をより際立たせたが、金日成時代と比較して現代版宗派の悪質性を強調することで正当化を図ったのである。判決文では張成沢が金正恩の指示に従わず、様々な事業を妨害し、金正恩が朝鮮労動党中央軍事委員会副委員長に推戴され、後継者に正式に決定した際にも「おざなりな拍手をしながら傲岸不遜な態度を見せた」と指摘している[211]。北朝鮮メディアでも張成沢が金正恩の演説の際によそ見をしたり、現地指導でも金正恩を軽んじる態度を示す場面がしばしば捉えられていた[212]。叔父で年長者の立場としてはごく自然な対応であっても、金正恩の指導に背いたとみなし、排除の対象としたのである。

張成沢の粛清により金正恩の権威を脅かす存在がなくなっただけでなく、将来的に金正恩の地位が脅かされる可能性も封じられた[213]。張成沢粛清とその後の恐怖政治を通じ、幹部の生殺与奪権を握った金正恩は、幹部らにとって絶対に逆らえない、畏怖すべき存在となり、これまでになかったカリスマ性を獲得した。住民らに対しては「慈愛に満ちた指導者」像を示しながら、幹部らに対しては「厳罰」を処す「恫喝的指導者」として統治することが、金正恩独自のスタイルとして定着したのである。張成沢粛清の翌年、金正恩は党の第8回思想活動宣伝家大会で演説し、「党内に現代版宗派が発生したのを未然に摘発、粉砕できなかった」ことは、「思想活動家にも責任がある」として思想統制の強化を宣言した[214]。さらに、「人の思想は革命的な言葉や決意よりも実践と結果に表れる」として、金日成・金正日の遺訓や党の路線と方針の貫徹にあたり「実行できなかったものは何であり、その原因が何なのか」を分析するよう求めた[215]。実践と結果を重視し、実行できなかった場合の原因と責任の所在を追及する姿勢を強調したのである。幹部らを成果主義で評価し、目に見える成果を求め始めたことは、この時期の「20時報道」における成果報道の増加にも示されている。実践と結果を重視する金正恩の幹部統治の特徴は、後に党大会での5カ年計画の達成評価などをめぐって、一層顕著となっていく[216]。

金正恩は張成沢とその一派の粛清以降も、さらに党幹部らの粛清を続けた[217]。2015年に入ると「恫喝」の対象は末端の幹部にも広がり、大同江スッポン工場現地指導の場での「激怒」となって報道された。張成沢の粛清以降、他の幹部の粛清は表立って報じられなかったが、現地指導での金正恩の怒りは映像とともに大々的に報じられた。「激怒」報道を通じて金正恩は人民大衆の党や幹部に対する不満を解消し、その支持を獲得する手段として利用したと考えられる。金正恩は恫喝と恐怖政治によって幹部をコントロールし、一方で人民大衆第一主義を掲げ

---

210 前掲『조선로동당 력사2』、388頁（注69）

211 前掲2013年12月13日朝鮮中央通信（注68）

212 한겨레2013年12月13日「‘불경죄’로 처형당한 장성택,사진으로 보니…」（ハンギョレ「不敬罪で処刑された張成沢、写真でみると…」）URL:https://www.hani.co.kr/arti/politics/defense/615267.html（2022年7月9日確認）

213 백학순、前掲書（2015）、（注189）

214 前掲、朝鮮中央通信2014年2月26日（注78）

215 同上（注78）

216 三村光弘「朝鮮労働党第8回大会および関連会議と国家経済発展5カ年計画」『ERINA REPORT（PLUS）』159号、環日本海経済研究所、2021、3－23頁　https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2021/04/se15910_tssc.pdf（2022年7月9日確認）

217 聯合ニュース2015年8月12日報道によると、韓国の国情院は、金正恩政権発足後3年6カ月の間に約70人の幹部が粛清されたと明らかにした。

てその実現のために尽くすよう幹部らに要求した。人民大衆第一主義がこれまで以上に強調されたのは、2015 年 10 月の党創建 70 年記念日での肉声演説である。金正恩は人民に謙って見せる形で「滅私服務」を強調し、人民に奉仕する指導者像を前面に打ち出した。金日成や金正日の権威を借りて自身の後継の正統性を補填した段階から抜け出し、人民への奉仕を掲げ、腐敗幹部との闘争を指導する姿勢を鮮明にして、最高指導者としての正統性を強化し人民の信頼回復につなげようとしたのである。

この時期、金正恩は北朝鮮を含め社会主義国で前提とされてきた党の無謬性を否定するような情報も公開に踏み切った。平壌の高層住宅崩壊と、保安部長の崔富一ら関係幹部による住民への謝罪を報じたのである。党の無謬性を維持するため事故を隠蔽するのでなく、現実を認め善後策を講じることにより体制の安定を図ろうとする報道は、過去には見られなかった。こうした報道の変化からは、北朝鮮社会の変化への対応が見て取れる。2012 年 4 月に人工衛星打ち上げの失敗を報じた際は、海外メディアを受け入れていたため、何らかの形で結果を発表せざるを得なかった。しかし、今回は国内の事故であり、隠蔽しようと思えばできたにも関わらず、そうしなかった。市場の拡大と共に情報伝達の経路が多様化したことに加え、携帯電話や IT 機器が普及し、情報を完全に統制することはもはや困難な状況にある。都合の悪い事実を隠せば住民の不信を招き、党への反発を助長しかねないとの判断から、報道に踏み切ったと見ることができる。また、金正恩が杖をついた「不自由な体」で視察する姿も報道された。最高指導者の健康状態はトップシークレットとされてきた北朝鮮で、こうした姿が映像とともに報じられたのは異例である。非科学的な宣伝扇動を通じた最高指導者の神格化ではなく、現実の姿を「可視化」して示す金正恩の特徴がここにも現れている。

体制に不利な情報も公開する一連の現実重視の報道は、国内的にはいずれも人民大衆第一主義の文脈で解釈することにより、体制に与える悪影響を相殺している。高層住宅崩壊の原因は、幹部の無責任な行為とされ担当幹部が謝罪することで、金正恩の責任は回避され、住民のために心を痛める最高指導者像は維持される。また、杖をつきながら視察する姿を公開し「不自由な体」であっても人民に奉仕すると宣伝して人民大衆の感情に訴え、最高指導者への支持を促すのである。人民と最高指導者の関係が非科学的な神秘現象によって強化される時代は過去のものとなり、金正恩時代は「人民大衆第一主義」を体現する人間的な指導者の姿を公開することで、人民の支持を獲得する映像戦略が取られたのである。張成沢粛清は金正恩が後見人体制から自身の体制に転換する契機となっただけでなく、危機管理面でも転機をもたらした。これ以降、金正恩は世論の支持を意識し、腐敗幹部との闘争と人民大衆第一主義を前面に打ち出しながら、メディアを積極的に活用していく。

北朝鮮は 2015 年 10 月末、翌年に 36 年ぶりの党大会を開催すると発表した[218]。この開催に向けて年明けから、核ミサイル実験が加速されていく。2016 年 1 月の第 4 回核実験や同年 2 月の「光明星 4 号」発射は、金正恩の「実施命令書」へのサインを受けて、実行されたことが明らかにされた。金正日時代は全て密室で決められていた軍事行動を党が決定し、実行に移すプロセスが報道されたのは初めてで、党大会開催に向け、政策決定のプロセスを可視化する試みの一環と位置づけられる。金正恩は党の手続きに則った政策決定のプロセスを随時公開し、最高

218 朝鮮中央通信 2015 年 10 月 30 日報道

指導者の独裁・独断ではない統治スタイルを内外に示すことにより、自身の権威を制度化し、可視化しようとしたのである。この時期、金正恩は金日成のカリスマ利用期には見られなかった指導者としての独自性を示し始め、北朝鮮社会の変化によって変質した指導者、党幹部、人民の相互関係を再構築しようと試みた。社会主義経済体制が揺らぎ、人民から失われた信頼や忠誠を取り戻すには、党及び最高指導者が人民の生活向上を保障し、一定の社会主義的な秩序を回復していかなければならない。金正恩は張成沢粛清や幹部らへの恫喝により「権威を可視化」する形で映像を活用する一方、幹部の腐敗や職務怠慢と闘争し、人民のために奉仕する指導者像を強調した。また、杖をついて現地指導する姿や高層住宅の崩壊での幹部謝罪など、政権にとって不都合な情報や映像を公開した。「現実を直視」した対応を取ることで「人民大衆第一主義」をアピールし、世論の離反を防ごうとしたのである。

第 4 章　金正恩統治スタイルの確立期（2016～2021 年）

第 1 節　金正恩の権威向上と人民大衆第一主義の深化

金正恩は 2016 年に 36 年ぶりに第 7 回党大会の開催を通じて、金正日時代の軍優先の先軍政治という、いわば危機管理体制から、党主導による平時の体制への移行を内外に強く印象づけた[219]。党大会の進行状況はその日のうちに映像を交えて報道され、金正恩の権威が制度化され政権基盤が確立したことを強くアピールした[220]。第 7 回党大会以降、金正恩は経済再建と核ミサイル開発を同時に追求する並進路線を推し進め、核・ミサイル開発を加速させる。2017 年 11 月 29 日には米国本土にまで到達する大陸間弾道ミサイル火星 15 の開発を成功させ、「国家核武力（核ミサイル兵器）の完成」を宣言するに至った[221]。国際社会の批判と圧力が強まる中、2018 年は対話路線に転じ、中国、韓国、米国と相次いで首脳会談を実現した。この間、北朝鮮は核・ミサイル実験から首脳会談に至るまで迅速に映像を公開し、金正恩の業績としてその成果を内外に誇示する上で、映像を徹底的に活用する姿勢を見せたのである。

その後、米朝協議が膠着状態に陥り、局面の転換を迫られた金正恩は、政権の正統性の根源である白頭山を白馬に跨って登頂する姿を公開した[222]。金日成の抗日パルチザン活動、とりわけ「苦難の行軍」を映像で再現したのは、国内向けのメッセージの意味合いが強い。米国との対立を「苦難の行軍」に見立て内部の結束を図ったと解釈できる。2019 年には年間を通じて金正恩に対する礼賛報道が金日成・金正日礼賛を初めて上回った。これは金正恩の権威が先代に並ぶまでに高まったことを意味し、金正恩が先代を利用した権威補填から脱却し、自立の道を歩み始める流れと一致している。2021 年の第 8 回党大会では党規約から金日成、金正日の業績や固有名詞が削除され、先軍政治に代わって人民大衆第一主義が党規約に基本的政治方針として明記される[223]など、金正恩の権威が一層強化された。

経済面では、金正恩政権発足後の 2013 年には圃田担当責任制の導入、現物分配など生産者の意欲を刺激する方策が導入され、工業部門でも個別企業の経営に独自性が認められるなど、社会主義計画経済の枠内で改善が試みられた[224]。中朝貿易も大幅に増加し、2016 年の北朝鮮の実質 GDP 成長率は 3.9%に達した。しかし、2017 年、2018 年は制裁強化によってマイナス成長に転じ、2020 年にはマイナス 4.5%と 1997 年以来の減少率を記録した[225]。2018 年から 19 年にかけての米国との首脳会談で、金正恩は制裁の全面解除をめざすが、非核化をめぐる溝は埋まら

---

219 平岩、前掲書（2017）、80 頁、（注 2）

220 朝鮮中央通信 2016 年 5 月 10 日報道「朝鮮労働党第 7 次大会が閉幕」

221 朝鮮中央通信 2017 年 11 月 29 日報道

222 朝鮮中央通信 2019 年 10 月 17 日報道

223 朝鮮中央通信 2021 年 1 月 10 日報道「栄光あるわが党の強化発展のための根本礎石を刻んだ歴史的契機　朝鮮労働党第 8 次大会 5 日会議進行」

224 三村光弘『現代北朝鮮経済－挫折と再生への歩み』ERINA 北東アジア研究叢書 6、日本評論社、2017、電子版 No.2950～3007

225 한국은행 북한 GDP 관련통계(韓国銀行 北朝鮮 GDP 関連統計)https://www.bok.or.kr/portal/main/contents.do?menuNo=200091（2022 年 7 月 9 日確認）

ず会談は決裂した。翌 2020 年は新型コロナウイルスによる国境封鎖や自然災害が重なり、食糧や物資の不足が深刻化し住民生活は一層悪化する。金正恩は第 8 回党大会で国家経済発展 5 カ年戦略の未達を認め、「人民大衆第一主義」を政策理念として党規約に盛り込むなど、人民の生活向上をめざす姿勢を強調せざるを得なかった。苦境が続く中で、政権に対する人民大衆の失望や不満を減らし、国内の結束を強化するため、幹部らの役割分担、責任強化が進められ、人民への思想統制が強化された。この間の報道は 2019 年 10 月の白頭山登頂を境に大きく変化し、前半は金正恩の業績誇示、後半は国内結束が強調されていく。

第 2 節　業績誇示と国内結束のための映像活用

（1）平時体制への移行と映像活用

① 36 年ぶりの党大会報道（2016 年 5 月）

36 年ぶりの朝鮮労働党大会開催の報道は、通常とは異なる特別対応となった。開幕初日の 5 月 6 日、朝鮮中央テレビは午前 8 時の放送開始冒頭、女性アナウンサーが「第 7 回党大会開幕」の挨拶をしただけで、放送予定に党大会開幕は入っていなかった。その後の 17 時、20 時の定時ニュースでも開幕に関する報道はなく、朝鮮中央テレビが党大会の開幕を映像つきで初めて報じたのは午後 10 時[226]だった。報道は約 31 分で、金正恩の肉声による「開会の辞」が 14 分ほど流され、それ以外はアナウンサーが原稿を読み上げる形で伝えられた。金正恩はいつもの人民服ではなく、グレーのストライプのスーツを着用して登場した。金正恩は演説で 2016 年 1 月の核実験と事実上の長距離弾道ミサイル発射に言及し、党大会前の 70 日戦闘の成果を強調した。初日の報道は大会執行部と大会書記部選出、議題承認の後、金正恩が党中央委員会事業総括報告をしたことが報じられ終了した。

既述の通り、何段階もの検閲を経て放送される北朝鮮の報道体系からすれば、重要行事の当日に金正恩の肉声を含む動画をニュースとして放映するのは、特例的に迅速な対応にあたる。通常、金正恩の動静は軍時パレードの生中継など一部行事を除いて、行事翌日の労働新聞の配達時間に合わせ朝鮮中央通信とラジオが早朝に報じ、テレビはその次となる[227]。映像としては労働新聞の写真公開が最も早い。しかし、この時は労働新聞に先行する形で、当日夜に朝鮮中央テレビが動画を放映した。内外の注目の高さを意識して、まず映像を公開することで党大会開催の事実をアピールし、重要局面で映像を活用する姿勢を鮮明にしたのである。1980 年の前回党大会では、西側メディアも含む海外メディアの会場取材が許されたが、今回は最終日のみに制限された。金正恩にとって初の党大会であり内外の注目度も格段に高いことなどに配慮し、不測の事態や不備が生じることがないよう生中継や、海外メディアの会場取材は避けたと見られる。

---

226 朝鮮中央テレビ 2016 年 5 月 6 日午後 10 時放送「조선로동당 제 7 차대회 개막진행(朝鮮労働党第 7 次大会開幕進行)」

227 고·이·홍、前掲書、30 頁（注 22）

2 日目以降も大会の進捗状況は、その日の夜に動画と共に報じられた[228]。大会 3 日めとなる 8 日は午後 2 時半から 4 回にわたり特別重大放送の予告がなされた後、午後 3 時から金正恩の肉声による事業総和（総括）報告が約 3 時間にわたって放映された[229]。36 年前の金日成による事業総括は 5 時間半に及んだとされるが、金正恩の事業総括は計 7 時間で、大会 3 日目に 3 時間に編集されて放映された。この中で金正恩は北朝鮮を「責任ある核保有国」とした上で、経済建設と核ミサイル開発の並進路線と事実上の長距離弾道ミサイルである人工衛星の発射を継続する方針を明らかにした。経済では国家経済発展 5 カ年戦略を提起し、党強化については官僚主義や不正腐敗行為の根絶と党の指導的役割を一層高めるよう求めた。事業総括報告は 36 年間を総括し、金正恩の下で北朝鮮が新たな一歩を踏み出す指針となることから、党大会報道の中でも最重要視された。表 10 にまとめた党大会の内訳では 8 日から 10 日かけて 3 時間超の事業総括報告が計 6 回放映され、11 日から 16 日までは同報告を 5 項目に分けて放映した。11 日間の党大会報道で事業総括の全体報道は 6 回、項目別の報道は 20 回、放送時間はのべ 1999 分（33 時間 19 分）に及び、報道ぶりが突出している。

表 10. 2016 年党大会報道の内訳（5 月 6～16 日）

報道内容	回数	放送時間（分）
党大会開幕	6	192
2 日目	3	106
3 日目	2	62
閉幕	5	173
事業総括全文	6	1140
事業総括個別	20	859
国内外祝賀	6	112
特別重大放送予告	4	20
推戴	4	16
公報	4	22
アピール	1	29
軍事パレード	5	365
松明行進	4	277
記念写真＋展示場	8	128
祝賀公演	2	251
総計	80	3752

228 朝鮮中央テレビ 2016 年 5 月 7 日午後 10 時放送「조선로동당 제 7 차대회 2 일회의 진행(朝鮮労働党第 7 次大会 2 日目進行)」

229 朝鮮中央テレビ 2016 年 5 月 8 日午後 3 時放送「조선노동당 제 1 비서이시며 경애하는 김정은 동지께서 하신 제 7 회 당대회에서 역사적인 조선노동당중앙위원회 사업총화보고(朝鮮労働党第一書記である敬愛する金正恩同志がなさった第 7 回党大会での歴史的な朝鮮労働党中央委員会事業総和報告)」

党大会期間中、議題の設定から事業総括、討論、最高位推戴、規約改正と協議内容が逐一報道され、そのプロセスが公開された。また経済発展5カ年戦略の策定など、政権運営を「制度化」する動きが示され、金正日時代の危機管理体制から党の指導へ回帰する平時体制への移行を強く印象づけた。大会閉幕は9日午後10時半に報道され、党規約改正や金正恩の党委員長推戴が伝えられた[230]。規約は序文に「朝鮮労働党は偉大な金日成・金正日主義党である」「偉大な金正日同志は朝鮮労働党の象徴であり、永遠の首班である」と新たに規定した。また、党の最高職責を「朝鮮労働党委員長」とし、「朝鮮労働党委員長は党を代表し、全党を指導する党の最高指導者」と定義した。これにより金正恩は党大会で正式に推戴された党の最高指導者となり、その権威が制度的にも確立されたことを内外に示した。

党大会の報道では、テレビ放送重視の姿勢が鮮明になった。一般に、北朝鮮がニュースを伝える際、朝鮮中央通信と労働新聞が先行し、朝鮮中央テレビは一歩遅れてそれに映像を交えて放送している。だが、第7回党大会では、朝鮮中央テレビの映像公開に合わせて、朝鮮中央通信が同時に報道する形が取られ、テレビ放送重視の姿勢が鮮明になった。大会では金正恩が36年ぶりに党大会を開催できるまでに権力基盤を固めたことを印象づける演出が随所でなされ、映像が先行する形で報道された。これは、北朝鮮が内外に党大会の開催をアピールし宣伝効果を上げるうえで、映像の持つインパクトや影響力の大きさがより重要と判断されたことを示している。映像を通じた金正恩の「権威の可視化」により、政権基盤の確立を誇示するだけでなく、対外的には映像を含めた情報公開を早めることにより、北朝鮮の閉鎖的なイメージを払拭しようとする意図も読み取れる。その意味で、第7回党大会は、北朝鮮にとって「映像先行時代の幕開け」を象徴する契機ともなったのである。

（2）政策プロセスの公開と対外宣伝

① 核実験・ミサイル発射報道

党大会以降、北朝鮮は核ミサイル実験を加速させ、核ミサイル能力を一気に向上させた。金正恩は核ミサイル実験実施の命令書への署名を公開し、ミサイル発射に立ち会うなど自身の関与を鮮明に示すと同時に、その映像を大々的に宣伝した。北朝鮮の軍事力向上を国際社会に誇示するうえで映像を最大限活用したのである。金正日時代の2006年の最初の核実験では、10月4日に北朝鮮外務省が核実験を予告し、9日に朝鮮中央放送と朝鮮中央通信で成功が報じられた[231]。朝鮮中央テレビは翌10日に「朝鮮中央朝鮮中央通信社報道」とのタイトルで短く核実験成功を報じた。2009年5月の2回目の核実験では、4月29日に外務省が予告し、朝鮮中央テレビは25日17時のニュースで成功を報じたが、トップ項目は金正日が盧武鉉の遺族に弔電を送ったニュースだった。次に核実験成功が1回目と同様「朝鮮通信社報道」として報じられた[232]。27日には平壌での核実験祝賀集会開催を報じた。これが金正恩時代に入ると回数、分量と

---

230 朝鮮中央テレビ2016年5月9日午後10時半放送「조선로동당 제7차대회 페막(労働党第7次大会閉幕)」

231 朝鮮中央テレビ2006年10月10日放送「朝鮮中央通信社報道」として核実験成功を報じる。同月10日付『労働新聞』3面も「朝鮮中央通信社報道」との見出しで核実験成功を報じた。

232 朝鮮中央テレビ2009年05月25日17時報道「朝鮮中央通信社報道」

もに目に見えて増加する[233]。2013 年 2 月の第 3 回核実験では成功報道に加えて、市民の反応や成功を祝う軍民大会が録画実況形式で報じられ、国を挙げて祝う姿勢が強調され始めた[234]。

表 11. 核実験の年代別報道内容

報道内容	第 1 回 06/10/09	第 2 回 09/05/25	第 3 回 13/02/12	第 4 回 16/01/06	第 5 回 16/09/09	第 6 回 17/09/03
特別重大報道予告				2		1
実施成功	1	1	4	14		
金正恩命令				14		
祝賀集会	1	1	2	4	1	6
談話・声明	1	1			4	3
反響			14	1		12
記念撮影、祝賀行事			2	7		15
特集（呼びかけ）				1		4
核功労者の授与式			2	9		
核兵器研究所声明					6	14
政治局常務委開催						14
金正恩核関連指導						8
祝賀放送			5			3
功労者の到着・帰路						4
報道回数	4	3	29	52	11	84
報道期間	10/10	5/25、27	2/12～28	1/6～15	9/9～14	9/3～14

※「金正恩命令」「記念撮影、祝賀行事」「核功労者への授与式」「政治局常務委開催」「金正恩核関連指導」には金正恩が関与・出席、第 1 回では 10 月 4 日に外務省が実施を予告。第 1、2 回の報道期間は 20 時報道の内容が確認できずカウントから除外

さらに、北朝鮮が初の「水爆」実験と称する 4 回目の核実験（2016 年 1 月 6 日）では、成功報道の前に朝鮮中央テレビで 2 度、特別重大報道を予告し、金正恩の歴史的命令に基づく初の水素爆弾試験に成功したと大々的に報道した。この際、朝鮮中央テレビは金正恩が水爆実験を承認する命令書に署名する様子や、金正恩のサインが記された 2015 年 12 月、2016 年 1 月の軍需工業部の文書の写真 3 枚を放映し「歴史的な命令が下された」と強調した[235]。成功報道は 3 日間繰り返され、その後も祝賀行事や核科学者らと金正恩の記念撮影など関連の報道が 10 日間にわたって続いた。第 7 回党大会開催を控え、金正恩の業績として誇示するため、第 3 回に比べ報道が倍近くに増加している。2017 年 9 月の第 6 回実験では、第 4 回と同様、特別重大報道

233 磯崎敦仁･澤田克己「核実験によって権威付けを図る金正恩氏 全核実験を振り返り、金正日時代との違いを読み取る」WEDGE Infinity、2017 年 9 月 9 日　https://wedge.ismedia.jp/articles/-/10556　（2022 年 7 月 9 日確認）

234 第 3 回核実験では 2 月 20～28 日に核技術者らが平壌に滞在し参観、歓迎行事に臨み、核実験関連報道が続いた。

235 朝鮮中央テレビ 2016 年 1 月 6 日正午放送

を予告した上で、ICBMに搭載する核弾頭が完成したとして大々的に宣伝した。同時に核技術者ら関係者を平壌に招き、金正恩との記念撮影や、国家表彰を与えるなどその労を称えた。また、各地で祝賀行事を開催し、北朝鮮を核保有国と強調し、徹底した宣伝扇動を繰り返すことで国威発揚に利用した。

核実験実施に至るプロセスの公開もさらに進んでいる。実験実施に先立ち、金正恩、金永南、黄炳瑞、朴奉珠、崔竜海が参加して党政治局常務委員会が開催され、ICBM搭載用水爆実験の実施問題が討議されたことが明らかにされた。そして、水爆実験実施に関する同委員会の決定書が採択され、金正恩が命令書に署名する姿と命令書が写真つきで報じられた[236]。金正恩の命令を前に、党の最高意思決定機関がこの問題を討議し、決定したことは、核実験が最高指導者の独断ではなく党の機関決定に基づいていることを示す。党による政策決定のプロセス公開と政策決定の制度化は、党大会以降、金正恩の統治スタイルとして完全に定着したといえる。党による政策決定が明確化されたことは、軍と政府機関に対する党の指導性の強化と個々の部署の担務や責任の所在の明確化につながる。金正日は党中央委員会政治局会議での討議より、側近から直接報告を聞き決定を下す方式を好んだが、金正恩は党中央委員会政治局会議または拡大会議を1年に1回以上開催し、党の討議を経る形で重要政策を発表するようになった[237]。党主導による政策決定のプロセスの「可視化」と責任の明確化は、後に幹部への役割分担が図られる布石となったと考えられる。

一方、ミサイル発射実験では成功報道のほぼ翌日に動画を公開し、地上での複数台のカメラやミサイル搭載カメラなどを駆使して、映像のインパクトを高めた。金正恩は発射に立ち合い、発射成功を自分の眼で確認し「大満足」するのが典型的な報道パターンである。2017年5月14日の地対地中長距離戦略弾道ミサイル「火星12」型の発射は、15日に労働新聞が写真つきで伝え、朝鮮中央テレビが午後3時の放送開始後冒頭で動画を交えて報道した[238]。動画は約1分20秒で、ミサイル発射5秒前のカウントダウンから始まり、発射の瞬間は少なくとも3台のカメラで撮影され、ミサイルの飛翔を捉えた。また、金正恩の背後に映るモニター画面にはロフテッド軌道による打ち上げ図が映し出されていた。北朝鮮メディアは火星12が「米太平洋軍司令部のあるハワイとアラスカを射程圏内に収めている」と報じた。同月22日には地対地中長距離戦略弾道ミサイル「北極星2」型の試射も同様に午後3時の放送開始後に、一部動画を交える形で伝えられた[239]。約4分の動画は「北極星2」の運搬、起立、カウントダウン、発射

---

236 朝鮮中央テレビ2017年9月3日15時放送「조선동당 중앙위원회 정치국 상무위원회 진행 조선민주주의인민공화국 핵무기연구소 성명 대륙간탄도로케트장착용 수소탄시험에서 완전성공 （朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会進行、朝鮮民主主義人民共和国核武器研究所声明、大陸間弾道ロケット装着用水素弾試験で完全成功）」

237 前掲정·백·임·전、28～29頁（注148）

238 朝鮮中央テレビ 2017 年 5 月 15 日午後 3 時 10 分放送「주체적핵강국건설사에 특기할 위대한 사변, 지상대지상중장거리전략탄도로케트《화성-12 형》시험발사 성공,경애하는 최고령도자 김정은동지께서 새형의 로케트시험발사를 현지에서 지도하시였다（主体的核強国建設しに特記すべき偉大な事変、地上対地上中長距離戦略弾道ロケット《火星‐12型》試験発射成功 敬愛する最高領導者金正恩同志が新型のロケット試験発射を現地で指導なさった）」

239 朝鮮中央テレビ2017年5月22日午後3時10分放送「국가핵무력강화의 길에 울려퍼진 다발적 련발적 뇌성 지상대지상중장거리전략탄도탄《북극성-2》형시험발사에서 또다시 성공, 경애하는 최고령도자 김정은동지께서 탄도탄시험발사를 참관하시였다(国家核武力強化の道に響く多発的、連発的雷声、地上対地上場距離戦略弾道弾《北極星-2》型試験発射で再び成功、敬愛する最高領導者金正恩同志が弾道弾試験発射を参観なさった)」

のプロセスを捉え、発射シーンは4回繰り返された。ミサイルの「第一段分離」、「第二段、戦闘部分離」を字幕で表示し、ミサイルから地球を捉えたとする映像も公開された。

表 12. 主なミサイル実験に関連した報道の比較

	SLMB	火星 12	火星 14	火星 14	火星 15
初報道	2016.4.24 (9 時)	2017.5.14 (15 時)	2017.7.4 (15 時)	2017.7.29 (12 時)	2017.11.29 (12 時)
予告の有無	無	無	特別重大報道	無	重大報道
発射指導	12	8	14	17	16
命令書サイン			14	17	10
祝賀行事		2	28	14	26
反響		1	7	8	8
記念撮影表彰		8	7		16
対米談話等		3	6	5	7
映像公開日時	6 月 1 日	5 月 15 日 15 時	7 月 5 日 15 時	7 月 29 日 12 時半	11 月 30 日 15 時
報道期間	4/24～27 3 日間	5/14～21 8 日間	7/4～14 11 日間	7/29～8/3 11 日間	11/29～12/15 17 日間
報道回数	12	22	76	61	83

同年 7 月 4 日の ICBM「火星 14」型試射の報道では、まず金正恩の発射命令下達を短く伝え、命令書にサインする写真と「党中央は大陸間弾道ロケット発射を承認する。7 月 4 日午前 9 時に発射する。金正恩　2017 年 7 月 3 日」と書かれた金正恩の直筆による命令書の写真 2 枚を放映した[240]。続いて「火星 14」打ち上げ成功の特別重大報道が約 47 分にわたって伝えられた。このうち発射部分は動画で約 4 分 40 秒だった。ミサイルの移動から発射準備、カウントダウンまでは火星 12 と同様だが発射シーンは複数のカメラにより 8 回、角度を変えて放映され、打ち上げられたミサイルから送信されたと見られる地球や弾頭部を捉えた 4 分割の画面も放映された。金正恩は軍幹部らと抱き合って喜び、「原爆、水爆とともに ICBM まで保有したことで、わが国の総合的国力と戦略的地位は新たな高みに立った」と自画自賛した。

一連のミサイル試射を締めくくったのは、ICBM「火星 15」型の試射だった。同年 11 月 29 日、朝鮮中央テレビは正午に重大報道を予告し、正午の放送では金正恩の命令と署名した命令書が報じられ、その後、アナウンサーが「新に開発した大陸間弾道ロケット試験発射に成功」

240 朝鮮中央テレビ 2017 年 7 月 4 日午後 3 時放送「우리 당과 국가,군대의 최고령도자 김정은동지께서 대륙간탄도로케트《화성-14》형 시험발사를 단행할데 대한 명령 하달 -조선민주주의인민공화국 국방과학원보도 대륙간탄도로케트《화성-14》형 시험발사 성공（我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が大陸間弾道ロケット《火星-14》型試験発射を断行するための命令下達、《火星-14》型試験発射成功）」

とする政府声明を読み上げた[241]。翌30日には朝鮮中央テレビが15時10分からの臨時ニュースで打ち上げの模様を動画と写真を交えて約14分報じた[242]。このうち動画は5分弱で、夜間のミサイル運搬、9秒前からのカウントダウン、発射、飛翔が映し出される。飛翔中の映像に「第1段階分離と第2段階始動」との字幕が示され、動画を挟む形で計57枚の写真が映し出された。火星15は射程1万km超と推定され、サンフランシスコやロサンゼルスなどの都市を含む米本土にも到達し得ると見られた。金正恩は「今日は国家核戦力完成の歴史的大業、ミサイル強国偉業が実現した意義深い日である」として核ミサイル開発の完成を宣言した。北朝鮮の主張に対しては、大気圏内への「再突入」技術がまだ確立しておらず、北朝鮮のICBMは必ずしも完成したとはいえないとの指摘もある[243]。2016年4月の潜水艦発射弾道ミサイル（SLBM）発射では動画公開のタイミングが約1カ月後なのに比べ、「火星12」以降は発射場面の動画がほぼ翌日に早まった。内外にミサイルの性能向上を強くアピールする狙いが見てとれる。また「火星14」「火星15」の場合は、事前に予告の上、臨時ニュースで成功を報じ、市民の反応や祝賀行事など関連報道を集中的に伝え、報道期間も長期化している。

一連の核実験・ミサイル発射報道からは北朝鮮が映像を通じて、核開発能力の向上とその進展を内外に誇示し、核保有の既成事実化を積み重ねてきたことがわかる。北朝鮮は安全保障上の脅威として国際社会の注目を集める一方、国内向けには核開発の完成を「歴史的偉業」として大々的に宣伝し、人民大衆の自尊心を満たし国威発揚につなげた。核ミサイル開発の成果は、90年代後半の「苦難の行軍」時代に損なわれた人民大衆の国家への忠誠心や帰属意識を回復させ、内部結束を高める効果も生み出したのである。核ミサイル開発により米国との対立が激化すると、北朝鮮メディアは対敵言論戦機能と映像による対外宣伝を前面に出して対応した。金正恩は「米国がわが国に対して軍事的挑発を選択するなら、快く相手になる準備ができている」[244]、「『独立記念日』にわれわれから受けた『贈り物』を不快に思うであろうが、今後も大小の『贈り物』を頻繁に贈ろう」[245]などと挑発的な発言を繰り返した。当時の米国大統領トランプが金正恩を「リトルロケットマン」と呼び北朝鮮のミサイル発射を批判すると、金正恩は国務委員長名義で声明を発表し、トランプを「ごろつき」「老いぼれ」と罵倒、「史上最高の超強硬対応措置の断行を慎重に考慮する」などと反論した[246]。米国との非難の応酬を通じ、緊張感と危機感を高めることで、内部結束を図ったのである。

---

241 朝鮮中央テレビ2017年11月29日正午放送「우리 당과 국가,군대의 최고령도자 김정은동지께서 새형의 대륙간탄도로케트 시험발사를 단행할 데 대한 명령 하달,조선민주주의인민공화국 정부 성명 새형의 대륙간탄도로케트 시험발사 성공(我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が新型の大陸間弾道ロケット試験発射を断行するための命令下達、朝鮮民主主義人民共和国声明、新型の大陸間弾道ロケット試験発射成功)」

242 朝鮮中央テレビ2017年11月30日午後3時放送「경애하는 최고령도자 김정은동지께서 대륙간탄도로케트 화성-15형 시험발사를 지도하시였다(敬愛する最高領導者金正恩同志が大陸間弾道ロケット火星-15型試験発射を指導された)」

243 防衛省編『令和3年版防衛白書』、67頁、https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2021/w2021_00.html（2022年7月9日確認）

244 朝鮮中央通信2017年5月15日

245 『労働新聞』2017年7月5日2面

246 朝鮮中央通信2017年9月22日「朝鮮民主主義人民共和国国務委員会委員長声明」

2016 年から 17 年にかけての加速度的なミサイル開発と成功報道の裏では、中距離弾道ミサイル計 5 回の発射失敗（2016 年）や複数回にわたるムスダンミサイル発射失敗（2017 年）などが繰り返されていたが、これらの失敗はいずれも報じられなかった。

② 米朝首脳会談報道（2018 年 6 月/2019 年 2 月/7 月）

金正恩は 2018 年 3 月から 19 年にかけて、中国、韓国、米国、ロシアといった関係国との首脳外交を精力的に展開した。中国の習近平とは 5 回、韓国の文在寅は 3 回、米国トランプとも 3 回、それぞれ首脳会談に及んだのである。その様子は北朝鮮国内では臨時ニュースなども含めて伝えられ、翌日には動画・記録映画の形で映像が公開された。いずれも数日間、複数回にわたって集中的に再放送され、金正恩の業績として大々的に宣伝された。金正日時代、外国訪問は実時間には報じられず、金正日が北朝鮮に帰国してから伝えられるのが一般的だった。だが金正恩の場合は多くが出発の時点から報じられ、首脳会談の翌日には動画も公開されるなど情報公開が迅速化され、体制の宣伝扇動に活用された。このうち北朝鮮側が最も重要視したのは米朝首脳会談であり、その点は報道ぶりにも反映されている。

シンガポールでの史上初の米朝首脳会談のテレビ報道は、実際の日程より 1 日遅れの 2018 年 6 月 11 日午前から始まり、金正恩の平壌出発とシンガポール到着、シンガポール首相との会談がまとめて伝えられた[247]。翌 12 日には前夜のシンガポール市内参観の模様が伝えられただけで[248]、会談当日には米朝首脳会談の報道はなかった。首脳会談の初報道は 13 日午後 3 時のテレビ放送開始の冒頭から始まり、帰国報道を挟んで夜まで断続的に続いた[249]。いずれも写真や映像はなく、アナウンサーが内容を読み上げる形式だった。金正恩帰国後の 14 日午後、「敬愛する最高領導者金正恩同志が美（米）合衆国大統領と史上初の朝美首脳対面と会談進行（2018.6.10～13）」と題する記録映画（約 42 分）[250]が放映され、初めて首脳会談の映像が公開された。

記録映画は初日に 4 回、その後回数を減らしながら 18 日まで計 27 回放映され、関連報道の放送時間はのべ 712 分に達した。報道回数、時間ともに 3 回の首脳会談のうち最も多く、初回

---

247 朝鮮中央テレビ 2018 年 6 月 11 日放送「우리당과 국가,군대의 최고령도자 김정은동지께서 미합중국 대통령과의 력사적인 첫 상봉과 회담을 위하여 평양을 출발하시였다,경애하는 최고령도자 김정은동지께서 싱가포르공화국에 도착하시였다,경애하는 최고령도자 김정은동지께서 싱가포르공화국 수상을 접견하시였다(我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が美合衆国大統領との初対面と会談のため平壌を出発なさった、敬愛する最高領導者金正恩同志がシンガポール共和国に到着なさった、敬愛する最高領導者金正恩同志がシンガポール共和国首相を接見なさった)」

248 朝鮮中央テレビ 2018 年 6 月 12 日放送「경애하는 최고령도자 김정은동지께서 싱가포르공화국의 여러 대상을 참관하시였다(敬愛する最高領導者金正恩同志がシンガポール共和国の多くの対象を参観なさった)」

249 朝鮮中央テレビ 2018 年 6 月 13 日放送「조미관계의 새 력사를 개척한 세기적만남, 력사상 첫 조미수뇌상봉과 회담 진행 우리 당과 국가, 군대의 최고령도자 김정은동지께서 미합중국 대통령과 공동성명 채택,김정은 조선민주주의인민공화국 국무위원회 위원장과 도날드 제이.트럼프 미합중국 대통령사이의 싱가포르수뇌회담 공동성명,경애하는 최고령도자 김정은동지께 싱가포르공화국 수상이 축하편지를 보내여왔다（朝美関係の新たな歴史を開拓した世紀的出会い、歴史上初の朝美首脳対面と会談進行、我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が米合衆国大統領共同声明採択、金正恩朝鮮民主主義人民金正恩朝鮮民主主義人民共和国国務委員会委員長とドナルド・Ｊ・トランプ美合衆国大統領間のシンガポール首脳会談共同声明、敬愛する最高領導者金正恩同志にシンガポール首相が祝賀の手紙を送ってきた）」

250 朝鮮中央テレビ 2018 年 6 月 14 日放送「조미관계의 새 력사를 개척한 세기적 만남 경애하는 최고령도자 김정은동지께서 미합중국 대통령과 력사상 첫 조미수뇌상봉과 회담 진행 - 주체 107(2018).6.10～13 -（朝美関係の新たな歴史を開拓した世紀の出会い、敬愛する最高領導者金正恩同志が美合衆国大統領と史上初の朝美首脳対面と会談進行－主体 107（2018）6.10～13-」

会談への北朝鮮の関心と期待の高さを反映している。記録映画では米朝首脳会談の歴史的意義を強調し、金正恩を「新しい朝美関係の幕を開ける世界的な事変」を成し遂げた偉大な指導者と称賛した。また金正恩とトランプの対面の場面では金正恩が世界のトップリーダーと対等に渡り合い、世界が注視する中で会談を進める様子を放映した。映像は金正恩が身振り手振りを交え会話をリードしているように編集し、また笑顔を多用するなど余裕を持って会談に臨んでいるように演出した。午餐や首脳 2 人の散策の場面などでは両首脳が交流を深める様子を放映し、米韓合同軍事演習の中止など会談の成果を強調した。

表 13. 2018～19 年米朝首脳会談の報道比較

	2018 年		2019 年			
場所	シンガポール		ハノイ		板門店	
報道期間	6/11～18		2/24 2/27～3/7		7/1～2	
報道日数	8 日		10 日（米朝 6 日）		2 日	
（報道内容）	回数	分数	回数	分数	回数	分数
出発・到着報道	7	66	5	40	0	0
首脳会談報道	4	78	9	83	2	26
参観その他	4	28	4	44		
記録映画	12	540	4	44	6	138
総計	27	712	22	211	8	164

※ハノイ会談のうち米朝関連報道は 2/24、2/27～3/1、3/6～7 の 6 日間。記録映画 81 分のうち米朝部分は 11 分となる

記録映画には金正恩の行く先々に群衆が集まり、携帯で金正恩の姿を撮影しようとする姿も捉えられていた。北朝鮮側はこれを「非凡な政治実力で複雑多難な国際政治情勢を主導しておられる金正恩同志を欽慕し集まった人々」「シンガポール人民達は熱い尊敬と欽慕の気持ちを抱いて熱狂的に歓迎」していると報じ、金正恩が海外でも尊敬され、慕われる指導者であると強調した。市民らの関心の高さは自然発生的なものであり、北朝鮮で通常なされるような最高指導者の偉大性を示すために人為的に演出されたものではない。それだけに北朝鮮では、世界の注目を一身に集めたこと自体が金正恩の偉大性の証明として評価された。

首脳会談報道には、金日成や金正日時代の慣習にとらわれない金正恩独自のスタイルが随所に示された。それを象徴したのが、中国機を使用したシンガポールへの渡航である[251]。最高指導者が歴史的な米朝首脳会談に向かうのに、自国の専用機ではなく中国国際航空のチャーター機を借用したとすれば、国の威信を損ないかねない。かつての北朝鮮であれば非公開としたであろう場面を、金正恩はそのまま公開した。「中国の支援を受けている」という点を伏せずに報じた背景には、金正恩による実用重視の現実的発想と、「それを見せることが体制維持に影響を与えるものではない」という判断を表している。金正恩はシンガポール市内各所を参観した際に、西側文化を許容する姿勢も示した。「シンガポールが聞いていた通りきれいで美しく、建物ごとに特色がある。今後さまざまな分野で貴国の立派な知識と経験を多く学ぼうと思

251 前掲、朝鮮中央テレビ 2018 年 6 月 11 日「金正恩同志がシンガポールに出発」（注 247）

う」と述べた[252]。また、シンガポール会談の記録映画では一部でBGMに西側の楽曲が使われた[253]。記録映画に北朝鮮以外の曲が使用されるのは異例で、金正恩の決裁を受けた上で制作されたと見られる。例えばシンガポール行きの機内で金正恩が資料を見ている場面から到着までは、イージーリスニングで世界的に有名なポール・モーリア楽団のヒット曲「シバの女王」や「恋はみずいろ」が流れる。マリーナベイ・サンズなどの視察では軽快な「バラ色のメヌエット」や、ロック調の「赤い川の谷間」（米国民謡）が使われた。シンガポールの南国情緒や、史上初の米朝会談に臨む最高指導者の高揚感が音楽にも反映されたといえるかもしれない。西側音楽が北朝鮮のテレビで放送されるのは牡丹峰楽団の初回公演以来と見られる。

表 14. 第 2 回米朝首脳会談報道内容の推移（2019 年 2 月 24 日、27～3 月 8 日）

	2/24	2/27	2/28	3/1	3./2	3/3	3/4		3/5	3/6	3/7	3/8
報道内容	米朝会談へ平壌出発/ベトナム訪問	到着/実務団報告/大使館訪問	トランプと再会/単独歓談/晩餐	2 日目の会談進行	ベトナム訪問（対面,協議,宴会）	ベトナム訪問（花輪進呈）/出発	ベトナム訪問（対面,協議,宴会）	ベトナム訪問（花輪進呈）/出発	ベトナム訪問終了、祖国到着	記録映画（ベトナム公式訪問）	記録映画（ベトナム公式訪問）	記録映画（ベトナム公式訪問）
報道開始時刻	9:13 12:00 17:00 20:00 22:19	15:11 17:00 20:00 21:53	15:11 17:00 20:00 22:26	9:12 13:00 17:00 20:00 22:25	15:10 17:00 20:00 22:03	9:11 13:00 17:00 20:00 22:08	14:00 18:04	15:16 18:00 21:24	15:09 17:00 20:00 22:10	20:30	15:10 17:30 20:00 22:10	9:15 15:00 20:30
時間	約 8 分	11 分	12 分	7 分	27 分	12 分	27 分	13 分	9 分	1 時間 21 分（うち米朝約 11 分）	1 時間 21 分（うち米朝約 11 分）	1 時間 21 分（うち米朝約 11 分）
形式	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	原稿読み上げ	ナレーション	ナレーション	ナレーション
映像	動画（出発）	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	動画	動画	動画	動画
回数	5 回	4 回	4 回	5 回	5 回	5 回	2 回	3 回	4 回	1 回	3 回	3 回

2019 年 2 月の第 2 回米朝首脳会談では開催地のベトナム・ハノイ到着後、金正恩が外務次官の崔善姫らから米朝実務代表団の接触状況を聴取した様子も報道された[254]。核・ミサイル実験実施の過程と同様に、金正恩が実務者との対話を通じて政策を決定していることを印象づけたのである。金正日時代の「密室」政治とは異なり、政策決定過程を「可視化」していく意図がここでも示されている。会談直前の期待に満ちた報道とは対照的に、2 回目の米朝首脳会談

252 朝鮮中央通信 2018 年 6 月 12 日「敬愛する最高領導者金正恩同志がシンガポール共和国の多くの対象を参観なさった」

253 前掲、朝鮮中央テレビ 2018 年 6 月 14 日放映「記録映画」（注 250）

254 朝鮮中央通信 2019 年 2 月 27 日「敬愛する最高領導者金正恩同志が実務代表団の活動状況聴取」

は、北朝鮮にとっては好ましくない展開となった。会うだけで成果につながった初回の会談とは違い、非核化をめぐる双方の思惑の違いが露呈し、合意に失敗したからである。金正恩は寧辺の核施設廃棄と引き換えに制裁の全面的な解除を要求したが、トランプが拒否したため会談は決裂した。予定されていた昼食会や合意文書の署名もキャンセルされた。

北朝鮮側の当惑は会談決裂後の一連の報道にも現れている。会談前は「朝鮮半島と地域、世界の平和と繁栄に大きく寄与する歴史的な第２回朝美首脳会談」[255]と位置づけていたが、2 日目の会談が終わると「70 余年の敵対関係の中で積もった反目と対決の障壁が高く、朝美関係の新たな歴史を開く道のりで避けられない難関と曲折がある」[256]と意見の対立があったことを示唆した。また、「満足」「成功」といった成果を示す表現はなく、対話を継続すると報じるに止まった。会談終了時の映像も廊下で対話を交わす場面で終了するなど、不自然な編集だった。報道時間はベトナム到着と初日の報道が 11～12 分なのに対し、2 日目の会談は 7 分に減少している。また、2 回目の首脳会談に関連した記録映画はタイトルから「米朝首脳会談」の文字が消え、「ベトナム公式訪問」のみとなった。放送時間 78 分のうち、米朝首脳会談に触れた部分はわずか 11 分だった[257]。こうした報道ぶりからは金正恩が会談結果に不満を持ち、大々的な報道を望まなかったことが窺える。

3 回目の対面は 2019 年 7 月、訪韓中のトランプがツイッターで呼びかけてから、わずか 1 日で電撃的に実現した。ハノイ会談が物別れに終わって以降、膠着状態に陥っていた米朝関係をトップ会談で打開できるのか、注目された。北朝鮮側は「分断・敵対・対立」の象徴である板門店での米朝首脳会談を「歴史的対面」「歴史的な握手」と称え、トランプ大統領が軍事境界線を越えて北朝鮮側に入る場面を大々的に報じた。この首脳会談は 7 月 1 日に初めて報道され[258]、北朝鮮側は「米国の現職大統領が史上初めて軍事境界線を越えてわれわれの領土を踏む歴史的な瞬間が記録された」と強調していた。この場面はその翌日に放映された記録映画[259]では、金正恩がトランプに対し「『全世界が見ている。史上初めてわが国の地を踏む初の米国大統領になれ』と述べてトランプ大統領を我が方地域に招請した」と描写され、あたかも金正恩が米大統領に決断を促したかのように脚色された。その時の会談で金正恩は「トランプ大統領との立派な親交関係があったので、わずか一日で今日のような劇的な対面が遂げられた」「今後も自身とトランプ大統領との立派な関係は他の人々が予想できない良い結果を引き続き生むであろうし、直面する難関と障害を克服する神秘的な力として作用するであろう」と述べ、米朝の対話継続とトランプの決断に期待を表明した。記録映画は「朝美関係が紆余曲折と試練に

---

255 朝鮮中央通信 2019 年 2 月 28 日「朝鮮労働党委員長で朝鮮民主主義人民共和国国務委員会委員長であられ我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が美合衆国大統領ドナルドジェイ.トランプと対面され、単独会談と晩餐を共にされた」

256 朝鮮中央通信 2019 年 3 月 1 日「第 2 次朝美首脳面談第 2 日会談進行、我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が美合衆国大統領ドナルドジェイ.トランプと再び対面され会談された」

257 朝鮮中央テレビ 2019 年 3 月 6 日放送「<조선기록영화（朝鮮記録映画）> 우리 당과 국가,군대의 최고령도자 김정은동지께서 베트남사회주의공화국을 공식친선방문하시였다(我が党と国家、軍隊の最高領導者金正恩同志が越南社会主義共和国公式親善訪問なさった）주체 108(2019).2.23～3.5」

258 朝鮮中央テレビ 2019 年 7 月 1 日放送「경애하는 최고령도자 김정은동지께서 도날드 트럼프 미합중국대통령과 판문점에서 력사적인 상봉을 하시였다(敬愛する最高領導者金正恩同志がドナルドトランプ美合衆国大統領と板門店で歴史的対面をなさった)」

259 朝鮮中央テレビ 2019 年 7 月 2 日放送「金正恩委員長がトランプ大統領と板門店で対面-主体 108（2019）.6.30-」

打ち勝ち、前進している」と評価、両首脳が会談の結果に「大きな満足」を示したとしている。2 回目の会談とは違い制裁の解除など具体的な成果よりも、板門店という象徴的な場所で両首脳の良好な関係を世界にアピールすることが会談の目的となっていたことがわかる。

表 15. 第 3 回米朝首脳会談報道内容（2019 年 7 月 1～2 日）

	7 月 1 日		7 月 2 日
報道内容	板門店対面	記録映画	記録映画
報道開始時刻	9 時 12 分 12 時 00 分	17 時 00 分 20 時 00 分 22 時 00 分	15 時 18 分 18 時 00 分 20 時 24 分
時間	13 分	23 分	23 分
形式	原稿読み上げ	ナレーション	ナレーション
映像	なし	動画	動画
回数	２回	３回	３回

米朝首脳会談の内容に対する「脚色」は、さらに事実の「上書き」へと進んでいく。2020 年 1 月の記録映画「自主の旗、自力富強の進路に前進してきた勝利の年」[260]では、ハノイでの米朝首脳会談で金正恩がトランプに「制裁と圧迫を続けるなら、我々としてもやむを得ず国の自主権と国家の最高利益を守り、朝鮮半島の平和と安全を達成するための新たな道を模索せざるを得なくなるかもしれない」と迫り、一歩も譲歩しなかったと主張する。会談直後の報道では「相互理解を深め」、「建設的で虚心坦懐な意見交換」をしたとし、「両国関係を新たな関係に飛躍させる重要な契機になった」[261]と報じていたが、一転して対決色を前面に出した。板門店ではさらに強く「米国式の対話法には応じられない」、「制裁にも解除にも関心が無く、これ以上それに執着しない」、「我々は自尊と国力を売った対価として華麗な変身を願っておらず、ひたすら我々の力で復興の前途を切り開いていく」と、米国に向けて金正恩が米朝対話の打ち切りを迫ったかのような構図に再構成された[262]。映像には動画ではなく写真が使用され、金正恩がトランプをにらみつける場面やトランプがうなだれる様子の写真が恣意的に選ばれ編集された。2019 年 12 月末の朝鮮労働党中央委員会第 7 期第 5 回総会で金正恩は「米国が敵視政策を最後まで追及するなら、朝鮮半島の非核化は永遠にない」として、米朝交渉を事実上中断すると宣言した[263]。これを受けて記録映画でも米朝首脳会談の内容が書き換えられたことが示唆されている。

北朝鮮の公式報道ではこれまでも粛清された幹部の映像を削除し、その場にいなかった事にするなどの措置が取られてきた。金正恩時代に入っても張成沢粛清時には同様の措置が取られ

260 朝鮮中央テレビ 2020 年 1 月 10 日放送「<조선기록영화（朝鮮記録映画）> 자주의 기치, 자력부강의 진로따라 전진해온 승리의 해 2019 년의 전설적기적을 안아온 위대한 영웅적투쟁사의 일부를 전한다(自主の旗、自力富強の進路に前進してきた勝利の年、2019 年の伝説的奇跡をもたらした偉大な英雄的闘争史の一部を伝える)」

261 朝鮮中央通信 2019 年 3 月 1 日（注 256）

262 前掲、朝鮮中央テレビ 2020 年 1 月 10 日放送、記録映画（注 260）

263 朝鮮中央通信 2020 年 1 月 1 日報道「主体革命勝利の活路を明らかにした不滅の大綱―我々の前進を阻むあらゆる難関を前面突破戦で乗り切ろう　朝鮮労働党中央委員会第 7 期第 5 次全員会議に関する報道」

た。一方で、金正恩時代には、杖をついての視察や米朝首脳会談での中国機借用などのように「体制存続に悪影響を及ぼさない」範囲で、現実に即した形の報道がなされた。これは市場の拡大や携帯電話などの普及に伴う情報経路の多様化によって情報統制が困難になったことを踏まえ、政権に不利な情報も完全に隠蔽するのではなく、一定の範囲で公開する形へと報道対応が変化したことを示している。ただ、人民大衆の理解を得ようとする現実に即した報道と「上書き」報道の選別には、明確な基準があるようにはみえない。宣伝扇動当局が報道内容を検討し、「金正恩に責任が及ぶ」と判断したような場合、報道内容が北朝鮮の主張に沿う形に置き換えられるか、もしくは報道自体がなされないことになる。

（３）金正恩による象徴操作と権威補填からの脱却

① 金日成との一体化、「苦難の行軍」再現（2019 年 10 月/12 月）

ハノイでの第 2 回米朝首脳会談が事実上の決裂に終わり、米朝協議は膠着状態に陥った。北朝鮮は 2019 年末を期限として米国の方針転換を促すが、米国側は応じる気配を見せず、金正恩は新たな対米戦略の提示を迫られた。この重要局面で、金正恩は初めて白馬に跨がって白頭山の雪原を駆け巡る姿を公開した[264]。

表 16.　金正恩白頭山登頂報道の比較

	2013	2014	2015	2017	2018	2019	
報道期間	11/30～12/1	4/2～5	4/19～21	12/9～11	9/21	10/30～31	12/3～7
報道日数	2	4	3	3	1	2	5
報道内容	三池淵郡指導、戦跡地など訪問	革命戦跡地探査参加指揮官と対談	登頂、行軍激励	登頂、三池淵事業指導	文在寅夫妻と登頂	三池淵郡指導、登頂	革命戦跡地訪問
報道時間（1 回分）	21 分	16 分	20 分	27 分	14 分	20 分	31 分
報道回数	7	11	6	11	3	12	11
報道時間（総計）	147	176	120	297	42	240	331

実妹の金与正はじめ、同行の幹部らも白馬に跨がり金正恩に続いた。白頭山は朝鮮の始祖である檀君が降り立った場所とされ、歴史的にも北朝鮮において「祖宗の山、そして国家鎮護の聖なる山として信仰の対象となってきた」[265]。同時に、金日成が抗日闘争を繰り広げ、金正日が生まれたとされる革命の聖地であり、金正恩にとっては正統性の原点となる場所である。北朝鮮メディアは金正恩が白頭山で見せた「偉大な思索」により、「再び世界が驚き朝鮮革命が一

264 朝鮮中央テレビ 2019 年 10 月 16 日 17 時放送「경애하는 최고령도자 김정은동지께서 백두산정에 등반하시였다(敬愛する最高領導者金正恩同志が白頭山に登坂なさった)」

265 鐸木、前掲書（2014）、208 頁（注 4）

歩前進する雄大な作戦が実行される」と大々的に報じた[266]。また、「最高指導者が今回歩まれた軍馬行軍の道は、我が革命史で振り幅が大きい意義のある事変」[267]と位置付け、重大な転機として強調したのである。白馬は「強い力と勝利の象徴」[268]であり、白頭山の雪原を白馬に乗って駆ける最高指導者の姿は、金日成率いる抗日パルチザンが極寒と飢えの中で 100 日以上戦った「苦難の行軍」の象徴でもある。白馬に跨がる金正恩は「パルチザン金大将」と描写され、革命伝説における金日成、金正日を象徴する「白い虎」「白頭山竜馬」などの表現が使われた。金正恩による白馬での行軍は「敵対勢力と最後の決着を付けるという鉄の宣言」[269]とされ、米国との対話に見切りをつけ、対決へと舵を切ることを予告するものであった。米国との対峙、制裁の長期化という難局を前に、金正恩版「苦難の行軍」の幕開けを強く示唆し、自力更生を強調したのである。

北朝鮮メディアは約 1 カ月半後の 12 月 4 日にも、金正恩が白馬に跨がり白頭山地区を再訪したと伝えた[270]。今度は妻の李雪主や崔竜海ら主要幹部からなる一団を率い、金日成が抗日戦の拠点とし金正日が誕生したとされる白頭山密営などの革命戦跡地を回った。金正恩は「帝国主義者の前代未聞の封鎖、圧力策動」が北朝鮮を取り巻いているとして危機意識をあらわにし、白頭山の攻撃思想で難局を打破すべしと強調した[271]。10 月の訪問に比べ、体制維持のための内部の引き締めと結束強化がより鮮明に打ち出され、イデオロギー教育と思想統制が強調された。特に、金日成とパルチザン部隊の苦難の行軍がより具体化され、逸話を伴う場面として映像で再現されているのが特徴である。例えば金正恩が随行者と雪原でたき火を囲む場面は、金日成が妻の金正淑ら抗日パルチザンとたき火をしながら祖国を懐かしみ、抗日運動への意欲を燃やしたとする北朝鮮の逸話にならったと見られる[272]。

金正恩の白頭山訪問は、これまでも政治的節目や重大な決断を控えた時期との関連が指摘されてきた[273]。2013 年 11 月の訪問直後には、叔父の張成沢を粛正し、2015 年 4 月の訪問後は人民武力部長だった玄英哲を処刑した。2017 年 12 月の訪問を経て、翌年の新年の辞で南北対話を呼びかけ、2019 年の 2 回の訪問は米朝交渉の期限、党中央委員会総会に向けた決断の時期と重なる。労働新聞は白頭山訪問とその時期について、「金正恩委員長が白頭山に登るたびに、この地と全ての惑星を震撼させる新しい奇跡と勝利、世紀の出来事が起こる」[274]と指摘した。金正恩の決断と白頭山を連動させることで金正恩の権威を一層高め、その決断に重みを加えることを意図したのがわかる。党中央委員会第 7 期第 5 次総会での「正面突破戦」宣言を前に白頭山での「重要決断」を演出することにより、「白頭の血統」の継承者としての自身の正統性と権威を可視化し、現状打破と危機克服を図るために、映像を活用したのである。

---

266 朝鮮中央通信 2019 年 10 月 16 日

267 前掲、朝鮮中央通信(注 266)

268 『労働新聞』2019 年 10 月 18 日付「政論」「절세의 영웅 우리의 장군（絶世の英雄、我々の将軍）」（3 面）

269 同上「政論」（注 268）

270 朝鮮中央テレビ 2019 年 12 月 4 日放送「경애하는 최고령도자 김정은동지께서 백두산지구 혁명전적지들을 돌아보시였다(敬愛する最高領導者金正恩同志が白頭山革命戦跡地を見てまわられた)」

271 朝鮮中央通信 2019 年 12 月 4 日

272 聯合ニュース 2019 年 12 月 4 日報道

273 『朝鮮日報』2019 年 10 月 16 日「金正恩、白馬に乗って白頭山訪ねる…“米が強要した苦痛に人民憤怒”」

274 前掲「政論」（注 268）

表 17.　金正恩白頭山登頂報道とその意味合い

	2013	2014	2015	2017	2018	2019	
期間	11/30～12/1	4/2～5	4/19～21	12/9～11	9 月 21 日	10/16～18	12/3～7
日数	2	4	3	3	1	2	5
報道内容	三池淵郡指導、革命戦跡地、991 空軍部隊訪問	革命戦跡地探査参加の連合部隊指揮官と対談	登頂、行軍激励／発電所建設現場指導	登頂、三池淵郡各部門指導	文在寅と平壌出発／登頂、見送り	三池淵郡現地指導、登頂	革命戦跡地訪問
強調点	白頭の革命精神教育と継承訴え	抗日遊撃隊、白頭革命精神への継承	白頭の革命精神と金正恩への忠誠	11 月大事変（核兵力完成の偉業）を実現した金正恩を称賛	南北融和、民族史的出来事	世界が驚く偉大な作戦思索、革命の歴史で意義ある出来事	帝国主義者の圧力策動に白頭の革命精神で対抗
映像要素	史跡、部隊、スキー場視察	兵士との集会、演説、記念撮影	山頂の姿、雪、風、朝日、行軍兵士、記念撮影	雪に覆われた天池に立つ姿、幹部ら	天池前で文在寅夫妻と記念撮影	白馬、雪原、天池、風、夜明け	白馬、雪、密営など史跡、焚火、川
随行者	金元弘、金養建、黄炳端ら	崔竜海、張正男、辺仁善、徐洪燦ら	黄炳端、崔竜海、金養建、李在一ら	崔竜海、金勇秀、趙甬元ら	文在寅、李雪主ら	趙甬元、金与正、劉進、玄松月、馬園春ら	崔竜海、朴正天、李雪主、玄松月ら
時期	トップ就任後初、張成沢粛清直前	党政治局会議、最高人民会議前	5 月に玄英哲粛清	核武力完成宣言の直後	第 3 回南北首脳会談を契機に	米朝協議決裂後の新路線示唆	中央委総会開催を決定

金正恩は政権発足直後、金日成のカリスマ性を自身に投影することで、自身の権威を補填してきた。2019 年の白頭山訪問は難局にあたり、「白頭の血統」をその象徴的な逸話で映像再現したもので、金正恩に対する象徴操作がさらに進んだことを示している。だが、最高指導者としての経験や実績が不足していた 2012 年当時と、2019 年の時点での金正恩の位相は全く異なる。36 年ぶりに第 7 回党大会の開催を成功させ、核開発を完成させ、史上初の米朝首脳会談を成し遂げ、最高指導者としての実績を積み重ねてきた。国際社会にも認知され、もはや金日成や金正日の権威を頼る必要性はなかったはずである。それでもなお、白馬による白頭山訪問を通じ「苦難の行軍」を映像で再現したのは、米国との対峙に踏み切る前に、「白頭の血統」の連続性により権力の正統性を改めて誇示し、国内の結束を強化する狙いがあったと考えられる。危機感を高揚し、危機克服のための「戦闘」を呼びかけることで、人民大衆に「苦難」を強いることを正当化したともいえる。人々の不安や不満を抑えるため、金正恩を金日成と同様に米帝・日帝を破った強い指導者、困難に打ち勝つ指導者として、改めて強く印象づける必要もあった。2019 年の白頭山における白馬の行軍報道以降、北朝鮮の宣伝扇動活動は、対外的な成果の誇示から国内の結束強化へと転換していく。

（4）第 8 回党大会開催と権威の制度化の進展

① 定例行事としての党大会報道（2021 年 1 月）

2020 年は前年末の党中央委員会総会で打ち出された「自力更生の威力で敵の制裁封鎖策動を総破綻させるための正面突破戦」[275]の宣言で幕を開けた。だが、制裁の長期化以外にも新型コロナウイルス感染防止のための国境封鎖、台風などの自然災害など想定外の被害に見舞われ、北朝鮮にとっては“三重苦”ともいえる厳しい状況が続いた。

表 18.　第 8 回党大会報道総数（2021 年 1 月 9 日～18 日）

報道内容	回数	放送時間（分）
党大会開幕	6	198
2 日目	6	30
3 日目	6	54
4 日目	6	42
事業総括報告	11	1023
反響	8	42
大会 5 日	6	48
大会 6 日	4	232
部門別協議	1	5
閉幕	10	400
祝賀公演	9	108
記念撮影	19	185
軍事パレード	8	696
軍パレ予告、経過	2	9
軍民大会	2	88
計	104	3160

このため、第 7 回党大会で掲げた国家経済発展 5 カ年戦略の達成は困難となったが、北朝鮮は 2021 年 1 月に第 8 回党大会の開催を決定した[276]。2021 年 1 月 5 日に開幕した第 8 回党大会は、第 7 回大会に比べ祝賀演出は控え目で、内容重視の報道がなされた。朝鮮中央テレビが映像を公開したのも、当日ではなく翌日午後 3 時の放送開始の直後となった[277]。約 33 分の党大会開幕報道では、冒頭で会場となった 4・25 文化会館内に展示された金正恩の肖像画や活動を記録した写真などに見入る参加者の映像が紹介された。金日成・金正日の肖像画は会場の入り口に掲げられているが、画面上は金正恩の展示が圧倒的に多い。金日成・金正日は象徴的な存在とされ、政権運営の中心にいるのは金正恩であることを印象づける演出と見られる。カメラは車での到着から万雷の拍手を浴びながらの入場、肉声による開幕の辞まで金正恩の動線を追い、第 7 回大会以降の金正恩の権威の高まりを示している。

275 『労働新聞』2020 年 1 月 1 日付「われわれの前進を阻むすべての難関を正面突破戦で切り抜けていこう―朝鮮労働党中央委員会第 7 期第 5 次全員会議に関する報道」

276 朝鮮中央通信 2020 年 8 月 20 日報道、朝鮮労働党中央委員会第 7 期第 6 回総会で決定

277 朝鮮中央テレビ 2021 年 1 月 6 日 15 時放送「우리 식 사회주의의 전면적발전행로에서 일대 분수령으로 될 투쟁과 전진의 대회 력사적인 조선로동당 제 8 차대회 개막（ウリ式社会主義の全面的発展行路で一大分水嶺となる闘争と前進の大会、歴史的な朝鮮労働党第 8 回大会開幕）」

9時間に及んだとされる今回の金正恩の事業総括（総和）報告は、テレビ報道では約90分にまとめられ、肉声ではなくアナウンサーが読み上げる形で公開された[278]。前回は7時間の報告が3時間超にまとめられ、肉声で報じられたが、今回はよりコンパクトになり、報告の放映に先立つ特別重大放送の予告もなかった。代わって最終日に金正恩の肉声による「結論」と「閉会の辞」を放映し、党大会の決定内容がより直接的に国民に伝わるようにした。また、前回の党大会にはなかった部門別協議会が開催され、その模様が放映された。党大会決定書の草案作成のため、各政治局常務委員らが協議会を指導し、党大会で提起された諸問題を討議した。党大会での決定書作成のプロセスや、課題克服に向けた議論などがより細分化され映像とともに公開された[279]。党大会開催そのものに意味があった前回は映像先行の形で報道がなされたが、今回は討論の過程や内容を重視する立場が強調されたのである。

新規約では党大会は5年に一回ずつ召集するとし、党大会召集は数カ月前に発表されることが明記された。党大会の開催については、1980年10月の第6回大会で「5年に一回」と修正されたが、2010年9月の党代表者会で開催頻度に関する規定が削除されていた。党大会開催の定例化について北朝鮮メディアは「党大会で党中央委員会の事業を定期的に総括し、重要な戦略・戦術的問題を適時に討議、決定して党中央指導機関を整備、補強することにより、革命の参謀部としての党の領導的役割を高めようとする」目的があると報じている[280]。映像公開が翌日になり「重大予告」がなくなったのも、党大会を「特別な出来事」ではなく「定例行事」として位置づけたことを反映している。金正恩が前回のような背広ではなく、人民服を着用して大会に臨んでいるのもその表れといえよう。こうした報道の変化は、第7回党大会当時に比べ、党を主体とした金正恩の統治が確立し、権威の制度化が定着したことを示している。人民大衆第一主義を柱とする金正恩の統治スタイルが浸透する一方、人民生活の悪化に配慮し、成果を誇示するのではなく、問題を認め、解決に取り組む姿勢に焦点をあてて報じている。

② 伝統による権威補填からの脱却

金日成・金正日ら先代の権威を抽象化し、自身の権威向上を図る動きは党規約の改正でも示された。改正された新規約では「金日成・金正日主義」という指導理念への言及を除いて金日成、金正日、金正恩の指導者個人に対する言及が削除された。たとえば、2016年の規約第1条では「朝鮮労働党員は、敬愛する金正恩同志の領導によって偉大な金日成同志と金正日同志が開拓し、導いてきた主体革命偉業、社会主義偉業の勝利のためにすべてのものを捧げて闘争する主体型の革命家である」とされていた[281]。これが改正後は「朝鮮労働党員は、首領の革命思想で徹底的に武装して、党組織規律に忠実で、党中央の領導に従ってわれわれ式社会主義偉業の新たな勝利、主体革命偉業の終局的勝利のために一身すべて捧げて闘争する主体型の革命家

278 朝鮮中央テレビ2021年1月9日放送16時36分放送「우리 식 사회주의건설을 새 승리에로 인도하는 위대한 투쟁강령 조선로동당 제8차대회에서 하신 경애하는 김정은동지의 보고에 대하여(ウリ式社会主義建設を新たな勝利に導く偉大な闘争綱領、朝鮮労働党第8回大会でなさった敬愛する金正恩同志の報告について)」

279 朝鮮中央テレビ2021年1月12日「20時報道」

280 朝鮮中央通信2021年1月10日報道

281 前掲『北韓法令集上:2020.10』、참고 조선로동당 규약（参考　朝鮮労働党規約）、52頁（注66）

である」となり、金日成、金正日だけでなく金正恩の固有名詞も削除された[282]。新規約では金日成金正日主義に10回言及しただけで、金日成と金正日、金正恩については一度も個別に言及していない。金日成・金正日を指導者個人としてではなく金日成・金正日主義として抽象化することにより、金正恩中心の唯一的指導体系をより強固にする狙いが窺える。また、旧規約にはなかった「党中央」という表現が新規約では16回登場した[283]。新規約の「党中央」は金正恩を指しており、固有名刺が削除された一方で、金正恩の権威がさらに強化されたと見ることができる。平井はこの点について「内容的には金正恩の個人独裁を強化しながらも、用語面では通常の社会主義国家の党規約スタイルに変えた」として、金正恩の「権限、権威強化が進行し、金正恩による唯一的領導（指導）体系がさらに強化された」と分析している[284]。新規約からは金正日時代の政治理念である「先軍政治」「強盛国家」の表現も全て姿を消した。旧規約では「朝鮮労働党は先軍政治を社会主義基本政治方式として確立し、先軍の旗の下に革命と建設を領導する」と規定していたが、これを「朝鮮労働党は、人民大衆第一主義政治を社会主義基本政治方式とする」と変えた。規約上も「先軍」から「人民大衆第一主義」への置き換えが完了し、「人民大衆第一主義」が金正恩の政治理念として前面に出された。

さらに、第8回党大会では党の最高職責を「委員長」から金日成・金正日時代の「総書記」に戻し、金正恩が党のトップである「総書記」に推戴された[285]。2012年4月の党代表者会では、金正日を「永遠の総書記」と位置付け永久欠番扱いとしていたが、これを復活させ、同時に「政務局」も「書記局」に戻した。社会主義体制で党のトップは「総書記」であり、総書記が国家の最高権力者であることを鮮明にしたのである。また、「党の権威を徹底的に保障する」ために党組織以外の政権機関、団体などの職制も委員長、副委員長から、責任書記、書記、副書記に変更した。これにより「総書記」を名乗ることができるのは金正恩ただ一人となり、その権威がより明確化された。金正恩の肩書きが党総書記に代わり、「全党を代表して指導する党の首班」と定められたことについては、「個人独裁の道を完全に封じ、「一党独裁」（集団指導体制）の制度化を進めた」との見方もある[286]。

③ 現実直視と幹部への役割分担

---

282 2021年6月16日국회 외교통일위원회 더불어민주당 국회의원 안민석・이재정・이용선주최（国会外交統一委員会・共に民主党アンミンソク、イジェジョン、イヨンソン主催）、2021년 북한 당규약 토론회『북한 노동당 규약 개정, 어떻게 볼 것인가 』자료집자료집부록, 조선노동당 개정규약、（2021年北韓党規約討論会『北韓労働党規約改正どう見るのか』資料集付録朝鮮労働党改正規約（大韓民国国会、2021、100－133頁）

283 정성장(鄭成長)「북한 노동당 규약 개정, 어떻게 볼 것인가- 당의 운영과 지도이념 및 통일정책 변화 평가 -（北韓労働党規約改正どう見るのか　党の運営と指導理念及び統一政策変化の評価）」、前掲『労働党規約改正どう見るのか』26～28 頁（注282）

284 平井久志「朝鮮労働党の規約改正について」（日本国際問題研究所研究リポート、2021年8月5日）、URL：https://www.jiia.or.jp/research-report/korean-peninsula-fy2021-01.html　（2022年7月9日確認）

285 2012年4月の党代表者会で金正日を「永遠の総書記」と規定したため「総書記」はいったん“永久欠番”となったが、第7回党大会の規約改正で金正日は「永遠の首班」と改められたため、「総書記」の肩書きの使用が可能となった

286 伊豆見元「朝鮮労働党第8回党大会の注目点」（日本国際問題研究所研究リポート、2021年3月29日）、URL：https://www.jiia.or.jp/research-report/post-82.html　（2022年7月9日確認）

開会の辞で金正恩は「国家経済発展5カ年戦略の遂行期間が昨年で終わったが、掲げた目標はほぼ全ての部門で途方もなく未達であった」と経済不振を改善できず、人民生活の向上も果たせなかったことを認めた[287]。5カ年戦略の達成を前提とした場合、かつてのように党大会を長期に開催できない懸念があったが、目標の未達成を認めたことにより党大会開催が可能となった。前述の高層住宅崩壊などの際、党の無謬性よりも現実を受け入れて対応したのと同様の手法である。金正恩はまた、「われわれの努力と前進を妨害して阻害するさまざまな挑戦は外部にも、内部にも依然存在している」と指摘し、「弊害が反復されないように断固たる対策を講じる」と強調した。人民への配慮を優先する一方、幹部らを威圧し体制を引き締める金正恩の統治スタイルが改めて示されたのである。

今回の規約改正ではこれまでになかった「第一書記」のポストが新設された[288]。第一書記は「党中央委員会第一書記は朝鮮労働党総書記の代理人である」とされ、党中央委員会で選出される。これまでのところ第一書記の肩書きや活動が報じられたことはなく、空席と見られている。「代理人」としての権限も非常に曖昧で、最高指導者の業務を一部代行しその負担を軽減するためなのか、事実上のナンバー２として最高権力者と同等の権力を付与される可能性があるのか、現時点では不明である。役割分担は政治局常務委員会の権限強化にも現れている。政治局常務委員会は「政治・経済・軍時的に重大な問題を討議、決定」するほか、幹部任免の討議が可能になった。また「党の首班の委任により、政治局常務委員は政治局会議を司会することができる」ようになった。北朝鮮メディアは「党の首班の革命領導を一層円満に補佐し、党事業と党活動をより機敏に行っていくための現実的要求を具現したもの」と指摘している。政治局常務委員が最高指導者の業務を分担する動きは2020年夏ごろから顕著となっている[289]。2020年8月30日付労働新聞は、1面に朴奉珠と金徳訓が台風被害復旧現場を訪れ「現地了解」したと報じた[290]。最高指導者以外の幹部の活動が1面に掲載されたのは異例だったが、その後も金正恩に代わり、首相らの単独での現地指導が増えている。

第3節　映像メディア分析による金正恩統治スタイル確立期の政治的意味

2016年の第7回党大会から2021年の第8回党大会までの間、金正恩の権威はかつてなく高まった。その過程で金正恩は自身の活動や業績を誇示し、対外宣伝の上でも映像を最大限に活用したのである。まず、36年ぶりの開催となった第7回党大会は、北朝鮮の体制が「金正恩体制に作り替えられた」[291]ことを内外に示すため、通常とは異なりテレビ映像が活字媒体に先行

---

287 朝鮮中央通信2021年1月6日報道「敬愛する金正恩同志が朝鮮労働党第8回大会でなさった開会辞」

288 朝鮮労働党規約全文：前掲『北韓労働党規約改正どう見るのか』付録（大韓民国国会、2021）、28頁（注282）

289 磯崎敦仁「「独裁体制に大きな変化　北朝鮮が「金正恩個人支配」から「集団指導体制」へ移行する兆し？」、『エコノミスト』2020年9月20日

290 『労働新聞』2020年8月30日1面「朴奉珠副委員長黄海南道の台風被害復旧状況現地了解」「金徳訓総理黄海南道の台風被害復旧状況現地で了解」、同9月1日1面「李炳哲副委員長チャンヨン郡の農場で台風被害復旧事業を指導」、「朴奉珠副委員長チャンヨン郡の各農場で台風被害復旧事業を指導」2020年9月1日朝鮮中央テレビは17時ニュースではトップで報じたが20時ニュースでは報じていない。

291 平岩、前掲書（2017）、79頁（注2）

する形で報道がなされた。党大会のハイライトの一つである金正恩の事業総括報告は、3 時間超に編集され肉声のまま、特別重大放送の予告と合わせて放映された。また、経済発展 5 カ年戦略の策定など党大会の進行と協議の状況は連日その日の夜に映像とともに報じられ、政権運営を制度化する動きが「可視化」された。金正恩は同大会で党の最高職責と定められた朝鮮労働党委員長に推戴され、金正日時代の危機管理体制から党の指導へと回帰する平時の体制への移行を完成させた。

第 7 回党大会以降は、後見人体制の崩壊と政権独自性の醸成期（2013～2016 年）で芽生えた金正恩独自の統治スタイルがより鮮明に示されていく。一連の核ミサイル実験では、映像公開を迅速化し、複数台のカメラを使った撮影などにより兵器の性能向上を誇示した。さらに、全土で祝賀行事を開催し、核ミサイル技術者を称えるなど大々的な宣伝扇動活動を展開した。ミサイル発射実験では金正恩が率先して現場に赴き発射に立ち会うだけでなく、「命令書」を公開し自身の関与を強調した。また、6 回目の核実験にあたっては、事前に党政治局常務委員会を開き核実験について協議し、常務委員会の決定を経て金正恩が命令書にサインする手順が踏まれた。核実験に先立ち政治局常務委員会が開催されたことが明らかにされたのは初めてで、党による政策決定プロセスの「可視化」が一層進んだ。米朝首脳会談でも事前に実務陣と協議する姿を公開するなど、金正日時代に蓄積した個人独裁イメージの払拭に加え、手続きを尊重する通常国家としての北朝鮮の姿を印象づけようとしている。

また、党の権威や無謬性よりも現実を受け入れ、対外的にも認めるケースが増えた。シンガポールでの米朝首脳会談では中国機での渡航を公開し、南北首脳会談では金正恩が北朝鮮の交通インフラの劣悪さを認める発言をしている[292]。こうした現実直視の対応は第 8 回党大会開催にあたり、国家経済発展 5 カ年戦略の未達を認める姿勢につながっていく。一方で、この間のミサイル発射実験での失敗は一切報じられず、北朝鮮メディアは沈黙を守った。また、米朝首脳会談では「事実上の決裂」については触れず、報道期間を短縮したりするなどの対応の他、会談の内容を北朝鮮に都合のいい形に脚色したり、書き換えたことが確認された。特に米朝交渉が行き詰まると、事実関係が北朝鮮の主張に合うように上書きされるなど、金正恩以前の北朝鮮報道に逆戻りしたかのような対応もなされた。金正恩と宣伝扇動当局が北朝鮮の安全保障や体制維持に悪影響が出ないと判断した場合は、これまで見られなかった公開性、透明性が示されるが、そうでない場合は、従来同様の隠蔽手法が取られたのである。

金正恩は米国との交渉期限を控えた 2019 年 10 月と 12 月に白馬に乗って白頭山に登頂する映像を公開した。米国との交渉打ち切り、制裁の長期化という難局を前に、金日成の抗日パルチザン活動の象徴を自ら再現することで、権力の正統性と自身の権威を改めて「可視化」したのである。政権発足直後に金日成を模倣しそのカリスマ性を利用したのとは違い、自身の権威が先代同様に高まった段階[293]での象徴操作は、80 年代後半に実施された金正日の生誕にまつわる象徴操作と類似している。当時、金正日は権力移譲の最終段階にあり「権力の正統性を確固た

292 聯合ニュース 2018 年 4 月 27 日

293 정교진(チョンギョジン）、「북한 김정은의 정치행위-지도자상 연동성 분석:김정은의 비핵화의지 여부 검토를 중점으로（北韓金正恩の政治行為 - 指導者像連動性分析：金正恩の非核化意志如何の検討を重点に）」『국가전략』，제 26 권 1 호 2020 년봄호，93 頁、2017 年の核武力完成を受け金正恩が金日成、金正日と並び白頭山 3 大将軍に位置付けられたと指摘。

るものにするとともに（社会主義体制）崩壊の余波を防止」[294]する目的を持っていた。金正恩の場合も、権力の正統性をより強固にすることで、米朝交渉決裂の余波を最小限に留める狙いがあったと見られる。金正日はこの際、自身が白頭山密営で生まれたと主張[295]したが、金正恩は事実を捏造する代わりに、革命伝統と自身を一体化させる形で映像を活用したのである。

この間、人民への奉仕を最優先する人民大衆第一主義もより一層深化した。2015 年の平壌の高層住宅崩壊事故の際は、複数の党幹部らが住民に謝罪したが、2017 年の新年の辞では金正恩が自ら「いつも気持ちだけで能力が伴わないもどかしさと自責の中で、昨年 1 年を過ごした」と異例の自己批判をした[296]。また、2020 年 10 月の党創建 75 周年の軍事パレードでは金正恩が演説で「努力が足らず、人民が困難な暮らしから抜け出せないでいる」「一人たりとも悪性ウイルスの被害者にならず健康でいてくれて本当にありがたく思う」などと述べ、涙ぐむような仕草も見せた[297]。人民大衆第一主義を掲げ、住民に生活向上を約束していながら果たせていないことを自ら認め、人民に許しを請う率直な姿勢で支持をつなぎとめる演出である。「現実を直視」する指導者像を示すことで、世論の理解を得ようとする金正恩の統治スタイルの特徴が示されている。

第 8 回党大会では人民大衆第一主義が先軍政治に代わり、北朝鮮の「社会主義基本政治方式」として党規約に明記されるに至った。また、党規約から金日成・金正日の固有名詞が削除され、その業績に関する記述も大幅に削減された。経済建設がうまくいっていないことを認めた第 7 回党大会から一歩進んで「問題解決型」の大会となったといえる[298]。特に幹部らに対し「問題点の発見と原因の追及、改善策の検討を行う実利的な姿勢」を要求したのが特徴である[299]。実行可能な計画を策定する代わりに、幹部らは「最前線で自らの責任と本分を全うすべき」であり、幹部らの「党性、革命性、人民性が実際の事業能力と実績によって評価される」とした[300]。部門別会議の開催など、個々の幹部らの役割分担が顕著となり、行動と業績に応じて責任を問う厳しい姿勢が示されたのである。問題点を率直に認めたうえで、個々の幹部の対応も含めて解決をめざす形の統治スタイルが徹底されたことは、金正恩の権力基盤が一層安定化し、権威の向上が揺るぎない段階に至ったことを意味している。一方で、政権発足以来の目標である人民生活の向上が実現できない状況が続き、人民大衆の不満の高まりを意識せざるを得ない状況が報道にも反映されている。人民が困難な状況にあることや自身の努力不足を認めるなどの形で人民大衆への配慮をしばしば強調する報道が目立つ。特に、白頭山への白馬行軍など 2019 年後半以降の報道は、国内の結束を固める方向へのシフトが顕著となっており、金正恩が世論の支持をつなぎとめる手段としてメディアを活用していることがわかる。

---

294 鐸木、前掲書（2014）、206～7 頁（注 4）

295 前掲、『조선로동당 력사（증보판）2』、149 頁（注 68）

296 朝鮮中央通信 2017 年 1 月 1 日報道

297 朝鮮中央テレビ 2020 年 10 月 10 日放送「조선로동당창건 75 돐경축열병식 성대히 거행 우리당과 국가 무력최고령도자이신 김정은동지께서 참석하셨다（朝鮮労働党創建 75 周年慶祝閲兵式盛大に挙行、わが党と国家、武力の最高領導者金正恩同志が参席なさった）」

298 三村光弘「朝鮮労働党第 8 回大会および関連会議と国家経済発展 5 カ年計画」『ERINA REPORT PLUS』159 号、環日本海経済研究所、2021 年 4 月　https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2021/04/se15910_tssc.pdf　（2022 年 7 月 9 日確認）

299 同上（注 298）

300 朝鮮中央通信 2021 年 1 月 12 日報道

終　章

金正恩は政権発足直後から、自身がめざす指導者のイメージや統治のあり方、成果や業績を内外に示す上で、テレビ映像を積極的に活用した。容貌や行動様式を金日成に似せ、人民に思慕される指導者像を映像で体現することにより、自身の「後継の正統性を可視化」しようとし、また、張成沢粛清や現地指導での幹部叱責を通じて「権威を可視化」するなど、権力基盤を固めるうえでも映像を利用した。このように金正恩時代に入ると北朝鮮の報道には大きな変化が生じた。本研究では、報道の変化が生じた要因が北朝鮮社会と人民大衆の意識の変化への対応にあるのではないかとの問題意識から、北朝鮮の映像メディアに現れた報道の変化を分析した。1990 年代前半の社会主義陣営の崩壊とそれに続く「苦難の行軍」によって北朝鮮経済の根幹をなしていた配給制度が崩壊すると、北朝鮮社会は大きな変化に直面した。人民の生活を保障し社会の基本システムとして機能した配給制度が崩れたのである。首領による「愛と恩恵」の証であり、人民大衆は忠誠や労働を捧げてこれに応えてきた配給制度がなくなると、人々は市場を通じて私的経済活動を展開し、食糧や物資を自力で確保しなければならなくなった。生存のために食糧を確保する過程で、生活の基盤となっていた組織との間に葛藤が生じ、個人としての自我が芽生えていったのである。このことは、北朝鮮における社会主義的国家観、労働観を揺るがしただけでなく、首領と人民大衆、党幹部と人民大衆の相互関係にも大きな変化をもたらした。

この時、金正日は自身の統治と軍を一体化させた先軍政治によって、北朝鮮社会の変動に対応した。既述のように、先軍政治はクーデターなど軍の動向を管理すると同時に、軍によって国民の離反を抑止する一種の危機管理体制であった[301]。一方、金正恩は後継体制を安定させるため先軍政治ではなく、党が国家、軍を指導する本来の社会主義体制の復活をめざした。それには、社会主義的な価値観にもとづく最高指導者と人民大衆、党幹部の相互関係を一定程度、回復させることが必要になる。自我を持った人民大衆にはもはや、従来の宣伝扇動の手法は通用しない。このため金正恩は、メディア部門の技術革新を進め、朝鮮中央テレビのデジタル化やコンピューターグラフィックス、３Ｄ技術などの導入を通じて画面を刷新し、放送を現代化することで人々の心をつかもうと試みた[302]。さらに人民大衆第一主義を掲げて人民生活の向上や人民への奉仕を強調するうえで映像を活用し、目に見える形で実績をアピールすることを重視した。世論を引き込むことで政権基盤を強化し、先軍政治に代わる危機管理の手段としてメディアを利用したのである。

McEachern は「全体主義体制にはイデオロギーの浸食がつきもの」であり、北朝鮮は「国家のイデオロギーの衰退を補うために、ますます具体的な成果に焦点を当てる必要がある」と指摘した[303]。金正恩は自らの統治の正統性を強化するために「白頭の血統」を利用するだけでなく、国民の支持をつなぎとめるため、その基本的なニーズを満たさなければならない。そのためには絶えず「成果」を出し続ける必要に迫られているのである。つまり、金正恩時代の新た

---

301 平岩、前掲書（2017）、74 頁、（注 2）

302 김·임·김·서、前掲書、36－64 頁（注 36）

303 McEachern, Patrick, 前掲書、pp.218-219（注 24）

な宣伝扇動には、個人の私的経済活動を一定程度容認しながら、同時に社会主義と集団主義の理念を維持することが求められた。このため金正恩は、配給に代わる恩恵として「人民生活の向上」を約束し、人民大衆第一主義を前面に打ち出すことで、人民大衆と最高指導者・幹部の間の相互関係を再構築しようとしたのである。北朝鮮メディアは、金日成のイメージを金正恩に重ね、北朝鮮が豊かで繁栄していた時代を想起させ、住宅や娯楽施設を次々に建設して、人民生活の向上を優先する指導者の姿を宣伝した。幹部恫喝による恐怖政治、人民大衆第一主義など、この間の報道に現れた金正恩の統治スタイルの変化は、いずれも北朝鮮社会の変化と人々の意識の変化を反映し、世論の支持を意識したものであった。メディアは体制の崩壊につながる世論の広がりを回避するための手段として機能したのである。

１．北朝鮮社会の変化と金正恩の統治スタイル

本研究では金正恩時代の報道にどのような変化が生じ、それが北朝鮮社会のどのような変化に対応しているのか、以下の形で検討した。まず、第一章では北朝鮮を代表するニュースである「20 時報道」を「最高指導者の礼賛」、各界各層における「成果」、「その他」の３項目に分類し、2012 年から 19 年までの量的変化を分析した。礼賛報道では、2019 年を期に金日成・金正日礼賛を金正恩礼賛が逆転し、全体の項目に占める礼賛報道の割合が減少した。金正恩政権の安定が報道量の変化からも裏付けられた結果である。「成果報道」はこの間に 20 時報道の 4 割を占めるまでになり、金正恩の成果へのこだわりを示した。「成果報道」は「人民の生活向上」の証左としてだけでなく、最高指導者への忠誠の証として労働を介した最高指導者と人民大衆の関係を強化するうえでも活用された。特に、金正恩政権の将来を担う青年による「成果」が強調され、青年層の逸脱や政権からの離反を防止する危機管理の手段としても機能した。このため、「成果報道」は 2016 年にピークに達して以降も、一貫して高い水準を維持している。2 章から 4 章では、「20 時報道」の変化をもとに金正恩の統治スタイルの変遷を①伝統による権力補填期（2011 年～2013 年末）、②後見人体制の崩壊と政権独自性の醸成期（2013 年末～2016 年党大会開催以前）、③金正恩統治スタイルの確立期（2016 年党大会開催～2021 年党大会開催）にわけ、それぞれの報道の変化を実証的に分析した。

第 2 章の伝統による権威補填期（2011 年～2013 年末）に金正恩は、金日成の風貌や立ち居振る舞いを模倣することで、新たな指導者像の浸透を図った。また、現地指導では人民と触れあう場面を積極的に創出し、肉声演説を通じて人民に直接語りかけるなど人民に配慮する、親しみやすい指導者像を演出した。これらの方針は金正日が生前、年齢が若く指導者として経験もない金正恩の後継を円滑に進めるために準備したものであった。既述のように、ソ連や東欧の社会主義体制崩壊を通じて、金正日は私的所有が生み出す個人主義が社会主義制度を変質させることに強い危機感を持っていた。また同時に、「大衆の支持を得ることのできない党は自らの存在を維持できない」ことも認識していた[304]。金日成は革命の英雄として人民に慕われるだけでなく、北朝鮮が社会主義計画経済の下で繁栄していた時代の象徴でもある。金正日は金正恩に金日成のイメージを重ねることで金正恩の権威不足を補い、権力継承の「正統性を可視

[304] 前掲、김정일「사회주의는 과학이다（社会主義は科学である）」（1988）、484 頁（注 161）

化」し、併せて「国家と党の機能を復活し、政策決定を制度化」することで後継体制の安定化を図ろうとしたのである[305]。

権力の正統性を可視化する映像活用の一方で、金正恩は現地指導において幹部を叱責するという金正日時代には見られなかった場面を公開した。これは次の独自性醸成期で顕著となる現実の不備を認め対処する「現実直視」の対応と、自身の指示に従わない幹部の責任を厳しく追及する「幹部恫喝」の萌芽がこの時期から始まっていたことを意味する。金正恩の幹部叱責の根底には、金正日と同様に、人民大衆の支持を失うことへの恐れと、党幹部に蔓延する官僚主義、不正腐敗に対する強い危機感が見て取れる。金正恩は腐敗幹部らに対する人民大衆の怒りに応える形で報道を変化させ、人民生活向上に配慮する指導者の姿を強調した。前述のように、金正恩の後継決定直後に中東でジャスミン革命が発生し、青年層による政治変動への警戒感が再び強まり、体制維持のための世論形成の重要性が再認識されたのである。

この時期、金日成・金正日時代のような最高指導者の「神秘的な力」を示す自然現象など「神秘現象」報道は見られなくなった。基本的な生計が保障されている間は、盲目的に首領を崇拝し党の指導に盲従してきたが、自我を持った人民大衆は自身の価値判断に従って行動する。また、市場を中心に情報伝達の経路が多様化し、スマートフォンやＩＴ機器が普及したことにより、人々が政府の統制が効かない情報に接する機会が格段に増えた[306]。こうした状況で、荒唐無稽な神秘現象を報じて最高指導者の偶像化、神格化を図っても人民には受け入れられない。このため報道における指導者像も、より「人間的」で「実績（成果）」を重視する形に変化した。これは、先軍政治から党主導の体制に移行する過渡期においても、報道が世論の離反防止を意識する形で利用されていたことを示している。

第 3 章では張成沢粛清に現れた報道の変化と、その後に生じた金正恩独自の統治スタイル報道から、最高指導者、党幹部と人民大衆の相互関係の変化を確認した。数十万人超の飢餓による死者[307]を出した「苦難の行軍」時期を経て、市場は北朝鮮社会に完全に定着した。北朝鮮社会は非社会主義的な非公式領域を完全に排除するのでなく、これと一体化することによって再編成されたのである[308]。政治的な地位の高い党幹部も生存のため市場との関わりが避けられなくなると、政治的エリートと政治的に地位の劣る人々の間に「権威と物の交換」 による結びつきが生まれた[309]。公式な地位が非公式な私利と直結すると日常生活のうえでも幹部に対する賄賂や贈物が不可欠となり、腐敗が蔓延していった。一般住民にとって党幹部は、個人の生計活動を邪魔するだけでなく不正行為を働く存在として、不信と怒りの対象へと変化していったのである。また、市場の定着と共にトンジュと呼ばれる新興富裕層が登場し、一般庶民との経済格差が急速に拡大した。平壌の高級マンションを所有し、高級レストランで食事を楽しむ新興富裕層は党幹部と同様に不平等の象徴として怨嗟の対象となりつつある。

---

305 鐸木、前掲書（2014）、302－304 頁、（注４）

306 アンドレイ・ランコフ『北朝鮮の核心 そのロジックと国際社会の課題』、みすず書房、2015 改定版、123－124 頁

307 同上、96－97 頁、1996 年から 99 年までの飢餓による死者数は 25 万人から 300 万人まで幅があり、最も少ない数字でも 45 万～50 万人とみられている。（注 306）

308 伊藤、前掲書、436 頁（注 109）

309 同上、431－434 頁（注 109）

金正恩はこれまで北朝鮮では報じられなかった幹部粛清の場面をあえて公開し、人民大衆の党幹部に対する否定的な観念や経済格差への不満を張成沢に向けさせることで、粛清と処刑を正当化した。張成沢は現代版宗派を形成して金正恩の地位を脅かしただけでなく、過去の経済的失政の責任も問われ、不正腐敗の象徴として徹底的に糾弾された。これを機に金正恩は、金日成のカリスマ性に依拠した親しみやすく慈愛に満ちた指導者と、幹部らを恫喝し威圧する畏怖される指導者の両面を鮮明にしていく。人民大衆に対し腐敗幹部との「闘争」を指導する姿を示すことは、金正恩と人民の結びつきを強化し、「権力の正統性」の補強につながる。張成沢粛清を通じて示された、幹部への恫喝と人民大衆第一主義を併用する「人民に優しく、幹部には厳しい」指導者像は、北朝鮮社会の変化に応じた新たな指導者像となり、金正恩独自のスタイルとして定着していく。

さらにこの時期の報道には、杖をついての視察や、高層住宅崩壊での幹部謝罪、すっぽん工場での激怒など金正恩の「独自性を可視化」する変化が見られた。これらの映像には伝統による権力補填期で萌芽がみられた「現実直視」の対応と「人民大衆第一主義」の姿勢がさらに深化する形で現れている。金正恩は最高指導者を人智を超えた神秘的能力の持ち主として神格化・偶像化する代わりに、体調に問題があっても人民への奉仕を優先する指導者の姿を示した。自我をもち個人の利益を優先する人民の指導者には、非科学的な指導者像よりも現実に対処する指導者が望ましいと認識され、それが報道に反映されたのである。平壌の高層住宅崩壊での幹部の謝罪報道も同様に、北朝鮮社会の情報化に対応する報道の変化ということができる。北朝鮮では他の社会主義諸国同様、党の指導は絶対であり、無謬であることが前提とされてきたため、これまで党の不祥事や失策が公に報じられることはなかった。これが変わったのは、党の無謬性より人民大衆の反応を意識し、反発を抑えることを優先させた結果といえよう。完全な情報統制が困難な状況では、隠蔽するよりも事実を認めた方がダメージをコントロールしやすい。不都合な現実を認める対応は、その後の金正恩自身による住民への謝罪や、党大会での5カ年戦略未達成の発表へとつながる。

また、幹部らに対し「実践と結果」を求め、実行できなかったことに対する原因分析を求めるなど[310]、責任の所在を明らかにする姿勢を強調する報道も現れた。すっぽん工場での激怒報道ではこの「実践と結果」重視の対象が、政権指導部の要人クラスだけでなく現場の責任者らに対しても及ぶことが示されている。「実践と結果」重視の姿勢は、36年ぶりの党大会開催に向けた「成果」の積み上げと連動して加速していく。また、2016年1月の第4回核実験や、2月の光明星4号打ち上げの際に、金正恩が命令書に署名するなど、核ミサイル実験における最高指導者の関与が明らかにされた。こうした政策決定プロセスの公開は2016年の第7回党大会以降、本格化した。張成沢粛清により独自の体制を構築した金正恩は、危機管理面でも先軍政治から脱却し独自性を発揮していく。報道では人民大衆第一主義と幹部恫喝の併用、最高指導者の神秘性や党の無謬性よりも現実直視、実践と結果（成果）の重視が、金正恩の統治スタイルとして示され、定着していったのである。

第4章の金正恩統治スタイルの確立期（2016年から2021年）では、2019年後半の白頭山への白馬登頂の前後で報道ぶりが大きく変化している。前半は、36年ぶりの党大会開催、核ミサ

310 前掲、朝鮮中央通信2014年2月26日（注78）

イル開発の進展と完成、米国や中国、韓国、ロシアなどとの首脳会談を通じ、金正恩は業績誇示と対外宣伝のために映像を最大限活用した。第7回党大会では労働新聞を核とする通常の報道体制とは異なり、テレビ報道を先行させ、映像による「権威の可視化」を図ったのである。この時期にはまた、軍事・外交分野でも政策決定の過程を相次いで公開し、「通常国家」としての政権運営を印象づける手段として映像が使用された。核ミサイル能力の向上や首脳会談の成果を誇示するために速報性が高まり、映像も早ければ翌日に編集して放映するなど公開が迅速化し、対外宣伝力が強化された。一方、核ミサイル実験の失敗や米朝首脳会談の事実上の決裂については一切報じられなかった。こうした場合は、金正恩の独自性の一つである「現実直視」の対応は陰を潜め、北朝鮮が従来取ってきた情報隠蔽的な手法に逆戻りしている。2016年から2017年にかけて北朝鮮は、核開発をめぐり極度の軍事的緊張にさらされており、安全保障面で不利な情報を公開することは体制維持を危うくする恐れがあった。米朝首脳会談も同様に北朝鮮にとっては、朝鮮戦争以来の敵国との談判であり、その成否は体制を揺るがしかねない。結局、「現実直視」の対応は、あくまで体制維持に悪影響や脅威を与えないと判断された事象に限られたのである。

2019年後半の白頭山登頂から2021年の第8回党大会開催までの時期は、前半とは対照的に、体制の結束を促す対内宣伝の重視が鮮明となった。米朝首脳会談が膠着状態に陥り、局面の転換を迫られた金正恩は2019年10月と12月に白頭山に白馬で登頂し、金日成の抗日パルチザン闘争を映像で再現して見せた。「白頭の血統」の正統な後継者であることを改めて映像で示し、「正統性の可視化」を再び強調したのである。核ミサイル開発の完成、米国との首脳会談などの実績により、金正恩の権威はかつてなく高まり、もはや金日成のカリスマ性に依拠し自身の権威を補填する必要はなかった。にもかかわらず、金日成の「苦難の行軍」を映像で再現したのは、米朝交渉の最大の目的であった制裁解除に失敗し、人民大衆の「苦難」が続くことを考慮したからである。人々の不満を抑え「苦難」の継続を正当化するためには、革命伝統にもとづく「戦闘」を再現する形で危機克服を呼びかけ、危機感を高揚することで国内の結束を図る必要があったのである。2019年は「20時報道」における金正恩礼賛報道が金日成・金正日を総体として初めて上回った。先代から金正恩へのシフトは、2021年の第8回党大会で党規約から金日成・金正日主義を除き、金日成・金正日の固有名詞が削除されたことからも窺える。党規約からは金正恩の名前も削除され「党中央」に置き換えられているが、金正恩の権力が弱体化したわけではなく、個人崇拝を薄める狙いと見られる。

「現実直視」報道の定着を決定づけたのが、第8回党大会で先の大会で掲げた国家経済発展5カ年戦略の目標が「ほぼ全ての分野で著しく未達成」となったのを認めたことである。2020年は制裁の長期化に加えて、新型コロナウイルスの世界的な流行や台風の直撃など自然災害にも見舞われ、北朝鮮は深刻な経済的苦境に陥った。金正恩は開会の辞で「今回の党大会では総括期間に得た経験と教訓、犯した誤謬を全面的に深く分析、総括し、それに基づいて我々が実現することができ、必ず実現すべき科学的な闘争目標と闘争課題を確定しようと思う」[311]と述べた。現実を認めた上で問題解決のため、幹部らに対し実現可能な目標を立てるよう求めたのである。また、事業総括報告では「党事業を親人民的・親現実的な事業へと転換させるべき」

311 『労働新聞』2021年1月6日2面「朝鮮労働党第8回大会でした開会辞、金正恩」

[312]だとして、人民大衆第一主義と並んで「親現実的」対応を党の方針に掲げた。経済的な困窮がもはや隠し切れない現状では、現実とかけ離れた成果を強調しても自我を持つ人民大衆の信頼は得られない。現実を直視する報道は、最高指導者と人民大衆をつなぐ新たな関係性を示している。

一方、金正恩が現地指導の場などで見せてきた幹部らへの恫喝は、個々の幹部の役割と責任の明確化、幹部への役割分担強化へと発展した。2020 年 9 月には金正恩以外の幹部の現地指導が労働新聞 1 面で報じられ[313]、金正恩に代わって事実上の現地指導にあたることが増え始めた。新型コロナウイルスの感染防止の影響も考えられるが、2021 年に入ると幹部による「視察」は担当大臣や、地方幹部にも拡大[314]しており、幹部らの役割分担が更に進んでいる。2020 年 6 月以降は金正恩が会議を指導するのでなく、「司会」「参加」するようになり、会議の進行にも変化が現れた[315]。第 8 回党大会では政治局常務委員会の権限が拡大され、「重要問題の討議決定」や、金正恩以外の常務委員が会議を司会できるように党規約が改正された。最高指導者だけでなく党幹部にも、「最前線で自らの責任と本分を全う」[316]することが求められ、人民大衆第一主義の実践が徹底されたとみることができる。こうした動きが、金正恩に対する個人崇拝や独裁色を薄める方向につながるのか、或いは、金正恩が実務から離れ権威の象徴となっていく過程なのか[317]は、今後の推移を見極める必要があろう。

２．金正恩の映像活用の現状と方向性

以上で論じてきたように、北朝鮮の報道は金正恩時代に入って、北朝鮮社会の変化に合わせて世論を意識する形に変化し、体制の変革を防ぐ危機管理的な手段として機能してきたことが明らかになった。報道の変化を通じて金正恩は、人民大衆に自身の統治の正統性と権威を可視化して示すとともに、自我を持った人民大衆の意識に合うよう統治スタイルを変化させてきたのである。金正恩の統治スタイルの変化は、まず予兆的な形で現れ、人民大衆の反応を図りながら定着に至る傾向があることも確認された。例えば、現地指導での幹部叱責は伝統による権力補填期に初めて報じられ、続く後見人体制の崩壊と独自性醸成期には、金正恩が現地指導で幹部を恫喝し叱責する報道が定着した。金正恩は予定調和的な現地指導のスタイルを変え、幹部らを叱責し恫喝する指導者の姿を示すことで、人民大衆が持つ腐敗幹部に対する反感や怒りに応えたといえる。人民の支持や共感を取り付けるための手段として、報道が活用されたのである。独自性醸成期にみられた現実直視の対応や政策決定プロセスの公開といった報道の変化は、統治スタイルの確立期に入って一層進んだ。現実直視の対応は党が掲げた目標の未達成を

312『労働新聞』2021 年 1 月 9 日 1 面～6 面「我々式社会主義建設を新たな勝利に引導する偉大な闘争綱領、朝鮮労働党第 8 回大会でなさった敬愛する金正恩同志の報告について」

313 前掲、『労働新聞』2020 年 8 月 30 日 1 面（注 290）

314 朝鮮中央通信 2021 年 3 月 1 日「新浦魚缶詰工場が竣工、宋春變水産相が視察」、同 2021 年 3 月 1 日「平安南道老人ホームが竣工、党平安南道委員会のアン・グムチョル責任書記らが視察」

315 朝鮮中央通信 2020 年 6 月 8 日「朝鮮労働党中央委員会第 7 期第 13 回政治局会議」は金正恩が参加、司会したと報じられた。

316 前掲、朝鮮中央通信 2021 年 1 月 12 日報道（注 300）

317 前掲、伊豆見（2021）（注 286）

認めるに至り、恫喝による幹部への統制は個々の幹部の責任と役割分担の強化へと発展した。このように金正恩の統治スタイルの変化は、まず先触れの形で報道に現れた後、次の段階で定着に向かっている。このことからも、映像分析は北朝鮮の方向性を予測する上で重要な手段の一つということができる。

2019 年以降、米朝交渉が行き詰まり、制裁解除の見通しが立たなくなると、金正恩は白頭山に白馬で登頂し、金日成の抗日パルチザン活動を映像で再現した。米朝交渉の決裂と制裁の長期化に備え、白頭の血統という権力の「正統性」を改めて可視化することで、結束の強化を図ったのである。制裁解除の実現に失敗し、人民に一層の「苦難」を強いることになった金正恩は、危機感を高揚し危機克服を訴えることで、人民大衆の理解を得ようと試みた。白頭山の白馬登頂報道は、金正恩の業績や体制の優越性を内外に誇示するこれまでの報道に比べ、革命伝統への回帰という点で、極めて国内的かつ内向きのメッセージであった。さらに、2020 年には新型コロナウイルスによる国境封鎖と台風などの自然災害が重なり、北朝鮮の経済的苦境は一層深まった。北朝鮮はこの危機を金日成の抗日パルチザン闘争や 90 年代後半の大飢饉と同様に「苦難の行軍」と位置づけたことから、報道も国内向けに危機克服に重点を置く形に変更された。映像活用では、迅速な映像公開よりも編集によって演出効果を高め、愛国心や忠誠心を鼓舞することが重視された。民族の矜持や国民の自尊心を満たす演出を強化し、人民の支持を促す狙いがある[318]。例えば、2020 年 10 月 10 日の党創建 75 周年の軍事パレード[319]では、昼間ではなく真夜中に軍事パレードを実施し、演出効果を劇的に高めたうえで、生中継ではなく編集し加工した映像を翌日に放送した。内容的にも、金日成広場で愛国歌が初めて独唱され、国旗掲揚がショーアップされるなど[320]、愛国心や国家への矜持を喚起する演出が随所で強調された。

金正恩は 2019 年 3 月、党の初級宣伝活動家に対し「宣伝扇動活動を実感があり、大衆が自ら共感できるようにすることに思想教養事業の生命力がある」[321]と述べ、宣伝扇動の方針が「大衆の共感」を重視し、国内の結束を強化する方向に転換されたことを示した。

2021 年以降はショーアップ化がさらに進み、娯楽性が強化されている。国務院演奏団の所属歌手の新曲発表では、資本主義諸国のミュージックビデオのような映像が公開され、大々的に宣伝された[322]。娯楽化は軍事分野にも及び、2022 年 3 月の ICBM 火星 17 型発射の映像では、ハリウッド映画の予告編のような編集と演出がなされ注目を集めた[323]。これは、経済的苦境と国際的孤立により人民生活の困窮が続く中で、人民大衆に体制の優位性を宣伝すると同時に娯楽を与えることで、現状への不満を解消しようとするための試みといえよう。

---

318 坂井・平岩、前掲書（2017）、264 頁（注 170）

319 前掲、朝鮮中央テレビ 2020 年 10 月 10 日放送（注 297）

320 朝鮮中央通信、2020 年 7 月 10 日報道　金与正が談話の中で米国の独立記念日の DVD に言及。

321 『労働新聞』2019 年 3 月 12 日「[사설（社説）]참신하고 강력한 선전선동활동으로 온 나라를 들끓게 하자（斬新で強力な宣伝扇動活動で全国を沸騰させよう）」

322 拙稿「後頭部に巨大な絆創膏ベタリ…健康不安説くすぶる金正恩氏の“韓流”封じ込め作戦」（FNN プライムオンライン 2021 年 8 月 11 日）、https://www.fnn.jp/articles/-/222494（2022 年 7 月 9 日確認）

323 朝鮮中央テレビ 2022 年 3 月 25 日「주체조선의 절대적힘, 군사적강세 힘있게 과시 신형대륙간탄도미싸일시험발사 단행, 경애하는 김정은동지께서 대륙간탄도미싸일《화성포-17》형 시험발사를 지도하시였다（主体朝鮮の絶対的力、軍事的強勢力強く誇示、新型大陸間弾道ミサイル試験発射断行、敬愛する金正恩同志が大陸間弾道ミサイル《火星砲－17》型試験発射を指導なさった）」

経済的苦境と国際的孤立が長期化する中で、北朝鮮が最も懸念するのは青年層の動揺である。2020 年 12 月には最高人民会議で、海外のドラマや映画、音楽などを視聴したり、流布したりした場合、死刑などの厳罰に処す「反動思想文化排撃法」が採択された[324]。翌 2021 年、金正恩は社会主義愛国青年同盟に送った書簡の中で、「今の青年世代は国が試練を経ていた苦難の時期に生まれ育ったため、朝鮮式社会主義の真の優越性に対する実際の体験やイメージに欠けており、はなはだしくは一部間違った認識まで持っている」として、青年層の間に非社会主義的な風潮が広まっていることに強い危機感を示した[325]。さらに、反社会主義・非社会主義的行為との闘争を通じて、青年らの不正常な動向や異質な生活風潮が浸透できる隙をなくすよう呼びかけた。1990 年代の「苦難の行軍」時期に青年同盟に不祥事が発生したように、青年層への統制の弛みが体制崩壊につながるとの強い警戒感が窺える。既述のように 1980 年代後半から 1990 年代に生まれた「장마당（チャンマダン：市場）」世代と呼ばれる人々は、国家の配給や社会主義経済体制の恩恵を知らず、市場の広がりの中で育った。このため、前世代に比べ、党や国家に対する忠誠心が希薄で、自分の生活を優先しようとする傾向が強いとされる[326]。チャンマダン世代を取り込むため金正恩は、統制強化の一方で、国内の宣伝扇動に資本主義的な手法を取り入れ、北朝鮮的な価値観に対する「共感」の獲得を図ろうと試みていると考えられる。

米朝交渉の決裂以降、北朝鮮は 2018 年 4 月から続けてきた核実験や ICBM 発射のモラトリアム（一時中断）を止め、戦略兵器の開発を継続する姿勢を明らかにした[327]。そして 2021 年 9 月から 10 月にかけ、新型の長距離巡航ミサイルや鉄道軌道ミサイル、極超音速ミサイル、新型の SLBM など、新たな技術を応用した各種ミサイル実験を相次いで実施した。この時期の発射実験で動画が公開されたのは鉄道軌道ミサイル発射[328]のみで、他は写真にとどまった。金正恩の立ち合いも極超音速ミサイル発射実験成功[329]など、重要成果を挙げた場合に限定される傾向にある。これまでの業績誇示的な映像活用とは異なり、ミサイル発射実験を自衛のための国防力強化の一環と位置づけ公開の対象を絞っている。その後も、アメリカとの交渉が長期化することを想定し、2021 年 1 月の党大会で提示した「国防科学発展および兵器システム開発五カ年計画」に沿って、超大型核弾頭の生産や水中および地上の固体エンジン ICBM の開発、原子力潜水艦と水中発射核戦略兵器の保有など戦略兵器の開発を進めている[330]。

---

324 2020 年 12 月 5 日朝鮮中央通信、北朝鮮は最高人民会議常任委員会第 14 期第 12 回会議で反動思想文化排撃法を採択し、韓国ドラマなどの視聴や流布に対し最高懲役 15 年とするなど取り締まりを強化した。

325 前掲、朝鮮中央通信 2021 年 4 月 30 日報道、わが民族同士日本語版「金正恩総書記が青年同盟第 10 回大会に書簡」http://www.uriminzokkiri.com/index.php?lang=jpn&ptype=cfonew&mtype=view&no=34355　（2022 年 7 月 9 日確認）

326 城内康伸『金正恩の機密ファイル』、（小学館、2020）、75 頁

327 『労働新聞』2020 年 1 月 1 日報道

328 朝鮮中央テレビ 2021 年 9 月 16 日「20 時報道」放送、「박정천비서 철도기동미싸일련대의 검열사격훈련 지도（朴正天書記が鉄道軌道ミサイル連隊の検閲射撃訓練指導）」

329 朝鮮中央テレビ 2022 年 1 月 12 日「주체적국방공업령도사에 아로새긴 조선로동당의 빛나는 공적 또다시 만천하에 과시, 극초음속미싸일시험발사에서 련속성공（主体的国防工業領導史に刻まれた朝鮮労働党の輝ける功績、再び満天下に誇示、極超音速ミサイル試験発射に連続成功） 경애하는 김정은동지께서 극초음속미싸일시험발사를 현지에서 참관하시였다（敬愛する金正恩同志が極超音速ミサイル試験発射を現地で参観なさった）」

330 朝鮮中央通信 2021 年 9 月 29 日報道

問題は非核化をめぐる対米交渉と人民大衆第一主義の両立が極めて困難なことである。北朝鮮経済は 2016 年までは成長基調にあったが、その後は国連の制裁強化によって落ち込みが続き、さらに新型コロナウイルスが追い打ちをかけた[331]。金正恩は 2012 年、初の肉声演説で「人民が二度とベルトを締めあげない（飢えない）ようにする」[332]と誓ったが、その誓いは 10 年経った今も果たされていない。金正恩は核ミサイル能力や国際社会での北朝鮮の位相が向上したと宣伝し、愛国心や忠誠心を鼓舞する国内プロパガンダを強化して、人民の支持をつなぎとめようと努めている。だが、人民の支持獲得には思想統制や自力更生の強化だけでは限界があり、人民大衆第一主義を真に実現するためには経済再建が必須である。金正恩の「現実直視」の対応はこれまで体制に不利益にならない、体制維持を揺るがすことのない事象に限られ、対米交渉や核ミサイル開発の分野には及んでこなかった。しかし、北朝鮮の国民が核ミサイル開発の「成果」だけでは納得せず、制裁や国際社会における孤立という負の側面に対しても「現実直視」の対応を求めるようになれば、金正恩はいずれかの時点で方針転換を迫られることになろう。金正恩政権でメディアが危機管理的に活用されてきたことを考えれば、世論が体制変革を求める方向に変わる危険性が生じた場合、対応が変化する可能性もゼロではない。その意味で今後も北朝鮮社会と報道の変化を注視する必要がある。また、党の指導と幹部への役割分担強化が進む中で、北朝鮮の政権運営が金正恩が最終決定権を持つ形での集団指導体制の方向に向かうのか、或いは金正恩が実務を離れた象徴的な権威となっていくのかについては、今後の推移をさらに見守る必要がある。

本研究では「20 時報道」の量的変化の分析を手作業で行ったため、項目やカテゴリの設定に限界があった。ＡＩの画像解析などを活用したより多角的で、中長期的な分析が実施されれば、より有益な情報の収集や、予見性の向上が期待できる。また、映像の受け手である北朝鮮住民の受容態度やプロパガンダの浸透度については、文化面などにも対象を広げて分析する必要があろう。今後の課題としたい。（了）

参照文献

《日本》

磯崎敦仁「金正日先軍政治の本質」（小此木政夫編『危機の朝鮮半島』慶応義塾大学出版会、2006 年

同「独裁体制に大きな変化　北朝鮮が「金正恩個人支配」から「集団指導体制」へ移行する兆し？」エコノミスト、2020 年

同・澤田克己『新版　北朝鮮入門　金正恩体制の政治・経済・社会・国際関係』、東洋経済新報社、2017 年

331 前掲、韓国銀行統計（注 225）

332 朝鮮中央テレビ 2012 年 4 月 15 日報道 （注 123）

同･澤田克己「核実験によって権威付けを図る金正恩氏 全核実験を振り返り、金正日時代との違いを読み取る」WEDGE Infinity、2017 年 9 月 9 日、https://wedge.ismedia.jp/articles/- /10556
伊豆見元『北朝鮮で何が起きているのかー金正恩体制の実相』、筑摩書房、2013 年
同「朝鮮労働党第 8 回党大会の注目点」（日本国際問題研究所研究リポート、2021 年 3 月 29 日）、https://www.jiia.or.jp/research-report/post-82.html
伊藤亜人『北朝鮮人民の生活―脱北者の手記から読み解く実相』、弘文堂、2017
伊藤高史「外交政策とメディア、あるいは CNN 効果:「政策:メディア相互行為モデル」の北朝鮮拉致事件におけるメディア:日本政府間関係への応用」. 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』56 号, 101-114 頁、2006 年
井上康弘「メディアリテラシー」、日本評論社、2004 年
岩本卓也「体制危機への北朝鮮の対応－内政的文脈から」、小此木政夫編『危機の朝鮮半島』慶応義塾大学出版会、2006 年
大澤文護「金正恩体制形成と国際危機管理への影響、 及び日本の対処方策 －労働新聞の動静報道、脱北者インタビュー分析を基にした考察－」千葉科学大学博士論文、2017 年
小此木政夫・徐大粛監修、鐸木昌之・坂井隆・古田博司 『資料 北朝鮮研究』Ⅰ政治・思想 慶応義塾大学出版会、1998 年
小此木政夫編『危機の朝鮮半島』、慶応義塾大学出版会、2006 年
小此木政夫・文正仁・西野純也編著『転換期の東アジアと北朝鮮問題』、慶應義塾大学出版会、2012 年
小田 健『現代ロシアの深層』、日本経済新聞社、2010 年
拙著『テレビに映らない北朝鮮』、平凡社新書、2018 年
同「後頭部に巨大な絆創膏ベタリ…健康不安説くすぶる金正恩氏の“韓流”封じ込め作戦」FNN プライムオンライン、2021 年 8 月 11 日、https://www.fnn.jp/articles/-/222494
川上和人『北朝鮮報道』、光文社新書、2004 年
金京煥「韓国・北朝鮮首脳会談に関するテレビ報道の内容分析」. 『マス・コミュニケーション研究』59 巻, p.138-150、2001 年
木村 洋二･ 板村 英典･ 池信 敬子「『拉致』問題をめぐる 4 大新聞の荷重報道 ： 多元メディアにおける「現実」の相互構築をめぐって」『関西大学社会学部紀要』35 巻 3、89-121 頁, 2004 年
小泉 悠『現代ロシアの軍事戦略』、ちくま新書、2021 年
崔銀姫・申相玉『闇からの谺―北朝鮮の内幕』、文春文庫、1989 年
坂井隆・平岩俊司『独裁国家・北朝鮮の実像 核・ミサイル・金正恩体制』、朝日新聞出版、2017 年
鐸木昌之『北朝鮮 社会主義と伝統の共鳴』、東大出版会、1992 年
同『北朝鮮 首領制の形成と変容 金日成、金正日から金正恩へ』、明石書店、2014 年
同「先軍政治とポスト金正日」『現代韓国朝鮮研究』第 7 号、Ⅰ-8 頁、2007.12
同、平岩俊司･倉田秀也編『朝鮮半島と国際政治 冷戦の展開と変容』慶応義塾大学出版会、2005 年
島崎哲彦・米倉律編著『新放送論』、学文社、2018 年

城内康伸『金正恩の機密ファイル』、小学館、2020 年
田中則広「日・韓・朝のテレビニュースが伝えた「３・１独立運動」100 周年」『淑徳大学人文学部研究論集』5, 27-39 頁、2020 年
東京大学出版会『超大国・中国のゆくえ５』、東京大学出版会、2016 年
NHK 放送文化研究所「中国、機構改革で中央テレビなど 3 局合併へ」、『放送研究と調査』、2018 年 5 月号
西岡省二『音楽狂の国　将軍様とそのミュージシャンたち』、小学館、2015 年
平井久志『なぜ北朝鮮は孤立するのか　金正日破局へ向かう「先軍体制」』、新潮社、2010 年
同『北朝鮮の指導体制と後継－金正日から金正恩へ』、岩波書店、2011 年
同「金正恩執権 4 年目（2015 年）の国内政治について」. 国際問題研究所『朝鮮半島情勢の総合分析と日本の安全保障』、2016 年
https://www2.jiia.or.jp/pdf/research/H27_Korean_Peninsula/02-hirai.pdf
同「朝鮮労働党の規約改正について」（日本国際問題研究所研究リポート、2021 年 8 月 5 日）、https://www.jiia.or.jp/research-report/korean-peninsula-fy2021-01.html
平岩俊司『北朝鮮－変貌を続ける独裁国家』、中央公論新社、2013 年
同『北朝鮮はいま、何を考えているのか』、NHK 出版、2017 年
同「北朝鮮の内政と対外政策　金正恩体制の構造と国際関係」『国際問題』614 号、2012 年 9 月、33 頁
藤野彰編『現代中国を知るための 52 章』、明石書店、2018 年
三村光弘『現代北朝鮮経済－挫折と再生への歩み』ERINA 北東アジア研究叢書 6、日本評論社、2017
同「鮮民主主義人民共和国の経済重視政策-金正恩時代の始まりから朝鮮労働党中央委員会第７期第５回総会まで-」『ERINA REPORT（PLUS）』154 号、環日本海経済研究所、2020、2-6 頁
同「朝鮮労働党第 8 回大会および関連会議と国家経済発展 5 カ年計画」『ERINA REPORT（PLUS）』159 号、環日本海経済研究所、2021、3－23 頁
室岡鉄夫「日本における北朝鮮研究－20 世紀最後の 10 年間を中心に一」『現代韓国朝鮮研究』創刊号、23-32 頁、2001 年
森類臣「金正恩時代の音楽政治　牡丹峰楽団を中心に」『現代韓国朝鮮研究』第 18 号 34 - 52 頁、2018.11
山下英愛「北朝鮮のテレビ放送導入に関する一考察：インフラの形成とコンテンツを中心に」『言語と文化』文教大学, 113-132 頁、2020 年
李光鎬「ふたつの「北朝鮮」――日本と韓国の TV ニュースにおける北朝鮮報道の内容分―」、『慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』56 号、59-71 頁、2006 年
和田春樹『北朝鮮――遊撃隊国家の現在』、岩波書店、1998 年
和田春樹『金日成と満州抗日戦争』、平凡社、1992 年

防衛省編『令和 3 年版防衛白書』
ラヂオプレス『北朝鮮政策動向』

《北朝鮮》
김일성(2007), 『김일성전집 72』, 평양: 조선로동당출판사.
김일성(2008), 『김일성전집 75』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1992), 『김정일선집 1』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1993), 『김정일선집 2』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1994), 『김정일선집 3』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1994), 『김정일선집 4』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1995), 『김정일선집 6』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1996), 『김정일선집 7』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(1997), 『김정일선집 10』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일(2005), 『김정일선집 15』, 평양: 조선로동당출판사.
김정일『주체혁명위업의 완성을 위하여』第1巻
백과사전출판사(1999), 『조선대백과사전 10』, 평양: 백과사전출판사.
백과사전출판사(2000), 『조선대백과사전 19』, 평양: 백과사전출판사.
백과사전출판사(2011), 『광명백과사전 7: 교육·언어·출판보도』, 평양: 백과사전출판사.
조선중앙방송위원회(1985), 『방송리론』, 평양: 조선중앙방송위원회.
조선로동당출판사편(2017), 『조선로동당 력사 1』(증보판), 평양:조선로동당출판사.
조선로동당출판사편(2018), 『조선로동당 력사 2』(증보판), 평양:조선로동당출판사.
조선로동당출판사편(1962), 『인민들 속에서 1, 2, 3』, 평양: 조선로동당 출판사.

チュチェ思想国際研究所編『金正恩著作集1』、白峰社、2014
チュチェ思想国際研究所編『金正恩著作集2』、白峰社、2017
朝鮮新報2012年5月8日、9日付
朝鮮新報2012年7月19日付

『로동신문』, 2002년 9월 17일자.
『로동신문』, 2006년 10월 10일자.
『로동신문』, 2012년 6월 2일자.
『로동신문』, 2012년 9월 7일자.
『로동신문』, 2013년 12월 9일자.
『로동신문』, 2013년 12월 11일자.
『로동신문』, 2013년 12월 13일자.
『로동신문』, 2014년 5월 18일자.
『로동신문』, 2017년 7월 5일자.
『로동신문』, 2017년 10월 9일자.
『로동신문』, 2017년 12월 18일자.
『로동신문』, 2019년 3월 12일자.
『로동신문』, 2019년 10월 18일자.
『로동신문』, 2020년 1월 1일자.

『로동신문』, 2020 년 5 월 20 일자.
『로동신문』, 2020 년 8 월 30 일자.
『로동신문』, 2021 년 1 월 6 일자.
『로동신문』, 2021 년 1 월 9 일자.

『조선중앙통신』, 2006 년 10 월 10 일자.
『조선중앙통신』, 2009 년 5 월 25 일자.
『조선중앙통신』, 2011 년 2 월 26 일자.
『조선중앙통신』, 2011 년 12 월 31 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 3 월 16 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 4 월 8 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 4 월 11 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 4 월 13 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 4 월 15 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 5 월 4 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 5 월 9 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 5 월 25 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 5 월 31 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 7 월 7 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 7 월 16 일자.
『조선중앙통신』, 2012 년 7 월 25 일자.
『조선중앙통신』, 2013 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2013 년 10 월 13 일자.
『조선중앙통신』, 2013 년 12 월 13 일자.
『조선중앙통신』, 2013 년 12 월 31 일자.
『조선중앙통신』, 2014 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2014 년 2 월 26 일자.
『조선중앙통신』, 2014 년 5 월 18 일자.
『조선중앙통신』, 2014 년 10 월 14 일자.
『조선중앙통신』, 2015 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2015 년 5 월 19 일자.
『조선중앙통신』, 2015 년 10 월 30 일자.
『조선중앙통신』, 2016 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2016 년 2 월 24 일자.
『조선중앙통신』, 2016 년 5 월 10 일자.
『조선중앙통신』, 2017 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2017 년 5 월 15 일자.
『조선중앙통신』, 2017 년 9 월 22 일자.
『조선중앙통신』, 2017 년 11 월 29 일자.

『조선중앙통신』, 2018 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2018 년 2 월 10 일자.
『조선중앙통신』, 2018 년 6 월 12 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 2 월 27 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 2 월 28 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 3 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 3 월 9 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 10 월 16 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 10 월 17 일자.
『조선중앙통신』, 2019 년 12 월 4 일자.
『조선중앙통신』, 2020 년 1 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2020 년 6 월 8 일자.
『조선중앙통신』, 2020 년 7 월 10 일자.
『조선중앙통신』, 2020 년 8 월 20 일자.
『조선중앙통신』, 2020 년 10 월 10 일자.
『조선중앙통신』, 2020 년 12 월 5 일자.
『조선중앙통신』, 2021 년 1 월 6 일자.
『조선중앙통신』, 2021 년 1 월 10 일자.
『조선중앙통신』, 2021 년 1 월 12 일자.
『조선중앙통신』, 2021 년 3 월 1 일자.
『조선중앙통신』, 2021 년 4 월 30 일자.
『조선중앙통신』, 2021 년 9 월 29 일자.

『조선중앙 TV』, 2006 년 10 월 10 일
『조선중앙 TV』, 2009 년 5 월 25 일
『조선중앙 TV』, 2011 년 12 월 28 일
『조선중앙 TV』, 2012 년 4 월 13 일
『조선중앙 TV』, 2012 년 4 월 15 일
『조선중앙 TV』, 2012 년 5 월 9 일
『조선중앙 TV』, 2012 년 7 월 7 일
『조선중앙 TV』, 2012 년 7 월 9 일
『조선중앙 TV』, 2012 년 7 월 11 일
『조선중앙 TV』, 2013 년 10 월 17 일
『조선중앙 TV』, 2013 년 12 월 9 일
『조선중앙 TV』, 2013 년 12 월 13 일
『조선중앙 TV』, 2014 년 7 월 8 일
『조선중앙 TV』, 2014 년 9 월 9 일
『조선중앙 TV』, 2014 년 9 월 25 일

『조선중앙 TV』, 2014 년 10 월 14 일
『조선중앙 TV』, 2014 년 11 월 11 일
『조선중앙 TV』, 2015 년 5 월 19 일
『조선중앙 TV』, 2014 년 6 월 5 일
『조선중앙 TV』, 2014 년 12 월 30 일
『조선중앙 TV』, 2015 년 10 월 10 일
『조선중앙 TV』, 2016 년 1 월 6 일
『조선중앙 TV』, 2016 년 2 월 7 일
『조선중앙 TV』, 2016 년 5 월 6 일
『조선중앙 TV』, 2016 년 5 월 7 일
『조선중앙 TV』, 2016 년 5 월 8 일
『조선중앙 TV』, 2016 년 5 월 9 일
『조선중앙 TV』, 2017 년 5 월 15 일
『조선중앙 TV』, 2017 년 5 월 22 일
『조선중앙 TV』, 2017 년 7 월 4 일
『조선중앙 TV』, 2017 년 9 월 3 일
『조선중앙 TV』, 2017 년 11 월 29 일
『조선중앙 TV』, 2017 년 11 월 30 일
『조선중앙 TV』, 2018 년 6 월 11 일
『조선중앙 TV』, 2018 년 6 월 12 일
『조선중앙 TV』, 2018 년 6 월 13 일
『조선중앙 TV』, 2018 년 6 월 14 일
『조선중앙 TV』, 2019 년 3 월 6 일
『조선중앙 TV』, 2019 년 7 월 1 일
『조선중앙 TV』, 2019 년 7 월 2 일
『조선중앙 TV』, 2019 년 10 월 16 일
『조선중앙 TV』, 2019 년 12 월 4 일
『조선중앙 TV』, 2020 년 1 월 10 일
『조선중앙 TV』, 2020 년 9 월 1 일
『조선중앙 TV』, 2020 년 10 월 10 일
『조선중앙 TV』, 2021 년 1 월 6 일
『조선중앙 TV』, 2021 년 1 월 9 일
『조선중앙 TV』, 2021 년 1 월 12 일
『조선중앙 TV』, 2021 년 9 월 16 일
『조선중앙 TV』, 2022 년 1 월 12 일

로동신문 http://www.rodong.rep.kp/ko/
조선중앙통신 http://www.kcna.kp
우리 민족끼리 http://www.uriminzokkiri.com

조선의 오늘 https://dprktoday.com
NEW DPRK https://www.youtube.com/channel/UCktAYwdwHNQn4Jqwbf8i_pg
Pyongyang Broadcast Service - D.P.R.K of Korea
https://www.youtube.com/channel/UCNaH2TGwop7CHZvnj0t3yjA

《韓国》
강현두(1997), 『북한 매스미디어론』, 서울: 나남출판.
고유환(1994), "김정일의 주체사상과 사회주의론", 『북한의 사상과 정치』,서울: 동국대학교 안보연구소.
고유환·이주철·홍민 (2012) 『북한 언론 현황과 기능에 관한 연구』、한국언론진흥재단
김영주(1998), 『현대북한 언론연구』, 서울: 경남대학교출판부.
김영주(1999), 『현대북한 언론의 이해』, 서울: 한울아카데미.
김종수 (2013) 「북한 김정은 시대 청년동맹 연구」통일정책연구 제22권 2호
김창완·임동민·김태은·서소영(2019)『북한 방송통신 이용실 조사』,정보통신정책연구원
박우용(2004), 『북한방송총람』, 서울: 커뮤니케이션북스.
백학순(2017),「김정은의 외교·안보·통일 리더십」、정성장·백학순·임을출·전영선『김정은 리더십 연구』,서울:세종연구소.
백학순(2015),『김정은 시대의 북한정치 2012～2014 사상·정체성·구조 』、서울:세종연구소.
북한연구소(1983), 『북한총람』, 서울: 북한연구소.
북한연구소(1994), 『북한총람』. 서울: 북한연구소.
송승섭(2011), 『북한 자료의 수집과 활용』, 서울: 한국학술정보.
유선영(2000), 『북한 언론: 조직특성과 언론별 현황』, 서울: 한국언론재단.
유재천 편(1989), 『북한의 언론』, 서울: 을유문화사.
이정철(2011), 『북한 주민의 언론과 사회에 대한 이해』, 서울: 한국언론진흥재단.
이주철(2012), 『북한의 텔레비전 방송 - 텔레비전 정치와 인민의 갈등』, 한국학술정보.
이호규·곽정래(2011), 『북한의 사회적 커뮤니케이션 구조와 미디어』, 한국언론진흥재단.
이희은(2016),「김정은 시기 조선중앙 TV 연구: 20 시 보도를 중심으로」、『통일과 방송』、서울:KBS 남북교류협력단、2016 년제 5 호, 91－127.
장해성(1999), 「북한의 언론 및 방송의 개혁개방 방안」, 북한조사연구, 2,2.
정교진 (2020) ,「북한 김정은의 정치행위-지도자상 연동성 분석:김정은의 비핵화의지 여부 검토를 중점으로」『국가전략』, 제 26 권 1 호 2020 년봄호, 서울:세종연구소.
정성장(2021),「북한 노동당 규약 개정, 어떻게 볼 것인가- 당의 운영과 지도이념 및 통일정책 변화 평가 - 」『북한 노동당 규약 개정, 어떻게 볼 것인가』자료집,대한민국국회
정성장·백학순·임을출·전영선(2017)『김정은 리더십 연구』, 서울:세종연구소.
통일성 국립통일교육원 (2021) 『북한 지식사전』

홍민(2006), 「북한의 '관계자본' 교환구조와 시장교환의 전유」, 『현대북한연구』 제 9 권 3 호.
홍민(2011), 「북한 주민의 일상생활과 인권의 사회적 구성」, 『북한학연구』
황성진·공영일·홍현기·박상주(2009),『북한 방송통신부문 및 남북방송통신 교류협력 현황 보고서』,정보통신정책연구원.

국가정보원편 (2012) 『北韓法令集.下:2012.10』、서울:국가정보원.
국가정보원편 (2021) 『北韓法令集.上:2020.10』、서울:국가정보원.
통일부 북한자료센터 URL:https://unibook.unikorea.go.kr
통일부 북한정보포털 URL:https://nkinfo.unikorea.go.kr/nkp/theme/listNkTv.do
한국은행 북한 GDP 관련통계 https://www.bok.or.kr/portal/main/contents.do?menuNo=200091

『뉴데일리』, 2014 년 10 월 28 일자.
『시사 IN 』, 2012 년 7 월 26 일자.
『연합뉴스』, 2013 년 8 월 13 일자.
『연합뉴스』, 2013 년 12 월 13 일자.
『연합뉴스』, 2014 년 5 월 18 일자.
『연합뉴스』, 2015 년 8 월 12 일자.
『연합뉴스』, 2018 년 4 월 17 일자.
『연합뉴스』, 2019 년 12 월 4 일자.
『월간조선』, 2019 년 6 월호.
『조선일보』, 2019 년 10 월 16 일자.
『한겨레신문』, 2013 년 12 월 13 일자.
『YTN』, 2013 년 10 월 19 일자.

RFA : Radio Free Asia (自由アジア放送) 韓国語版 https://www.rfa.org/korean

《英文》
Bolton, John, *The Room Where It Happened :A White House Memoire*, Simon & Schuster,2020 (ボルトン,ジョン『ジョン・ボルトン回顧録 トランプ大統領との 453 日』,梅原季哉 (監訳) ,東京;朝日新聞出版社、2020)
Boynton, Robert S., *The Invitation-Only Zone: The True Story of North Korea's Abduction Project*, Farrar, Straus and Giroux ,2016,(ボイントン, ロバート,S.『招待所という名の収容所 北朝鮮による拉致の真実』、山岡由美(訳)、東京 : 柏書房、2017)
Cha, Victor, *The Impossible State*, Ecco. Kindle 版. of HarperCollins e-books.,2012
Cha, Victor and Kang, David., *Nuclear North Korea: A Debate on Engagement Strategies*, Columbia University Press. Kindle 版,2018
Cumings, Bruce, *Parallax Visions: Making Sense of American-East Asian Relations at the End of the Century*, Durham: Duke University Press, 1999

Cumings, Bruce, *Korea's Place in the Sun : A Mordan History*, New York: W.W.Norton& Company,1997
Demick, Barbara, *Nothing to Envy: Ordinary Lives in North Korea*, Random House; (September 21, 2010),(デミック、バーバラ『密閉国家に生きる―私たちが愛して憎んだ北朝鮮』、園部哲(訳)、中央公論新社、2011)
FEFFER, John, *North Korea's Nuclear Theater*, 38 North, DECEMBER 18, 2012, from https://www.38north.org/2012/12/jfeffer121712/
GÜVEN, Erdem, The Juche System and the DPR Korea Media as Official Mouthpiece of the Kim Family: Pyongyang Times Newspaper Website Analysis, *Global Media Journal* TR Edition, 10 (19) Güz 2019 Sayısı / Fall 2019 Issue
Head.S.W and Spann,T.,et al., *Broadcasting in America,ninth Edition*, Houghton.Mifflin Company,2001,409-410
Lim, Sora and Ko, Sunghwah, North Korean Leaders' Personality Reflection on Provocation Patterns:Narcissism and Fear ,*Journal of Contemporary Eastern Asia* Vol. 19, No. 2: 216-233
Lankov, Andrei, *The Real North Korea: Life and Politics in the Failed Stalinist Utopia*, Oxford University Press; 2013/4/10, (ランコフ,アンドレイ『北朝鮮の核心―そのロジックと国際社会の課題』山岡由美（訳）、みすず書房、2015 年)
McEachern, Patrick, *Inside the Red Box : North Korea's Post-totalitarian Politics*, New York: Columbia University Press, 2010
McCormack, Gavan, *Target North Korea: Pushing North Korea to the Brink of Nuclear Catastrophe*, (Nation Books, 2004), (マコーマック,ガバン『北朝鮮をどう考えるのか―冷戦のトラウマを越えて』吉永ふさ子(訳) 平凡社、2004 年)
Rich Timothy S., Deciphering North Korea's Nuclear Rhetoric: An Automated Content Analysis of KCNA News, *Asian Affairs: An American Review*, 39:73-89, 2012,Copyright C 2012 Taylor & Francis Group, LLC
Rüdiger, Frank, North Korea after Kim Jong Il: The Kim Jong Un era and its challenges, *The Asia-Pacific Journal / Japan Focus*,Volume 10 | Issue 2 | Number 2 | Jan 2012
Rüdiger, Frank, *North Korea's Ideology after April 2012: Continuity or Disruption?*, 38 North, MAY 9, 2012, from https://www.38north.org/2012/05/rfrank050912/
Williams, Martyn, *Thanks to YouTube, North Korea Has Just Become Even More Opaque*,38 North 2017.9.22, from https://www.38north.org/2017/09/mwilliams092217/
Williams, Martyn, *Manbang IPTV Service in Depth*, 38 North,2019.2.22, from https://www.38north.org/2019/02/mwilliams022219/
Williams, Martyn and Makowsky, Peter, *KCTV Brings New Perspectives to Pyongyang Construction Progress*, 38 North,2020.7.24 from https://www.38north.org/2020/07/pyongyang072420/

Williams, Martyn, *We Interrupt this Propaganda…A Dynamic 24 Hours on North Korean TV*,38 North, 2020.8.28, from https://www.38north.org/2020/08/mwilliams082820/
Williams, Martyn, *North Korea's Multi-Channel TV Age*, 38 North, 2020.12.16, from https://www.38north.org/2020/12/mwilliams121620/

38 NORTH　https://www.38north.org/
NORTKOREA TECH　https://www.northkoreatech.org/
NK NEWS　https://www.nknews.org/
RSF：REPORTERS WITHOUT BORDERS（国境なき医師団）　https://rsf.org

《中国》
『人民日報』2021年10月20日付